

独立行政法人日本芸術文化振興会の平成16年度に係る業務の実績に関する評価 全体評価

①評価を通じて得られた法人の今後の課題

- 上演芸術は出演者や演目に因るところが大きいと、制作者の企画能力のさらなる向上を期待する。
- 劇場施設の貸与については、より細やかな情報提供や運用の工夫に努め、利用がさらに促進されることを望む。
- 伝統芸能の継承及び現代舞台芸術の上演に関し、国の文化政策を担う最重要拠点として、創造的な活動展開のための不断の工夫と充実を期待する。
- 民間芸術団体等との連携や地方における上演に関し、一層の工夫と充実を期待する。
- 効率化を図ることは大切だが、利益追求の先行が企画制作の妨げとなり、上演芸術の水準が低下しないよう留意すべきである。

②法人経営に関する意見

- 理事長の主導によるトップマネジメントが一層徹底され、業務運営の効率化の推進に資している。組織全体の見直しや職員の意識改革を通じ、法人としての意識の変化が明確になった。託児施設の創設、チケット販売方法の改革、劇場施設の点検等、利用者の立場に立った改善、費用の削減努力と自己収入の拡大による利益の計上などの成果を高く評価する。
- 財務に関しては、今後とも外部資金の確保に向けた努力を期待する。
- 国立劇場、新国立劇場の運営のため、組織、人員、人件費の比率等を諸外国の類似機関と比較検討することは有意義であり、自ら行われることを期待する。
- 外部有識者による評価については、経済的・人的コストや新国立劇場の芸術監督制との整合性にも留意して実施することが望ましい。

③特記事項(中期目標期間終了時の見直し作業、総務省からの指摘についての対応等)

- 総務省からの指摘の一つである芸術文化振興基金の助成効果については、実績報告書の分析整理を行うとともに会計調査、公演等調査の件数が増加するなど一定の成果を認める。
- 新国立劇場の運営の外部委託については、委託先の財団で組織した支援協議会(構成員は民間人を起用)による多額の寄付金等の募集活動により、国費投入を削減している効果があると評価する。
- 委託による業務運営の効率化をよりの確に評価するため、次年度の評価時に、委託先における効率化状況を比較検討するためのデータの提出を望む。

独立行政法人日本芸術文化振興会の平成16年度に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表

項目名	中期目標期間中の評価の経年変化※					項目名	中期目標期間中の評価の経年変化※				
	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
(大項目名) 業務運営の効率化	A	A				(小項目名) 大衆芸能(寄席囃子、太神楽)	A	A			
(中項目名) 業務運営の効率化状況	A	A				(小項目名) 能楽(ワキ、狂言、囃子)	A	A			
(小項目名) 効率化に関する施策	A	－				(小項目名) 文楽(大夫、三味線、人形)	A	A			
(中項目名) 組織機構の在り方の検討状況	－	A				(小項目名) 組踊(立方・地方)	A	B			
(小項目名) 組織機構の在り方の検討状況	A	－				(小項目名) 既成者研修	A	A			
(大項目名) 外部評価の実施、職員の意識改革	－	A				(小項目名) 伝統芸能伝承者養成に係る自己点検評価の実施	A	－			
(中項目名) 外部評価の実施、職員の意識改革	A	A				(中項目名) 現代舞台芸術の実演家の研修	A	A			
(小項目名) 外部評価の実施状況	A	A				(小項目名) オペラ研修	A	A			
(小項目名) 職員に対する研修の実施状況	A	A				(小項目名) パレエ研修	A	A			
(大項目名) 芸術文化活動に対する支援	A	A				(小項目名) 演劇研修	A	A			
(中項目名) 助成金の交付実施状況	A	A				(小項目名) 現代舞台芸術実演家研修に係る自己点検評価の	A	－			
(小項目名) 助成金の交付実施状況	－	A				(大項目名) 調査研究・資料の収集活用	A	A			
(小項目名) 助成金交付事務の効率化・簡素化状況	A	A				(中項目名) 伝統芸能関係	A	A			
(中項目名) 審査における透明性等を確保	A	A				(小項目名) 伝統芸能の調査研究	A	A			
(中項目名) 基金の管理運営	A	A				(小項目名) 伝統芸能の資料の収集・活用	A	A			
(中項目名) 実施状況等の調査、各種情報等の提供	－	A				(小項目名) 伝統芸能の調査研究等に係る自己点検評価の実	A	－			
(中項目名) 助成対象活動の実施状況等の調査	A	－				(中項目名) 現代舞台芸術関係	B	A			
(中項目名) 芸術団体等に対する各種情報等の提供	B	－				(小項目名) 現代舞台芸術の調査研究	A	A			
(小項目名) 助成対象活動の実施状況等の調査	－	B				(小項目名) 現代舞台芸術の資料の収集・活用	B	A			
(小項目名) 芸術団体等に対する各種情報等の提供	－	A				(小項目名) 現代舞台芸術の調査研究等に係る自己点検評価	B	－			
(小項目名) ホームページのアクセス状況	A	－				(大項目名) 劇場施設の利用	A	B			
(大項目名) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	A	A				(中項目名) 劇場施設の利用	A	B			
(中項目名) 伝統芸能の公開	A	A				(大項目名) 附帯する業務	A	A			
(小項目名) 歌舞伎	A	A				(中項目名) 教育普及事業の実施	A	A			
(小項目名) 文楽	A	A				(小項目名) 講座等の実施状況	A	－			
(小項目名) 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能ほか	A	A				(小項目名) 講座等の参加者数	A	－			
(小項目名) 大衆芸能	B	A				(小項目名) 講座等の参加者の満足度	A	－			
(小項目名) 能楽	A	A				(小項目名) 舞台芸術教材の作成状況	A	－			
(小項目名) 組踊等沖縄伝統芸能	A	A				(小項目名) 文化デジタルライブラリーへのアクセス状況	A	－			
(小項目名) 演目の拡充	B	A				(中項目名) 広報活動の充実	A	A			
(中項目名) 現代舞台芸術の公演	A	A				(小項目名) ホームページの掲載に要する期間	A	－			
(小項目名) オペラ	A	A				(小項目名) ホームページへのアクセス件数	A	－			
(小項目名) パレエ	A	A				(中項目名) 交流事業の実施	A	A			
(小項目名) 現代舞踊	A	A				(中項目名) 劇場利用者等へのサービスの向上	A	A			
(小項目名) 演劇	A	A				(小項目名) 会員数の確保	B	－			
(中項目名) 青少年等を対象とした公開・公演	－	A				(中項目名) その他(歌舞伎400年記念事業)	A	－			
(小項目名) 伝統芸能分野	A	A				(大項目名) 予算、収支計画及び資金計画	A	A			
(小項目名) 現代舞台芸術分野	－	A				(中項目名) 予算、収支計画及び資金計画	－	A			
(中項目名) 連携協力・地方における上演	－	A				(大項目名) 人事に関する計画	－	A			
(小項目名) 伝統芸能分野	A	A				(中項目名) 人事に関する計画	－	A			
(小項目名) 現代舞台芸術分野	B	B				(大項目名) 施設及び設備に関する計画	－	A			
(大項目名) 伝統芸能伝承者養成・現代舞台芸術実演家研修	A	A				(中項目名) 施設及び設備に関する計画	－	A			
(中項目名) 伝統芸能の伝承者の養成	A	A				(大項目名) その他振興会の業務運営に関し必要な事項(運営委	－	A			
(小項目名) 歌舞伎(俳優、音楽)	A	A				(中項目名) その他振興会の業務運営に関し必要な事項(運営委	－	A			

※当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

【参考資料1】予算、収支計画及び資金計画に対する実績の経年比較(過去5年分を記載)

(単位:百万円)

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
収入						支出					
運営費交付金	7,030	12,053				一般管理費	606	1,305			
施設整備費補助金	252	656				事業費	6,134	10,945			
公演事業収入	1,598	2,811				施設整備費	252	656			
公演受託事業収入	11	103				公演事業費	1,590	2,599			
基金運用収入	924	1,719				公演受託事業費	6	95			
諸収入	18	75				基金助成事業費	763	1,600			
計	9,833	17,417				計	9,351	17,220			

(単位:百万円)

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
費用						収益					
経常費用						運営費交付金収益	6,139	11,098			
国立劇場公演等事業費	3,924	6,995				事業収入	2,427	4,428			
新国立劇場公演等事業費	2,675	4,863				受託事業収入	11	103			
基金助成事業費	1,304	2,209				財産利用収入	29	63			
一般管理費	578	1,210				寄附金収益	0	1			
減価償却費	100	406				資産見返負債戻入	34	266			
財務費用	18	23				財務収益	79	206			
雑損失	4	1				雑益	29	55			
臨時損失	0	3				臨時利益	0	0			
計	8,603	15,710				計	8,748	16,220			
						純利益	145	510			
						目的積立金取崩額	0	0			
						総利益	145	510			

(単位:百万円)

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
資金支出						資金収入					
業務活動による支出	13,495	24,296				業務活動による収入	13,224	25,546			
投資活動による支出	6,319	11,320				運営費交付金による収入	7,030	12,053			
財務活動による支出	0	134				公演事業による収入	1,415	2,535			
翌年度への繰越金	2,784	2,487				基金運用による収入	924	56			
						公演受託事業による収入	41	1,719			
						その他の収入	3,814	9,183			
						投資活動による収入	4,609	9,906			
						施設整備費補助金による収入	252	412			
						その他の収入	4,357	9,494			
						財務活動による収入	0	1			
						前年度よりの繰越金	4,765	2,784			
計	22,598	38,237				計	22,598	38,237			

【参考資料2】貸借対照表の経年比較(過去5年分を記載)

(単位:百万円)

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
資産						負債					
流動資産	7,640	21,300				流動負債	1,900	1,776			
固定資産	251,828	236,274				固定負債	706	1,939			
						負債合計	2,606	3,715			
						資本					
						資本金	246,819	246,819			
						資本剰余金	9,761	6,248			
						利益剰余金	282	792			
						(うち当期末処分利益)	145	510			
						資本合計	256,862	253,859			
資産合計	259,468	257,574				負債・資本合計	259,468	257,574			

【参考資料3】利益(又は損失)の処分についての経年比較(過去5年分を記載)(単位:百万円)

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
I 当期末処分利益					
当期総利益	145	510			
前期繰越欠損金	0	0			
II 利益処分額					
積立金	145	-			
独立行政法人通則法第44条第3項 により主務大臣の承認を受けた額	0	-			

【参考資料4】人員の増減の経年比較(過去5年分を記載)

(単位:人)

職種※	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
定年制事務職員(管理系)	73	71			
定年制事務職員(事務系)	253	248			
	326	319			

※職種は法人の特性によって適宜変更すること

独立行政法人日本芸術文化振興会の平成16年度に係る業務の実績に関する評価

項目別評価

○評定基準について

- A：中期計画を十分に履行し、中期目標に向かって着実に成果を上げている。
B：中期計画をほぼ履行し、中期目標に向かって概ね成果を上げている。
C：中期計画を十分に履行しておらず、中期目標の達成のためには業務の改善が必要。
*特に優れた実績を上げた場合は、A+の評価を付すことができる。
その場合は、理由等を必ず記述する。
*部会として、業務改善の勧告が必要と判断される場合は、C-の評価を付すことができる。
その場合は、理由等を必ず記述する。

○複数の評定がある場合の調整

委員の協議により、評定を決定する。

○定性的評定等

評定を出すに至った背景や理由、改善すべき項目、目標設定の妥当性等を記述する。
原則として、Cの評定を受けた項目については、その理由及び改善点、要望点を記述する。

○一般管理費など事務的経費に係る効率化の評定基準

- A：13.5%以上の効率化を達成
B：13.0%以上13.5%未満の効率化を達成した場合
C：効率化13.0%未満の場合
*平成14年度予算を基準として中期計画目標中に13.0%以上の効率化を図る。

○事業費に係る1%以上の効率化の評定基準

- A：1.5%以上の効率化を達成した場合
B：1.0%以上1.5%未満の効率化を達成した場合
C：効率化1.0%未満の場合

I 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画の各項目	指標又は評価項目	評 定 基 準			指標又は評価項目に係る実績	評 定	
		A	B	C		段階的評定	定 性 的 評 定 等
1-1. 劇場利用者等へのサービスその他の業務の質の向上を考慮した業務運営の効率化	業務運営の効率化状況	〔振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する〕			1. 企画分析機能の強化 (1) 計画課の設置 平成15年度における検討結果をふまえ、法人運営の企画・分析機能強化のため、経理部に企画・立案、予算編成及び評価への対応を行う計画課を新たに設置し、計画の作成、資金の配分、評価の実施を効率的・効果的に進めた。 (2) 月次の業務実施状況報告の実施 引き続き、入場者数等数値目標の達成状況及び財務状況等を役員会において月次報告し、役員のトップマネジメントに不可欠な状況把握と適切な目標管理を行った。 (3) 4半期報告の実施 4半期毎に、上記の月次報告を取りまとめ、各部に対するヒアリング、計画に対する事業の進捗度の分析を行った上、役員へ報告するなど必要な対応を図った。 (4) 評価への対応 15事業年度の評価結果において指摘された意見等に対して、各部において対応を検討し、一部について16年度の事業に反映させるとともに、その他についても可能な限り17年度計画に盛り込んだ。 (5) 各施設における企画・分析機能の強化 能楽堂、文楽劇場の組織見直し、課の整理統合により、事業推進課を設け、各施設における企画・分析機能の強化を進めることとした。(17年度組織変更予定) 2. 情報システムの活用 (1) 館内LANの活用等 館内LANの活用により、業務上発信される事務連絡等のほとんどが電子化され、連絡事務の迅速化・効率化が図られた。 各部が継続的に保有する文書等を共有するため、総務部、経理部の内部ホームページを設置したが、新たに、芸能部・事業部・能楽堂部の3つの内部ホームページが新設され、各種規程や評価関係文書、月間スケジュール表等の情報が共有化され、業務の迅速化・効率化が図られた。 (2) 基幹業務システムの整備・活用 文書管理システム、人事・給与システム及び会計システム等、基幹業務システムの機能強化を行ったことにより報告資料の作成、辞令交付・給与事務等の業務の効率化が図られた。 人事異動等により新たに文書管理担当となった職員に対し、文書管理システム研修を行った。(12名) 3. 手続きの簡素化 (1) 決裁事務の簡素化 ① 文書専決規程の見直し 業務運営上の具体的な案件毎に権限の委譲について検討を進め、理事専決及び部長専決事項を大幅に増やすこととした。(担当理事専決事項1件→41件、担当部長専決事項28件→54件) ② その他決裁事務の簡素化 ・旅費規程の見直しにより、起案に必要な書類の削減・簡素化を行った。 ・個々の決裁書類について、起案部と関係部との合議等の必要性を見直し、決裁の簡素化に努めた。 (2) 事務手続きの簡素化の検討 ① 検討委員会の設置、検討の実施 振興会の中堅職員17名により「業務効率化等に関する検討会」を設置し、6回に渡り、日常業務における問題点及び対応策について検討を行った。 ② 成果 セキュリティ対策、会員優遇策、字幕導入、ボランティアの活用等10数項目についての検討結果を課長会へ報告するとともにそれら課題に対する方策を提案し、実施に向け検討を進めた。 (3) 施設使用規程の改正 ① 規程の統一 本館・演芸場、能楽堂、文楽劇場の各劇場の使用規程を統一し、各劇場の利用方法等の整理を行い、利用者の利便性の向上を図った。 ② 施設利用におけるその他の効率化、利便性の向上 ・施設利用業務のシステム化と貸与手続きの簡素化について検討を行った。 ・国立劇場の利用案内、施設案内、申し込み方法を分かり易くまとめたパンフレットを作成・配布し、施設利用者の利便性の向上に努めた。 4. 一般競争入札による外部委託の推進 (1) 外部委託の推進 ① 一般競争入札の推進 16年度の施設・設備管理業務については、業務実施上やむを得ないものを除き、一般競争入札により調達を行った。(契約金額300万円以上36件中32件で一般競争入札を実施) また、本館電話交換業務、文楽劇場警備業務、文楽劇場案内及び入場券販売業務の3件について、新たに一般競争入札を実施した。 ② 契約内容の見直し	A A	全般的に着実な成果が上がっているものと認められる。ペーパーレス化の推進、外部委託の推進、新チケット販売システムの導入で経費の節減を達成したことを評価した。計画課新設、事業推進課等の組織の見直し、情報システム整備、手続きの簡素化、外部委託、事務の一元化、新設の国立劇場おきなわの運営、機構の改変に着実な改善が見られる。事業費の効率化につき、目標「1%」を上回る「1.95%」をクリアしている。トップマネジメントの方向を今後も推進してほしい。 【より良い事業とするための意見等】 平成17年度から設置される芸能調査役の役割とその果たすべき機能が改革と結びつくことを期待する。 とくに省エネ・リサイクルの推進に改善が求められる。 企画・分析機能のさらなる強化の続行が望まれる。 情報システムの活用に見られるような組織内の連絡をさらに強化するとともに、規程の統一化、セキュリティ対策、ボランティア活用は早めの実践することが望ましい。 新チケット販売システムを考えた発想を他の領域にも活かして、劇場施設の利用についても、さらに有効なPRに努めるよう期待する。

- ・本館及び能楽堂の警備業務と伝統芸能情報館の受付業務を一括した業務委託として調達を行った。
- ・国立文楽劇場の警備業務と電話交換業務を一括した業務委託として調達を行った。
- ・本館の電話交換業務については、これまで一部職員が行っていた業務を含め、全面的な業務委託とした。
- ③ 次年度に向けての検討準備
17年度の業務委託についても同様に一般競争入札を推進した。とくに国立劇場と国立能楽堂における使用電力及び清掃業務について、政府調達方式による競争入札を実施し、契約の透明化、低価格化を進めた。
- (2) 外部委託による効率化の把握（電話交換業務に関する経費削減）
電話交換に係る経費のうち、人費について下記の通り約17百万円の経費削減効果があった。

年 度	経 費	金 額
15年度	職員人件費(福利費含む)	22,559,846円
	派遣職員経費	6,382,971円
		(計)28,942,817円
16年度	業務委託費	11,667,600円
	経費削減効果	△17,275,217円

- ※なお、電話交換業務の従事者（職員）については、他の業務の充実のため、適切な人事配置を行った。
- (3) 入札情報のホームページへの掲載等
引き続き振興会ホームページにおいて、以下の項目について掲載を行った。
 - ・競争入札参加に必要な資格について
 - ・競争入札参加資格有資格者一覧（随時更新）
 - ・入札情報（入札公告・落札公示 計109件）
また、国立劇場本館の入札公告の掲示を新事務棟玄関に集約し、入札希望者の利便性の向上、入札機会の拡大を図った。

5. 事務の一元化

- (1) 調達事務の一元化
 - ・17年に導入される新チケット販売システムに必要な本館、能楽堂、文楽劇場のハードウェアについて、一元的な調達を行った。
 - ・コピー用紙など一部の消耗品について、本館及び能楽堂で一括して調達を行った。
- (2) 施設・設備管理等の一元化
 - ・本館及び能楽堂の警備について、平成14年度より継続して一括した業務委託を実施した。
 - ・16年度より、上記の警備業務仕様に伝統芸能情報館の受付業務を含めて業務委託を実施した。
 - ・17年度より、警備、郵便業務、公用車の管理（以上総務部）、清掃、庭園の管理、防火管理（以上経理部）など、劇場の管理業務について、総務部総務課に管理室を設置し、一元的に実施することとした。
 - ・17年度より、国立劇場の全公演（国立劇場おきなわ、新国立劇場を除く）のチケット販売管理を、本館チケットセンターにおいて一括して行うため、新チケット販売システムの導入を進めた。

6. 省エネルギー、リサイクルの推進

- (1) 光熱水量の節減
 - ・省エネルギー委員会を設置し、全館レベルでの省エネルギー推進のための検討を行った。
 - ・照明器具の改修時における人感センサーの設置、省エネタイプの電球等の交換を促進した。
 - ・清掃作業時における劇場内照明の照度を落とすこととした。
 - ・引き続き、劇場用空調の適切な稼働時間の調整、劇場使用後の速やかな消灯を推進した。

事項	区分	使用量	前年度比
電 気	本館・演芸場	6,101,551kwh	0.96%
	能楽堂	855,610kwh	△13.04%
	文楽劇場	2,685,280kwh	0.17%
	合 計	9,642,441kwh	△0.68%
ガ ス	本館・演芸場	67,750m ³	11.15%
	能楽堂	87,994m ³	7.57%
	文楽劇場	221,745m ³	7.83%
	合 計	377,489m ³	8.31%
水 道	本館・演芸場	79,841m ³	△9.98%
	能楽堂	8,198m ³	△6.76%
	文楽劇場	22,162m ³	1.16%
	合 計	110,201m ³	△7.70%

- (2) 廃棄物の減量化
事務所部分におけるゴミ集積場所に可燃物、不燃物、ビン・缶、ペットボトルの各分別箱を設置し、分別を呼びかけた。

事項	区分	使用量	前年度比
一般廃棄物	本館・演芸場	181,480kg	0.95%
	能楽堂	9,963kg	14.82%
	文楽劇場	83,100kg	4.81%
	合 計	274,543kg	2.54%
利用廃棄物	本館・演芸場	67,550kg	8.97%
	能楽堂	6,852kg	14.39%
	文楽劇場	6,950kg	△24.13%
	合 計	81,352kg	5.46%
産業廃棄物	本館・演芸場	59,570kg	76.80%
	能楽堂	2,211kg	144.53%
	文楽劇場	0kg	△100.00%
	合 計	61,781kg	78.57%

- (3) ペーパーレス化
 - ・15年度に引き続き、館内LAN及びグループウェアソフト、内部ホームページの活用を促進し、各種事務連絡・通知、スケジュール管理等の大部分が電子化され、ペーパーレス化が進んだ。
 - ・会議資料等の両面コピーの奨励により用紙の使用量の削減を図った。
 - ・最小限のコピー使用、反古紙の再利用等職員の意識改善を徹底し、用紙の使用量の削減を図った。

事項	区分	使用量	前年度比
	本館・演芸場	1,795,500枚	△16.25%
	能楽堂	255,626枚	△16.32%

				<table><tr><td>コピー枚数</td><td>文楽劇場</td><td>286,960枚</td><td>△13.41%</td></tr><tr><td></td><td>合 計</td><td>2,338,086枚</td><td>△15.92%</td></tr><tr><td></td><td>うち管理関係</td><td>833,750枚</td><td>△15.95%</td></tr><tr><td></td><td>本館・演芸場</td><td>1,757,500枚</td><td>△24.39%</td></tr><tr><td>コピー用紙購入枚数</td><td>能楽堂</td><td>375,000枚</td><td>△12.28%</td></tr><tr><td></td><td>文楽劇場</td><td>331,500枚</td><td>△28.63%</td></tr><tr><td></td><td>合 計</td><td>2,464,000枚</td><td>△23.40%</td></tr></table> (4) グリーン購入法に基づいた調達チケット用紙等の特殊な仕様を除き、グリーン調達法に基づいた調達率がほぼ100%となっている。 【特記事項】 ・電気料金は、契約方法を変更したこと等により前年度比7,640千円経費を節約した。 ・水道料金は、使用量の減等により前年度比3,502千円経費を節約した。 ・廃棄物については、特に産業廃棄物の増加が見られるが、これは本館における託児室の開設等施設の改修工事が例年と比べ数多く行われたことにより、不要となった設備・備品の廃棄が行われたためである。 ・光熱水量は食堂・売店等施設利用業者の使用量は除いている。 7. 効率化対策に関する調査研究 (1) 劇場施設以外の施設の有効活用に関する検討 本館においては、会議室等の貸出しについて、業務効率化等に関する検討会における議論をふまえ、他の公共施設における会議室の使用料を調査した。振興会内部の会議室の利用頻度の高さを考え合わせ、貸出しの運用について検討を進めた。 能楽堂においては、大講義室をすでに外部に貸し出ししているが、会議室に大画面のモニターを設置し、能舞台の公演、大講義室の公開講座の中継及びVHSテープの鑑賞ができるようにすることで、養成研修や公演説明会など多目的な使用を図った。 (2) 外部からの利用実績 (国立能楽堂・大講義室) 出演関係者・一般の利用について、20件39時間の利用があった。 (国立劇場おきなわ・交流プラザ) 音響設備の充実により、会議等一般の利用について、5件10時間の利用があった。	コピー枚数	文楽劇場	286,960枚	△13.41%		合 計	2,338,086枚	△15.92%		うち管理関係	833,750枚	△15.95%		本館・演芸場	1,757,500枚	△24.39%	コピー用紙購入枚数	能楽堂	375,000枚	△12.28%		文楽劇場	331,500枚	△28.63%		合 計	2,464,000枚	△23.40%
コピー枚数	文楽劇場	286,960枚	△13.41%																													
	合 計	2,338,086枚	△15.92%																													
	うち管理関係	833,750枚	△15.95%																													
	本館・演芸場	1,757,500枚	△24.39%																													
コピー用紙購入枚数	能楽堂	375,000枚	△12.28%																													
	文楽劇場	331,500枚	△28.63%																													
	合 計	2,464,000枚	△23.40%																													
	一般管理費など事務的経費の効率化の達成率	13.5%以上	13.0%以上 13.5%未満	13.0%未満	効率化計数計算式 (A-B)÷A 【一般管理費の効率化の達成率】																											
					A:19年度一般管理費決算額																											
					B:14年度一般管理費予算額																											
					事業年度の評定は実施しない。																											
					中期目標最終年度において評定。																											
	事業費の効率化の達成率	1.5%以上	1.0%以上 1.5%未満	1.0%未満	【事業費の効率化の達成率】	A																										
					A: (当該年度事業費予算額 (退職手当を除く) - 当該年度特殊要因予算額 - 一次年度債務繰越額 + 前年度債務繰越額) ÷ 0.99																											
					B: (当該年度事業費決算額 (退職手当を除く) - 当該年度特殊要因決算額) ÷ (A - B) ÷ A = 0.019491 ⇒ 1.95%減 (単位: 円)																											
					A: (10,797,747,000 - 0 - 137,809,632 + 171,937,500) ÷ 0.99 = 10,941,287,745																											
					B: 10,728,027,217 - 0 = 10,728,027,217																											
1-2. 効率化の進捗状況をふまえた組織機構の検討	組織機構の在り方の検討状況	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する			1. 運営委託体制の検討	A																										
					(1) 組織機構の検討																											
					国立劇場おきなわに関する業務委託担当部署について、総務部国立劇場おきなわ担当室を廃止し、総務部総務課に担当係を置き、より迅速な意思決定と業務の遂行に努めた。																											
					(2) 各運営財団との連絡体制																											
					振興会と各運営財団との間で、定期的に委託業務内容の調整及び報告をするための指針づくりを行った。これにより、運営及び年度計画の実施に関する重要事項について毎月報告を受け、必要に応じて意見交換等を行い、委託事業の実施においてより良い成果が出せるよう調整を行った。																											
					2. 課の在り方の見直し、整理統合																											
					15年度に引き続き、人員配置について効率性と国民サービスの充実の視点から検討を進め、17年4月から以下の通り組織を変更することとした。この結果、従来の36課から1増3減の計34課体制となる。																											
					(1) 営業力の強化																											
					・国立劇場事業部を国立劇場営業部へ、能楽堂、文楽劇場の事業課を営業課へ改組し、公演事業における営業体制を明確にするとともに、国立劇場の営業担当者を増員する。																											
					・貸劇場担当部署として、営業部劇場課に施設利用室を設置し、施設利用を推進する。																											
					(2) チケットセンターの組織整備																											
					国立劇場、演芸場、能楽堂及び文楽劇場の入場券の販売管理を一元化するため、チケットセンターを組織上の「課」として設置し、責任体制を明確にするとともに、各館の人員配置を見直す。																											
					(3) 専門性の確保																											
					・調査養成部に、伝統芸能に関する調査を専門に行う芸能調査役を設置し、芸能調査の成果の充実と専門的な人材の確保を図る。																											
					・文楽劇場部舞台技術課に文楽技術室を設置し、文楽の首 (かしら)、鬘 (かつら)、衣装、小道具各部門の専門的技術の継承を図る。																											
					(4) 各施設における企画・分析機能の強化																											
					能楽堂、文楽劇場の組織見直し、課の整理統合により、事業推進課を設置し、各施設における事業運営と一体的な企画・分析機能の強化を進める。																											
					(5) 課の整理・統合、室の設置等																											
					・総務部人事課を総務課へ整理・統合																											
					・能楽堂及び文楽劇場の各調査養成課を事業推進課及び企画制作課へ整理・統合																											
					・総務部総務課に管理室を設置し、経理部契約課用度係を整理・統合																											
					(6) 係の整理・統合																											
					これまで業務内容に応じて細分化されていた各係の在り方を見直し、整理・統合を行い、従来の83係から70係に削																											

			減（△13係減）し、より効率的な人員配置を図る。				
2. 外部評価の実施、 職員の意識改革	外部評価の実施状況	（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）	1. 自己点検評価の実施（15事業年度の業務運営に関して） ・2月～3月 各公演専門委員会、事業委員会等において事業に対する意見聴取を実施 ・3月～4月 各部において自己点検評価を実施 ・4月～5月 計画課を中心に自己点検評価を取りまとめ ・5月20日 役員会において審議決定 ・5月～6月 自己点検評価に基づき、評価委員会において審議 ・6月28日 評議員会において審議決定 2. 評議員会・評価委員会の開催 【評議員会】 3 回開催：第3回（6/28）、第4回（9/21）、第5回（3/22） （議題等） ・15事業年度収支決算、15事業年度評価について審議、15事業年度評価結果について報告 ・15事業年度評価結果への対応について報告 ・16事業年度計画実施状況の報告 ・17年度計画について審議 等 【評価委員会】 4 回開催：第2回（4/23）、第3回（6/18）、第4回（6/25）、第5回（10/18） （議題等） ・15事業年度評価の実施 ・15事業年度評価結果の報告 等 （視察） ・11/6-7、11/27-28の2回に分けて、国立劇場おきなわの視察を実施 3. 各公演専門委員会、事業委員会、芸術文化振興基金運営委員会の開催 【公演専門委員会】 （議題等） ・16年度計画・公演事業計画についての説明 ・15事業年度評価結果の報告 ・16年度計画に対する公演事業の達成状況についての意見聴取 ・17年度計画についての説明 等 （開催状況） 歌舞伎（16年5月・17年3月）、文楽（本館：16年6月・17年3月、文楽劇場：16年4月・17年3月）、 舞踊（16年6月・17年3月）、邦楽（16年6月・17年3月）、雅楽・声明（16年6月・17年3月）、 民俗芸能（16年6月・17年3月）、短期公演（文楽劇場、16年4月・17年3月）、大衆芸能（16年4月・17年3月）、 能楽（17年2月・17年3月） 【事業委員会等】 （議題等） ・16年度計画についての説明 ・15事業年度評価結果の報告 ・16年度計画に対する事業の達成状況についての意見聴取 ・17年度計画についての説明 等 （開催状況） 養成事業委員会（16年9月・17年3月）、調査事業委員会（17年3月）、 新国立劇場調査事業専門委員会（16年12月・17年3月） （視察） ・養成事業委員会：既成者研修発表会（4回）、養成研修発表会・修了発表会（7回）の視察を実施 ・新国立劇場調査事業委員会：1/26に新国立劇場舞台美術センター（銚子市）の視察を実施 【芸術文化振興基金運営委員会】 3 回開催：第3回（9/14）、第4回（2/8）、第5回（3/31） （議題等） ・17年度助成活動の審査の附託 ・17年度助成活動の決定 ・改善意見についての審議 等 4. 評価への対応 15事業年度の評価結果において指摘された意見等に対して、各委員会等へ報告するとともに、各部において対応を検討し、一部について16年度の事業に反映させるとともに、その他についても可能な限り17年度計画に盛り込んだ。	A	A	A	全般的に着実な成果が上がっているものと認められる。研修人員の倍増に改善が見られ、理事長による職員研修、それに伴う職員の意識向上、外部評価の実施など適切な方法がとられている。外部の公演専門委員会と内部の自己点検がよく機能している。今後もさらに意識改革を進めていくことが望まれる。 【より良い事業とするための意見等】 外部有識者による評価については、経済的・人的コストや新国立劇場の芸術監督制との整合性にも留意して実施することが望ましい。 外部委員会の助言も重要だが、担当職員の専門的知識をもっと向上させる必要がある。 セクシャルハラスメントに関する意識啓発のため、関係する講習会にできる限り多くの職員を参加させることが望ましい。 今後の内・外部の点検評価が中期目標の数値に関わる達成を意識したものとなっており、
	職員に対する研修の実施状況	（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）	1. 内部研修を次のとおり実施した。 ・理事長による全職員業務研修（4日276人） ・新人職員研修（5日間11人） ・若手職員に対する公演制作・舞台業務研修（8日10人） ・中堅職員に対するフォローアップ研修（2日27人） ・マナー研修（1日13人） ・上級救急救命技能講習、文書管理システム研修ほか のべ711人 2. 会計及び人事を中心に、外部の研修へ職員を次のとおり派遣した。 ・文部科学省文教団体共同職員研修会、男女雇用機会均等セミナー、人権問題雇用主研修会、障害者雇用推進セミナー、セクシャルハラスメント防止実践講習等人事関係 のべ40人 ・政府関係法人会計事務職員研修、消費税中央セミナー等会計関係 のべ8人 ・ソフトウェア開発費積算研修会、各種ソフトウェア操作方法講習会等IT関係 のべ5人 ・各種著作権セミナー のべ11人 ・各種メンタルヘルス研修会 のべ4人 ・衛生管理者受験講座、評価・監査中央セミナー、関東甲信越静岡ブロック技術研修、防火管理者実務講習会ほか のべ9人	A			

Ⅱ 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画の各項目	指標又は評価項目	評 定 基 準			指標又は評価項目に係る実績	評 定																																																																							
		A	B	C		段階的評定	評 定 性 的 評 定 等																																																																						
1. 芸術文化活動に対する支援	(1)-1 芸術家及び芸術団体等が実施する活動に対する助成金の交付実施状況	(振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する)			1. 16年度助成金の交付実績 (1) 舞台芸術振興事業 <table><tr><td>対象分野</td><td>交付件数</td><td>交付金額</td></tr><tr><td>音 楽</td><td>24件</td><td>209,300千円</td></tr><tr><td>舞 踊</td><td>23件</td><td>107,500千円</td></tr><tr><td>演 劇</td><td>41件</td><td>277,000千円</td></tr><tr><td>合 計</td><td>88件</td><td>593,800千円</td></tr></table> (2) 芸術文化振興基金 <table><tr><td>対象分野</td><td>交付件数</td><td>交付金額</td></tr><tr><td>芸術創造普及活動</td><td>331件</td><td>988,800千円</td></tr><tr><td>地域文化振興活動</td><td>189件</td><td>207,200千円</td></tr><tr><td>文化振興普及団体活動</td><td>179件</td><td>192,100千円</td></tr><tr><td>合 計</td><td>699件</td><td>1,388,100千円</td></tr></table> 2. 17年度助成対象活動の募集実績 (1) 舞台芸術振興事業 <table><tr><td>対象分野</td><td>応募件数</td><td>採択件数</td><td>交付予定額</td></tr><tr><td>音 楽</td><td>80件</td><td>21件</td><td>211,000千円</td></tr><tr><td>舞 踊</td><td>46件</td><td>20件</td><td>110,500千円</td></tr><tr><td>演 劇</td><td>211件</td><td>43件</td><td>289,000千円</td></tr><tr><td>合 計</td><td>337件</td><td>84件</td><td>610,500千円</td></tr></table> (2) 芸術文化振興基金 <table><tr><td>対象分野</td><td>応募件数</td><td>採択件数</td><td>交付予定額</td></tr><tr><td>芸術創造普及活動</td><td>950件</td><td>311件</td><td>971,700千円</td></tr><tr><td>地域文化振興活動</td><td>276件</td><td>197件</td><td>271,300千円</td></tr><tr><td>文化振興普及団体活動</td><td>291件</td><td>194件</td><td>194,700千円</td></tr><tr><td>合 計</td><td>1,517件</td><td>702件</td><td>1,437,700千円</td></tr></table> (3) 募集案内の作成に当たっては、運営委員会等における改善意見等をふまえ、映画の製作活動の応募に必要な実績要件の緩和、紙面構成の一部見直し等を行い、利便性の向上に向け内容の改善を図った (4) 助成対象活動の募集に当たっては以下の点に考慮のうえ実施。 ア 芸術団体等の自主性を尊重し、活動目的及び内容等に関する助言については、極めて慎重に対応する。また、助成金交付要望書の記入について、引き続き相談期間を設けて対応。 イ 都道府県経由で応募のあった地域文化活動及び文化振興普及団体活動について、都道府県担当者からのヒアリングを実施する。	対象分野	交付件数	交付金額	音 楽	24件	209,300千円	舞 踊	23件	107,500千円	演 劇	41件	277,000千円	合 計	88件	593,800千円	対象分野	交付件数	交付金額	芸術創造普及活動	331件	988,800千円	地域文化振興活動	189件	207,200千円	文化振興普及団体活動	179件	192,100千円	合 計	699件	1,388,100千円	対象分野	応募件数	採択件数	交付予定額	音 楽	80件	21件	211,000千円	舞 踊	46件	20件	110,500千円	演 劇	211件	43件	289,000千円	合 計	337件	84件	610,500千円	対象分野	応募件数	採択件数	交付予定額	芸術創造普及活動	950件	311件	971,700千円	地域文化振興活動	276件	197件	271,300千円	文化振興普及団体活動	291件	194件	194,700千円	合 計	1,517件	702件	1,437,700千円	A	A 支援事業は審査及び公表等の情報提供を含めほぼ円滑に進められており、また、基金の管理運用にも努力し、年度計画より高い運用収入を確保して、一定の成果が上がっているものと認められる。とくに助成金の交付手続きの短縮の成果や体制整備の方向性を高く評価する。「助成対象活動の実施状況等の調査」については特に「助成の効果」に関わる情報分析に進化が見られる。しかし他方、調査対象の件数は全件数に比して少ないといわざるを得ない。 今後とも交付事務の一層の効率化・簡素化に努めるとともに、基金の運用は安全性に配慮しつつ、効果的に行われることが望まれる。
	対象分野	交付件数	交付金額																																																																										
	音 楽	24件	209,300千円																																																																										
舞 踊	23件	107,500千円																																																																											
演 劇	41件	277,000千円																																																																											
合 計	88件	593,800千円																																																																											
対象分野	交付件数	交付金額																																																																											
芸術創造普及活動	331件	988,800千円																																																																											
地域文化振興活動	189件	207,200千円																																																																											
文化振興普及団体活動	179件	192,100千円																																																																											
合 計	699件	1,388,100千円																																																																											
対象分野	応募件数	採択件数	交付予定額																																																																										
音 楽	80件	21件	211,000千円																																																																										
舞 踊	46件	20件	110,500千円																																																																										
演 劇	211件	43件	289,000千円																																																																										
合 計	337件	84件	610,500千円																																																																										
対象分野	応募件数	採択件数	交付予定額																																																																										
芸術創造普及活動	950件	311件	971,700千円																																																																										
地域文化振興活動	276件	197件	271,300千円																																																																										
文化振興普及団体活動	291件	194件	194,700千円																																																																										
合 計	1,517件	702件	1,437,700千円																																																																										
(1)-2 助成金交付事務の効率化・簡素化状況	(振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する)			部内決裁を見直すなど事務の効率化・簡素化を行い、助成金交付申請書受理から交付決定までの期間について短縮を図った。 <table><tr><td>区 分</td><td>実 績</td><td>目 標</td></tr><tr><td>舞台芸術振興事業</td><td>56.0日</td><td rowspan="2">60日以内</td></tr><tr><td>芸術文化振興基金</td><td>51.0日</td></tr><tr><td>平 均</td><td>53.5日</td><td></td></tr></table>	区 分	実 績	目 標	舞台芸術振興事業	56.0日	60日以内	芸術文化振興基金	51.0日	平 均	53.5日		A																																																													
区 分	実 績	目 標																																																																											
舞台芸術振興事業	56.0日	60日以内																																																																											
芸術文化振興基金	51.0日																																																																												
平 均	53.5日																																																																												
	交付申請書受理から交付決定までの期間の効率化の達成状況	60日未満	60日以上 87日未満	87日以上	【交付決定に係る期間の効率化の達成状況】 実績53.5日／目標60日以内（達成度110.8%）	A																																																																							
(2) 審査における客観性及び透明性を確保するための体制の整備等	(振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する)			助成金交付に関する体制整備について (1) 舞台芸術振興事業助成金交付要綱及び同取扱細則並びに芸術文化振興基金助成金交付要綱及び同取扱細則を、ホームページにおいて公表。 (2) 16年度助成対象活動の決定に関する公表状況 ① 16年4月8日付で助成対象活動の決定について公表し、公表資料をホームページに掲載。 ② 広報誌「芸術文化振興基金No.19」（6月30日発行）に助成対象活動一覧のほか審査経過等を掲載し、同誌をホームページに掲載。 (3) 17年度助成対象活動の審査状況 芸術文化振興基金運営委員会及び4つの部会、11の専門委員会において、以下のとおり審査を行った。なお、音楽・舞踊・演劇の各専門委員会において、舞台芸術振興事業と芸術文化振興基金の趣旨を再確認し、舞台芸術振興事業についてはその趣旨に沿って優れた活動を選定するよう審査を行った。 ① 舞台芸術等部会（3月〔2回〕） 音楽（11月・2月）、舞踊（11月・2月）、演劇（11月・3月）、伝統芸能（12月・3月）、美術（11月・2月） ② 映像芸術部会（3月） 劇映画（11月・3月）、記録映画（11月・3月）、アニメーション映画（11月・3月） ③ 地域文化・文化団体活動部会（3月） 地域文化活動（11月・2月）、文化団体活動（12月・3月） ④ 文化財部会（3月） 文化財保存活用（11月・2月） ⑤ 審査経過概要 〔17年度助成対象活動の審査状況〕 <table><tr><td>11月中旬～12月中旬</td><td>各専門委員会において「専門委員会における審査の方法等について」を審議、決定。</td></tr><tr><td>1月中旬～2月初旬</td><td>各専門委員会の委員による応募活動1件ごとの事前審査。</td></tr><tr><td>2月初旬～3月中旬</td><td>各専門委員会において専門委員の事前審査結果をもとに、合議により、助成金交付要望書の審査及び助成対象活動を選定。</td></tr><tr><td>2月8日</td><td>運営委員会を開催し、応募状況についての報告及び助成金の分野別配分について審議、決定。</td></tr><tr><td>3月中旬～3月下旬</td><td>各部会において助成対象活動の採否及び助成金額の審議。</td></tr><tr><td>3月31日</td><td>運営委員会を開催し、助成対象活動について審議、決定。</td></tr></table> 17年4月8日付で公表。	11月中旬～12月中旬	各専門委員会において「専門委員会における審査の方法等について」を審議、決定。	1月中旬～2月初旬	各専門委員会の委員による応募活動1件ごとの事前審査。	2月初旬～3月中旬	各専門委員会において専門委員の事前審査結果をもとに、合議により、助成金交付要望書の審査及び助成対象活動を選定。	2月8日	運営委員会を開催し、応募状況についての報告及び助成金の分野別配分について審議、決定。	3月中旬～3月下旬	各部会において助成対象活動の採否及び助成金額の審議。	3月31日	運営委員会を開催し、助成対象活動について審議、決定。	A																																																												
11月中旬～12月中旬	各専門委員会において「専門委員会における審査の方法等について」を審議、決定。																																																																												
1月中旬～2月初旬	各専門委員会の委員による応募活動1件ごとの事前審査。																																																																												
2月初旬～3月中旬	各専門委員会において専門委員の事前審査結果をもとに、合議により、助成金交付要望書の審査及び助成対象活動を選定。																																																																												
2月8日	運営委員会を開催し、応募状況についての報告及び助成金の分野別配分について審議、決定。																																																																												
3月中旬～3月下旬	各部会において助成対象活動の採否及び助成金額の審議。																																																																												
3月31日	運営委員会を開催し、助成対象活動について審議、決定。																																																																												
						A																																																																							

支援事業は審査及び公表等の情報提供を含めほぼ円滑に進められており、また、基金の管理運用にも努力し、年度計画より高い運用収入を確保して、一定の成果が上がっているものと認められる。とくに助成金の交付手続きの短縮の成果や体制整備の方向性を高く評価する。「助成対象活動の実施状況等の調査」については特に「助成の効果」に関わる情報分析に進化が見られる。しかし他方、調査対象の件数は全件数に比して少ないといわざるを得ない。

今後とも交付事務の一層の効率化・簡素化に努めるとともに、基金の運用は安全性に配慮しつつ、効果的に行われることが望まれる。

【より良い事業とするための意見等】

調査については、規模の問題もあるが助成金の適正な執行のためにも、継続して行うことに意味がある。外部・内部ともに、組織的な仕組みを作り実施されることが懸望される。

舞台芸術振興事業と芸術文化振興基金の役割の違いがさらに外部に明確となるよう広報の充実が期待される。調査結果についても、好ましくなかった事例を公表するなど積極的に活用することが望ましい。

助成事業の広報活動において、文化庁の支援事業との連携を図るなどして、助成を受ける側にわかりやすい説明をすることが望ましい。

2. 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	(3) 基金の管理運用	振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する			芸術文化振興基金の管理運用 (1) 運用実績 ① 運用益 1,718,512千円（当初計画1,712,097千円、6,415千円の増収） ② 利回り 2.7%（当初計画2.7%） (2) 資金内容及び経済情勢の把握 基金の運用先である金融機関からの情報収集や打合せを密に行うことで、資金内容及び経済情勢の把握に努めた。その結果、償還された資金のスムーズな再投資や新たな外国債の組み入れなどを可能とし、年度計画より高い運用収入を確保することができた。 (3) 運用方針の検討状況 16年度基金資金の運用については、現在の経済状況等を考慮すると国内債券の低金利状況は今後しばらく継続すると考えられたことから、ある程度の金利水準を確保できる外国債に再投資を行った。なお、外国債の運用に当たっては、信用リスクを極力排除する観点から国際格付会社による格付けがAAA以上を対象とした。		
	(4)-1 助成対象活動の実施状況等の調査	振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する			助成対象活動等に対する調査 (1) 助成対象活動に対する調査 ① 会計調査：33件 ② 公演等調査：70件 (2) 外部委託により、芸術文化振興基金を取り巻く環境変化の把握と助成制度としての役割について調査を実施。 (3) 助成対象活動に係る「助成の効果」について、16年度助成対象活動実績報告書に記載された内容の整理、分類を実施。 集計結果：調査対象件数787件（複数回答を含む）	B	A
	(4)-2 芸術団体等に対する各種情報等の提供	振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する			広報活動 (1) 基金による助成事業の概要等を紹介したチラシ（3種類）を作成・配布 ・助成事業の概要を紹介したパンフレット（2つ折り）を作成・配布 ・映画の製作活動助成を紹介したチラシを作成・配布 ・芸術文化振興基金助成対象活動PRチラシを作成・配布 (2) 広報誌「芸術文化振興基金No.19」を発行（6月30日）し、16年度助成対象活動の決定等の記事掲載。 (3) 「日本芸術文化振興会ニュース」及び「文化庁月報」へ、基金の概要、助成対象活動の募集案内等の記事掲載（毎月） (4) 17年度募集案内広告掲載誌（10月上旬～11月下旬）の拡大（17誌→20誌） (5) NHK に対する17年度募集案内広告放送（10月下旬）を地方支局へ拡大して依頼（8局→54局） (6) 17年度募集案内ポスターの配布先を拡大（259箇所→640箇所：地方美術館等） (7) 17年度助成対象活動募集説明会の開催 （大阪）9月29日：映画の製作活動を除く芸術団体等対象（会場・プリムローズ大阪） （東京）10月5日：映画の製作活動を除く芸術団体等対象（会場・こまばエミナースホール） 10月6日：都道府県、政令指定都市担当者対象（会場・伝統芸能情報館） 10月7日：映画の製作活動対象（会場・こまばエミナースホール） (8) 基金部ホームページの充実 ① 助成金交付要綱等の掲載 ② 17年度各種募集案内書及び要望書等書式の掲載（ダウンロードによる利用可） ③ Q & Aに「良くある質問」を掲載 ④ 16年度アクセス件数 実績：50,435件（目標：30,000件）	A	
	ホームページへのアクセスの達成状況	30,000件以上	21,000件以上 30,000件未満	21,000件未満	【基金トップページへのアクセス件数】 実績50,435件／目標30,000件（達成度168.1%）	A	
2. 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	(1) 伝統芸能の公開	振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する			(1) 伝統芸能の公開 分 野 公演数 回数 日数 入場者数 目 標 歌舞伎 5公演 120回 112日 108,389人（59.5%） 108,600人（59.6%） 文楽 8公演 323回 149日 149,012人（70.5%） 123,800人（58.5%） 舞踊・邦楽・雅楽・声明 21公演 34回 28日 19,700人（72.5%） 20,200人（74.4%） ・民俗芸能・特別企画 大衆芸能 67公演 322回 292日 41,956人（45.3%） 35,000人（37.8%） 能楽 49公演 50回 49日 30,544人（103.4%） 27,900人（94.4%） 組踊等沖縄伝統芸能 30公演 38回 31日 13,498人（57.7%） 14,000人（60.0%） 小 計 180公演 887回 661日 363,099人（64.1%） 329,500人（58.2%） 青少年等鑑賞教室 6公演 155回 80日 149,946人（85.7%） 140,700人（80.4%） 合 計 186公演 1,042回 741日 513,045人（69.2%） 470,200人（63.4%） (2) 演目の拡充 ① 歌舞伎の復活上演候補作品の調査・研究 復活上演候補演目検討会を3回開催し、第一次「復活上演候補演目一覧」を作成 ② 新作歌舞伎脚本 応募68篇、表彰：優秀作1篇 ③ 大衆芸能新作脚本（漫才・コント部門） 応募143篇、表彰：優秀作1篇、佳作2篇	A	A
					全般的に国立劇場の役割をふまえた企画意図に沿った公演の制作・実施等が行われ、効果が上がったものと認められる。公演の水準はなべて良好であり、演目については、国立劇場の特色がよく出ていた。社会人のための公演も評価したい。 【より良い事業とするための意見等】 「本朝廿四孝」のように、俳優がやりたいと思うような企画性で成功している舞台をもっと増やすよう期待したい。 企画力の向上のためには、職員自らが行う調査研究の蓄積が力になるため、さらに強化することが望ましい。 また、社会人のための公演を、今後は文楽、		

				(3) 外部団体との連携・協力、地方における上演 ① 芸術祭主催6公演、協賛22公演を実施した。 ② 国・地方自治体等の後援・協力等9公演、外部団体主催公演への協力5公演を実施した。 ③ 受託による公演を4公演、地方における公演を3公演実施した。 (4) アンケート調査 <table><tr><th>分野</th><th>実施回数</th><th>回答数</th><th>回収率(配布数)</th><th>概ね満足との回答</th></tr><tr><td>歌舞伎</td><td>6回</td><td>6,121人</td><td>82.1%(7,457人)</td><td>89.9%(5,502人)</td></tr><tr><td>文楽</td><td>5回</td><td>568人</td><td>19.7%(2,890人)</td><td>88.7%(504人)</td></tr><tr><td>舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能・特別企画</td><td>9回</td><td>3,419人</td><td>53.6%(6,381人)</td><td>83.6%(2,857人)</td></tr><tr><td>大衆芸能</td><td>17回</td><td>1,596人</td><td>42.6%(3,746人)</td><td>90.7%(1,447人)</td></tr><tr><td>能楽</td><td>7回</td><td>1,443人</td><td>39.2%(3,685人)</td><td>86.1%(1,242人)</td></tr><tr><td>組踊等沖縄伝統芸能</td><td>4回</td><td>650人</td><td>42.6%(1,527人)</td><td>65.5%(426人)</td></tr><tr><td>青少年等鑑賞教室</td><td>4回</td><td>270人</td><td>56.1%(481人)</td><td>82.2%(222人)</td></tr><tr><td>合 計</td><td>45回</td><td>14,067人</td><td>53.8%(26,167人)</td><td>86.7%(12,200人)</td></tr></table> 【特記事項】 演芸場が25周年、文楽劇場が20周年の記念公演を実施した。 「社会人のための歌舞伎入門」を実施し、12月・3月歌舞伎公演において計5回6,482人の入場があった。	分野	実施回数	回答数	回収率(配布数)	概ね満足との回答	歌舞伎	6回	6,121人	82.1%(7,457人)	89.9%(5,502人)	文楽	5回	568人	19.7%(2,890人)	88.7%(504人)	舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能・特別企画	9回	3,419人	53.6%(6,381人)	83.6%(2,857人)	大衆芸能	17回	1,596人	42.6%(3,746人)	90.7%(1,447人)	能楽	7回	1,443人	39.2%(3,685人)	86.1%(1,242人)	組踊等沖縄伝統芸能	4回	650人	42.6%(1,527人)	65.5%(426人)	青少年等鑑賞教室	4回	270人	56.1%(481人)	82.2%(222人)	合 計	45回	14,067人	53.8%(26,167人)	86.7%(12,200人)		邦楽などにも拡げること期待したい。 なお、一部の公演の入場者数が目標に達していないが、動員等のふるわなかった公演については、その理由の分析と改善の工夫が求められる。今後は適切な入場者の目標値を設定し、広報宣伝も含め、その達成に努めることが望まれる。 国立劇場おきなわについては今後に期待したい。																				
分野	実施回数	回答数	回収率(配布数)	概ね満足との回答																																																																			
歌舞伎	6回	6,121人	82.1%(7,457人)	89.9%(5,502人)																																																																			
文楽	5回	568人	19.7%(2,890人)	88.7%(504人)																																																																			
舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能・特別企画	9回	3,419人	53.6%(6,381人)	83.6%(2,857人)																																																																			
大衆芸能	17回	1,596人	42.6%(3,746人)	90.7%(1,447人)																																																																			
能楽	7回	1,443人	39.2%(3,685人)	86.1%(1,242人)																																																																			
組踊等沖縄伝統芸能	4回	650人	42.6%(1,527人)	65.5%(426人)																																																																			
青少年等鑑賞教室	4回	270人	56.1%(481人)	82.2%(222人)																																																																			
合 計	45回	14,067人	53.8%(26,167人)	86.7%(12,200人)																																																																			
・歌舞伎	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する		(1) 10月歌舞伎公演「通し狂言 伊賀越道中双六」 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>10月4日～10月27日</td><td>23回</td><td>23日</td><td>15,066人(43.3%)</td><td>25,900人(74.5%)</td></tr></table> ○会場 本館大劇場 ○入場料 特別席12,000円(学生8,400円)、1等A席9,200円(学生6,400円)、1等B席6,100円(学生4,300円)、2等席2,500円(学生1,800円)、3等席1,500円(学生1,100円) (2) 11月歌舞伎公演「通し狂言 噂音菊柳澤騒動」 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>11月3日～11月26日</td><td>23回</td><td>23日</td><td>23,415人(67.0%)</td><td>25,600人(73.2%)</td></tr></table> ○会場 本館大劇場 ○入場料 特別席12,000円(学生8,400円)、1等A席9,200円(学生6,400円)、1等B席6,100円(学生4,300円)、2等席2,500円(学生1,800円)、3等席1,500円(学生1,100円) (3) 12月歌舞伎公演「花雪恋手鑑」「歌舞伎十八番の内 勸進帳」 社会人のための歌舞伎入門～勸進帳を愉しむ～ 入門講座「勸進帳の世界へ」、「歌舞伎十八番の内 勸進帳」 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>12月4日～12月26日</td><td>25回</td><td>22日</td><td>32,123人(84.5%)</td><td>19,700人(51.8%)</td></tr></table> ○「社会人のための歌舞伎入門」(回数、日数、入場者数は上記に含まれる) <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th></tr><tr><td>12月10日・17日・21日</td><td>3回</td><td>3日</td><td>4,484人(98.3%)</td></tr></table> ○会場 本館大劇場 ○入場料 特別席12,000円(学生8,400円)、1等A席9,200円(学生6,400円)、1等B席6,100円(学生4,300円)、2等席2,500円(学生1,800円)、3等席1,500円(学生1,100円) [社会人のための歌舞伎入門] 1等席5,000円(学生4,500円)、2等席2,500円(学生1,800円)、3等席1,500円(学生1,100円) (4) 1月歌舞伎公演「御ひいき勸進帳」 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>1月3日～1月27日</td><td>24回</td><td>24日</td><td>18,278人(50.1%)</td><td>23,300人(63.9%)</td></tr></table> ○会場 本館大劇場 ○入場料 特別席12,000円(学生8,400円)、1等A席9,200円(学生6,400円)、1等B席6,100円(学生4,300円)、2等席2,500円(学生1,800円)、3等席1,500円(学生1,100円) (5) 3月歌舞伎公演 花形若手歌舞伎「通し狂言 本朝廿四孝」 社会人のための歌舞伎入門～美しき女形の世界へ～ 解説「女形の魅力」、「本朝廿四孝」長尾謙信館十種香の場／同奥庭狐火の場 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>3月4日～24日</td><td>25回</td><td>20日</td><td>19,507人(51.3%)</td><td>14,100人(37.1%)</td></tr></table> ○「社会人のための歌舞伎入門」(回数、日数、入場者数は上記に含まれる) <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th></tr><tr><td>3月8日・15日</td><td>2回</td><td>2日</td><td>1,998人(65.7%)</td></tr></table> ○会場 本館大劇場 ○入場料 1等A席8,500円(学生6,000円)、1等B席6,100円(学生4,300円)、2等席2,500円(学生1,800円)、3等席1,500円(学生1,100円) [社会人のための歌舞伎入門] 1等席4,500円(学生4,000円)、2等席2,500円(学生1,800円)、3等席1,500円(学生1,100円)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	10月4日～10月27日	23回	23日	15,066人(43.3%)	25,900人(74.5%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	11月3日～11月26日	23回	23日	23,415人(67.0%)	25,600人(73.2%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	12月4日～12月26日	25回	22日	32,123人(84.5%)	19,700人(51.8%)	期 間	回数	日数	入場者数	12月10日・17日・21日	3回	3日	4,484人(98.3%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	1月3日～1月27日	24回	24日	18,278人(50.1%)	23,300人(63.9%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	3月4日～24日	25回	20日	19,507人(51.3%)	14,100人(37.1%)	期 間	回数	日数	入場者数	3月8日・15日	2回	2日	1,998人(65.7%)	A	全公演とも国立劇場の役割をふまえた企画意図に沿って制作・実施されたものと認められる。公演の演目については、国立劇場の特色がよく出ており、5公演中、3公演が通し狂言というのは、国立劇場ならではの企画で評価する。社会人のための公演も評価したい。一方、動員についての工夫・広報に改善の余地がある。 【より良い事業とするための意見等】 「本朝廿四孝」のように企画性で成功した舞台をもっと増やしてほしい。俳優がやりたいと思う企画を出すためにも、関係職員によるさらなる研究の進展を期待する。 なお、5公演中、3公演の入場者数が目標に達していないが、とくに通し狂言の動員についての広報の充実等が望まれる。今後は適切な入場者の目標値を設定し、広報宣伝も含め、その達成に努めることが望まれる。 「社会人のための歌舞伎入門」は好企画であり、拡大化が期待される。
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																			
10月4日～10月27日	23回	23日	15,066人(43.3%)	25,900人(74.5%)																																																																			
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																			
11月3日～11月26日	23回	23日	23,415人(67.0%)	25,600人(73.2%)																																																																			
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																			
12月4日～12月26日	25回	22日	32,123人(84.5%)	19,700人(51.8%)																																																																			
期 間	回数	日数	入場者数																																																																				
12月10日・17日・21日	3回	3日	4,484人(98.3%)																																																																				
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																			
1月3日～1月27日	24回	24日	18,278人(50.1%)	23,300人(63.9%)																																																																			
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																			
3月4日～24日	25回	20日	19,507人(51.3%)	14,100人(37.1%)																																																																			
期 間	回数	日数	入場者数																																																																				
3月8日・15日	2回	2日	1,998人(65.7%)																																																																				
入場者数の達成状況	108,600人以上	76,020人以上 108,600人未満	76,020人未満	【入場者数の達成状況】 実績108,389人／目標108,600人(達成度99.8%)	B																																																																		
・文 楽	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する		(1) 4月文楽公演「通し狂言 義経千本桜」 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>4月3日～4月25日</td><td>44回</td><td>22日</td><td>22,713人(70.6%)</td><td>14,100人(43.8%)</td></tr></table> ○会場 文楽劇場	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	4月3日～4月25日	44回	22日	22,713人(70.6%)	14,100人(43.8%)	A	全公演とも国立劇場の役割をふまえた企画意図に沿って制作・実施されたものと認められ、おしなべてすばらしい成果をあげている。また、全公演とも入場者数が目標値を上回ったのは快挙である。企画性のある公演が揃い、																																																								
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																			
4月3日～4月25日	44回	22日	22,713人(70.6%)	14,100人(43.8%)																																																																			

				○入場料 1等5,800円(学生4,100円)、2等2,300円、通し割引1等9,800円 (2) 5月文楽公演「通し狂言 妹背山婦女庭訓」 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>5月8日～5月23日</td><td>32回</td><td>16日</td><td>17,118(100.4%)</td><td>14,700人(86.2%)</td></tr></table> ○会場 本館小劇場 ○入場料 1等6,000円(学生4,200円)、2等5,000円(学生2,500円)、3等1,500円(学生1,100円) 通し割引1等5,100円・2等4,300円 (3) 7・8月文楽公演 第1部《親子劇場》「解説 文楽はおもしろい」「西遊記ー完結篇ー」 第2部《名作劇場》「生写朝顔話」 第3部《サマーレイトショー》「一谷嫩軍記」熊谷桜の段・熊谷陣屋の段、「きぬたと大文字」 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>7月17日～8月8日</td><td>66回</td><td>22日</td><td>23,305人(60.8%)</td><td>21,500人(46.9%)</td></tr></table> ○会場 文楽劇場 ○入場料 一般4,600円(学生2,300円、中学生以下1,800円) (4) 9月文楽公演 第一部「通し狂言 双蝶々曲輪日記」「花競四季寿」 第二部「通し狂言 恋女房染分手綱」 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>9月11日～9月26日</td><td>32回</td><td>16日</td><td>17,540(97.9%)</td><td>16,200人(90.4%)</td></tr></table> ○会場 本館小劇場 ○入場料 1等6,000円(学生4,200円)、2等5,000円(学生2,500円)、3等1,500円(学生1,100円) (5) 11月文楽公演「通し狂言 仮名手本忠臣蔵」 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>11月6日～11月28日</td><td>44回</td><td>22日</td><td>20,869人(64.9%)</td><td>15,700人(48.8%)</td></tr></table> ○会場 文楽劇場 ○入場料 1等5,800円(学生4,100円)、2等2,300円、通し割引1等9,800円 (6) 12月文楽公演「菅原伝授手習鑑」 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>12月7日～12月19日</td><td>13回</td><td>13日</td><td>5,908人(81.2%)</td><td>5,300人(72.8%)</td></tr></table> ○会場 本館小劇場 ○入場料 1等5,200円(学生3,600円)、2等4,500円(学生2,300円)、3等1,500円(学生1,100円) (7) 1月文楽公演「七福神宝の入船」「伊賀越道中双六」「恋娘昔八丈」「苅萱桑門筑紫いえづと」 「天網島時雨炬燵」「戻駕色相肩」 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>1月3日～1月25日</td><td>44回</td><td>22日</td><td>19,790人(61.5%)</td><td>18,400人(57.2%)</td></tr></table> ○会場 文楽劇場 ○入場料 1等5,800円(学生4,100円)、2等2,300円 (8) 2月文楽公演 第一部「源平布引滝」「景事 団子売」 第二部「伊賀越道中双六」「姫山姥」 第三部「壇浦兜軍記」「卅三間堂棟由来」 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>2月12日～2月27日</td><td>48回</td><td>16日</td><td>21,769人(81.0%)</td><td>17,900人(66.6%)</td></tr></table> ○会場 本館小劇場 ○入場料 1等5,200円(学生3,600円)、2等4,500円(学生2,300円)、3等1,500円(学生1,100円)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	5月8日～5月23日	32回	16日	17,118(100.4%)	14,700人(86.2%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	7月17日～8月8日	66回	22日	23,305人(60.8%)	21,500人(46.9%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	9月11日～9月26日	32回	16日	17,540(97.9%)	16,200人(90.4%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	11月6日～11月28日	44回	22日	20,869人(64.9%)	15,700人(48.8%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	12月7日～12月19日	13回	13日	5,908人(81.2%)	5,300人(72.8%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	1月3日～1月25日	44回	22日	19,790人(61.5%)	18,400人(57.2%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	2月12日～2月27日	48回	16日	21,769人(81.0%)	17,900人(66.6%)	入場者数の達成状況	123,800人以上	86,600人以上 123,800人未満	86,600人未満	【入場者数の達成状況】 実績149,012人／目標123,800人(達成度120.4%)	A
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																												
5月8日～5月23日	32回	16日	17,118(100.4%)	14,700人(86.2%)																																																																												
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																												
7月17日～8月8日	66回	22日	23,305人(60.8%)	21,500人(46.9%)																																																																												
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																												
9月11日～9月26日	32回	16日	17,540(97.9%)	16,200人(90.4%)																																																																												
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																												
11月6日～11月28日	44回	22日	20,869人(64.9%)	15,700人(48.8%)																																																																												
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																												
12月7日～12月19日	13回	13日	5,908人(81.2%)	5,300人(72.8%)																																																																												
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																												
1月3日～1月25日	44回	22日	19,790人(61.5%)	18,400人(57.2%)																																																																												
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																												
2月12日～2月27日	48回	16日	21,769人(81.0%)	17,900人(66.6%)																																																																												
・舞 踊 ・邦 楽 ・雅 楽 ・声 明 ・民俗芸能 ・特別企画	(振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する)				(1) 舞踊 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>公演数</th><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>4公演</td><td>平成16年9月～平成17年3月</td><td>7回</td><td>5日</td><td>3,833人(73.2%)</td><td>3,900人(74.5%)</td></tr></table> ○入場料 〔伝統の継承Ⅱ〕1等7,000円・2等5,000円・3等3,000円 〔名流舞踊鑑賞会〕6,500円 〔舞の会〕6,000円 〔素踊りの会〕6,000円 (2) 邦楽 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>公演数</th><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>5公演</td><td>平成16年5月～平成17年1月</td><td>7回</td><td>7日</td><td>3,393人(79.0%)</td><td>3,000人(69.9%)</td></tr></table> ○入場料 〔5月素浄瑠璃〕3,500円 〔江戸三味線〕3,600円 〔琵琶・尺八〕3,600円 〔10月素浄瑠璃〕4,000円 〔邦楽鑑賞会〕4,000円 (3) 雅楽 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>公演数</th><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>2公演</td><td>平成16年11月・平成17年2月</td><td>2回</td><td>2日</td><td>1,817人(82.6%)</td><td>1,900人(86.4%)</td></tr></table>	公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	4公演	平成16年9月～平成17年3月	7回	5日	3,833人(73.2%)	3,900人(74.5%)	公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	5公演	平成16年5月～平成17年1月	7回	7日	3,393人(79.0%)	3,000人(69.9%)	公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	2公演	平成16年11月・平成17年2月	2回	2日	1,817人(82.6%)	1,900人(86.4%)	A																																						
公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																											
4公演	平成16年9月～平成17年3月	7回	5日	3,833人(73.2%)	3,900人(74.5%)																																																																											
公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																											
5公演	平成16年5月～平成17年1月	7回	7日	3,393人(79.0%)	3,000人(69.9%)																																																																											
公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																											
2公演	平成16年11月・平成17年2月	2回	2日	1,817人(82.6%)	1,900人(86.4%)																																																																											

文楽劇場入場者が増加したことは望ましい。今後とも適切な入場者数の目標値を設定し、広報宣伝も含め、その達成に努めることが期待される。
【より良い事業とするための意見等】
2月公演の特に第2部は早々とチケット完売の人氣であったが、こうした状況の場合、日数の延長等、限定的に追加公演等の処置は難しいであろうが、検討を期待したい。観客を動員できる演者の高齢化に備え、難問であるが、今から将来どうするかを考えておく必要があろう。

それぞれの公演に企画性がある国立らしい公演が揃った。全公演とも国立劇場の役割をふまえた企画意図に沿って制作・実施されたものと認められる。
【より良い事業とするための意見等】
以前に比べて集客力のある演者が減少していることもあり、公演の入場者数が目標に達しておらず、達成度は僅差でBランクであった。一層の努力が必要であろう。たとえ入場者数が少なくとも、熱心な客層があり、また芸術の伝承にとって国立劇場での演奏が励みになっており、公演の意義は極めて高い。ポピュラーな演目にするか稀曲をとりあげるか、企画における選択が難しいが、P・Rな

文楽劇場入場者が増加したことは望ましい。今後とも適切な入場者数の目標値を設定し、広報宣伝も含め、その達成に努めることが期待される。

【より良い事業とするための意見等】

2月公演の特に第2部は早々とチケット完売の人気であったが、こうした状況の場合、日数の延長等、限定的に追加公演等の処置は難しいであろうが、検討を期待したい。
観客を動員できる演者の高齢化に備え、難問であるが、今から将来どうするのかを考えておく必要があろう。

それぞれの公演に企画性がある国立らしい公演が揃った。全公演とも国立劇場の役割をふまえた企画意図に沿って制作・実施されたものと認められる。

【より良い事業とするための意見等】

以前に比べて集客力のある演者が減少していることもあり、公演の入場者数が目標に達しておらず、達成度は僅差でBランクであった。一層の努力が必要であろう。
たとえ入場者数が少なくとも、熱心な客層があり、また芸術の伝承にとって国立劇場での演奏が励みになっており、公演の意義は極めて高い。
ホビュラーな演目にするか稀曲をとりあげるか、企画における選択が難しいが、PRな

				○入場料 [11月雅楽] 4,000円 [2月舞楽] 1等4,500円・2等3,600円 (4) 声明 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><td>公演数</td><td>期 間</td><td>回数</td><td>日数</td><td>入場者数</td><td>目 標</td></tr><tr><td>2公演</td><td>平成16年9～10月</td><td>3回</td><td>2日</td><td>2,527人(81.1%)</td><td>2,600人(83.4%)</td></tr></table> ○入場料 [薬師寺] 5,000円 [比叡山] 1等4,000円・2等2,500円 (5) 民俗芸能 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><td>公演数</td><td>期 間</td><td>回数</td><td>日数</td><td>入場者数</td><td>目 標</td></tr><tr><td>4公演</td><td>平成16年6月～平成17年3月</td><td>10回</td><td>8日</td><td>5,358人(64.8%)</td><td>6,000人(72.6%)</td></tr></table> ○入場料 [備中神楽] 3,600円 [日本の太鼓] 1等4,000円・2等2,500円 [佐渡の芸能] 3,600円 [国分寺舞楽] 4,000円 (6) 特別企画 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><td>公演数</td><td>期 間</td><td>回数</td><td>日数</td><td>入場者数</td><td>目 標</td></tr><tr><td>4公演</td><td>平成16年4～7月</td><td>5回</td><td>4日</td><td>2,772人(68.3%)</td><td>2,800人(69.0%)</td></tr></table> ○入場料 [人間国宝] 1等8,000円・2等6,000円・3等3,000円 [5月舞踊・邦楽] 4,500円 [6月舞踊・邦楽] 3,000円 [胡弓] 3,600円	公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	2公演	平成16年9～10月	3回	2日	2,527人(81.1%)	2,600人(83.4%)	公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	4公演	平成16年6月～平成17年3月	10回	8日	5,358人(64.8%)	6,000人(72.6%)	公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	4公演	平成16年4～7月	5回	4日	2,772人(68.3%)	2,800人(69.0%)					
公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																								
2公演	平成16年9～10月	3回	2日	2,527人(81.1%)	2,600人(83.4%)																																								
公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																								
4公演	平成16年6月～平成17年3月	10回	8日	5,358人(64.8%)	6,000人(72.6%)																																								
公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																								
4公演	平成16年4～7月	5回	4日	2,772人(68.3%)	2,800人(69.0%)																																								
入場者数の達成状況	20,200人以上	14,140人以上 20,200人未満	14,140人未満	【入場者数の達成状況】 実績19,700人／目標20,200人 (達成度97.5%)	B																																								

大衆芸能	(振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する)	(1) 定席公演 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><td>公演数</td><td>期 間</td><td>回数</td><td>日数</td><td>入場者数</td><td>目 標</td></tr><tr><td>22公演</td><td>上席 毎月1日～10日 中席 毎月11日～20日</td><td>244回</td><td>219日</td><td>27,491人(37.3%)</td><td>21,300人(28.9%)</td></tr></table> (但し、上席は5月・1月を除く。7月のみ2日より) ○会場 演芸場 ○入場料 一般2,000円(前売1,800円)、学生1,400円、シルバー1,100円 (2) 企画公演 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><td>公演数</td><td>期 間</td><td>回数</td><td>日数</td><td>入場者数</td><td>目 標</td></tr><tr><td>13公演</td><td>平成16年4月～平成17年3月</td><td>13回</td><td>13日</td><td>2,756人(70.7%)</td><td>3,200人(82.1%)</td></tr></table> ○会場 演芸場 ○入場料 一般3,000円、学生2,100円 (3) 若手新人公演(花形演芸会) ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><td>公演数</td><td>期 間</td><td>回数</td><td>日数</td><td>入場者数</td><td>目 標</td></tr><tr><td>12公演</td><td>平成16年4月～平成17年3月</td><td>12回</td><td>12日</td><td>3,239人(90.0%)</td><td>2,600人(72.2%)</td></tr></table> ○会場 演芸場 ○入場料 一般1,500円、学生1,100円、シルバー1,000円 (4) 国立名人会 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><td>公演数</td><td>期 間</td><td>回数</td><td>日数</td><td>入場者数</td><td>目 標</td></tr><tr><td>11公演</td><td>平成16年4月～平成17年3月</td><td>11回</td><td>11日</td><td>2,925人(88.6%)</td><td>3,100人(93.9%)</td></tr></table> ○会場 演芸場 ○入場料 一般3,000円、学生2,100円 (5) 新春国立名人会 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><td>期 間</td><td>回数</td><td>日数</td><td>入場者数</td><td>目 標</td></tr><tr><td>1月2日～1月6日</td><td>7回</td><td>5日</td><td>2,177人(103.7%)</td><td>1,900人(90.5%)</td></tr></table> ○会場 演芸場 ○入場料 一般3,500円、学生2,500円 (6) 師走浪曲名人会 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><td>期 間</td><td>回数</td><td>日数</td><td>入場者数</td><td>目 標</td></tr><tr><td>12月4日</td><td>1回</td><td>1回</td><td>627人(83.3%)</td><td>500人(66.4%)</td></tr></table> ○会場 文楽劇場 ○入場料 3,400円 (7) 第15回浪曲練声会 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><td>期 間</td><td>回数</td><td>日数</td><td>入場者数</td><td>目 標</td></tr><tr><td>5月22日</td><td>2回</td><td>1回</td><td>189人(59.4%)</td><td>200人(62.9%)</td></tr></table> ○会場 文楽劇場小ホール ○入場料 一般2,000円、学生1,400円 (8) 上方演芸特選会 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><td>公演数</td><td>期 間</td><td>回数</td><td>日数</td><td>入場者数</td><td>目 標</td></tr><tr><td>6公演</td><td>平成16年5月～平成17年3月</td><td>30回</td><td>30日</td><td>2,553人(53.5%)</td><td>2,200人(46.1%)</td></tr></table> ○会場 文楽劇場小ホール ○入場料 一般2,000円、学生1,400円、シルバー1,100円	公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	22公演	上席 毎月1日～10日 中席 毎月11日～20日	244回	219日	27,491人(37.3%)	21,300人(28.9%)	公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	13公演	平成16年4月～平成17年3月	13回	13日	2,756人(70.7%)	3,200人(82.1%)	公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	12公演	平成16年4月～平成17年3月	12回	12日	3,239人(90.0%)	2,600人(72.2%)	公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	11公演	平成16年4月～平成17年3月	11回	11日	2,925人(88.6%)	3,100人(93.9%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	1月2日～1月6日	7回	5日	2,177人(103.7%)	1,900人(90.5%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	12月4日	1回	1回	627人(83.3%)	500人(66.4%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	5月22日	2回	1回	189人(59.4%)	200人(62.9%)	公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	6公演	平成16年5月～平成17年3月	30回	30日	2,553人(53.5%)	2,200人(46.1%)	A
公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																																								
22公演	上席 毎月1日～10日 中席 毎月11日～20日	244回	219日	27,491人(37.3%)	21,300人(28.9%)																																																																																								
公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																																								
13公演	平成16年4月～平成17年3月	13回	13日	2,756人(70.7%)	3,200人(82.1%)																																																																																								
公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																																								
12公演	平成16年4月～平成17年3月	12回	12日	3,239人(90.0%)	2,600人(72.2%)																																																																																								
公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																																								
11公演	平成16年4月～平成17年3月	11回	11日	2,925人(88.6%)	3,100人(93.9%)																																																																																								
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																																									
1月2日～1月6日	7回	5日	2,177人(103.7%)	1,900人(90.5%)																																																																																									
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																																									
12月4日	1回	1回	627人(83.3%)	500人(66.4%)																																																																																									
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																																									
5月22日	2回	1回	189人(59.4%)	200人(62.9%)																																																																																									
公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																																								
6公演	平成16年5月～平成17年3月	30回	30日	2,553人(53.5%)	2,200人(46.1%)																																																																																								

どに更に工夫がほしい。

今後は適切な入場者の目標値を設定し、広報宣伝も含め、その達成に努めることが望まれる。公演の種類によっては関連学会(例えば東洋音楽学会)に早めに情報を提供すること効果的と思われる。

顔ぶれに左右される客席の性格上、入りが違うのはやむを得ないが、企画は良好で、記念公演等に入場者数は昨年度に比べ飛躍的に増加したのは評価される。全公演とも国立劇場の役割をふまえた企画意図に沿って制作・実施されたものと認められる。

【より良い事業とするための意見等】

定席公演の入場者数の改善(特に9月および12月)の努力が要請される。トリをとる人の選考において、人気のある人、意欲のある人を起用してほしい。

昨今、子供のための文化事業の充実が望まれており、子供向けの企画(8月特別企画公演)が惨敗に終わった原因の分析を、「夏休み親子のための狂言の会」などの成功例も参考に行ってほしい。

適切な入場者の目標値を設定し、広報宣伝も含め、その達成に努めることが望まれる。

	入場者数の達成状況	35,000人以上	24,500人以上 35,000人未満	24,500人未満	【入場者数の達成状況】 実績41,956人／目標35,000人（達成度119.9%）	A																																					
・能 楽	（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する				(1) 定例公演 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>公演数</th><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>23公演</td><td>平成16年4月～平成17年3月</td><td>23回</td><td>23日</td><td>13,732人(101.0%)</td><td>12,900人(94.9%)</td></tr></table> ○会場 能楽堂本舞台 ○入場料 正面4,300円、脇正面2,800円（学生2,000円）、中正面2,300円（学生1,600円） (2) 普及公演 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>公演数</th><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>13公演</td><td>平成16年4月～平成17年3月</td><td>13回</td><td>13日</td><td>8,296人(108.0%)</td><td>7,200人(93.7%)</td></tr></table> ○会場 能楽堂本舞台 ○入場料 正面4,300円、脇正面2,800円（学生2,000円）、中正面2,300円（学生1,600円） (3) 企画公演 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>公演数</th><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>13公演</td><td>平成16年4月～平成17年3月</td><td>14回</td><td>13日</td><td>8,516人(102.9%)</td><td>7,800人(94.3%)</td></tr></table> ○会場 能楽堂本舞台 ○入場料 [狂言の会] 正面4,000円、脇正面2,800円、中正面2,300円 [特別公演・企画公演] 正面6,100円、脇正面4,700円、中正面3,100円 [特別企画公演] 正面8,500円、脇正面6,400円、中正面5,300円	公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	23公演	平成16年4月～平成17年3月	23回	23日	13,732人(101.0%)	12,900人(94.9%)	公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	13公演	平成16年4月～平成17年3月	13回	13日	8,296人(108.0%)	7,200人(93.7%)	公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	13公演	平成16年4月～平成17年3月	14回	13日	8,516人(102.9%)	7,800人(94.3%)	A	全公演とも国立劇場の役割をふまえた企画意図に沿って制作・実施されたものと認められる。面白い企画が揃い、全公演とも入場者数が目標値を超えるに至っているのは評価できる。今後とも適切な入場者数の目標値を設定し、広報宣伝も含め、その達成に努めることが期待される。 【より良い事業とするための意見等】 曲目、演者で来る観客が多いため、その点に更に配慮することが望ましい。一部に一層の演技・演出の向上が求められる。また、普及公演、狂言の会などの催しを継続していくことを期待する。
公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																						
23公演	平成16年4月～平成17年3月	23回	23日	13,732人(101.0%)	12,900人(94.9%)																																						
公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																						
13公演	平成16年4月～平成17年3月	13回	13日	8,296人(108.0%)	7,200人(93.7%)																																						
公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																						
13公演	平成16年4月～平成17年3月	14回	13日	8,516人(102.9%)	7,800人(94.3%)																																						
	入場者数の達成状況	27,900人以上	19,530人以上 27,900人未満	19,530人未満	【入場者数の達成状況】 実績30,544人／目標27,900人（達成度109.5%）	A																																					
・組踊等沖縄伝統芸能	（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する				(1) 定期公演 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>公演数</th><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>27公演</td><td>平成16年4月～平成17年3月</td><td>32回</td><td>27日</td><td>11,705(59.0%)</td><td>11,900人(60.0%)</td></tr></table> ○会場 国立劇場おきなわ大劇場 ○入場料 全席指定3,000円（4～9月：学生・障害者1割引／10月～：学生2,000円・障害者2割引） (2) 企画公演 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>公演数</th><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>2公演</td><td>平成16年6月・11月</td><td>5回</td><td>3日</td><td>1,539人(51.3%)</td><td>2,401人(60.0%)</td></tr></table> ○会場 国立劇場おきなわ大劇場 ○入場料 全席指定3,500円（学生2,000円・障害者2割引） (3) 研究公演 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>3月5日</td><td>1回</td><td>1回</td><td>254人(43.9%)</td><td>347人(60.0%)</td></tr></table> ○会場 国立劇場おきなわ大劇場 ○入場料 全席指定3,000円（学生2,000円・障害者2割引）	公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	27公演	平成16年4月～平成17年3月	32回	27日	11,705(59.0%)	11,900人(60.0%)	公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	2公演	平成16年6月・11月	5回	3日	1,539人(51.3%)	2,401人(60.0%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	3月5日	1回	1回	254人(43.9%)	347人(60.0%)	A	全公演とも国立劇場の役割をふまえた企画意図に沿って制作・実施されたものと認められる。入場者数を増やすには、ここ数年の継続的な努力が必要と考える。収支達成率が100%を越す公演がかなりの数にのぼったのは評価できる。今後とも国立劇場の性格を考えて、適切な制作が行われるよう期待したい。 【より良い事業とするための意見等】 公演の入場者数が目標に達しておらず、観客等へのPRなどをさらに充実させることが望まれる。国内や海外からの旅行者は新しい客層になりうると考えられ、航空機の機内誌やビデオでの宣伝・紹介なども含め、広報活動を期待したい。 適切な入場者の目標値を設定し、その達成に努めることが望まれる。 試行錯誤の一年目の反省をふまえてバランスの良い運営が望まれる。		
公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																						
27公演	平成16年4月～平成17年3月	32回	27日	11,705(59.0%)	11,900人(60.0%)																																						
公演数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																						
2公演	平成16年6月・11月	5回	3日	1,539人(51.3%)	2,401人(60.0%)																																						
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																							
3月5日	1回	1回	254人(43.9%)	347人(60.0%)																																							
	入場者数の達成状況	14,000人以上	9,800人以上 14,000人未満	9,800人未満	【入場者数の達成状況】 実績13,498人／目標14,000人（達成度96.4%）	B																																					
演目の拡充	（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する。				1. 復活上演候補作品の調査研究 (1) 第1回調査検討会（平成16年6月22日） 事前に各委員より提出された候補作品リスト（1人平均10作品程度）にもとづき、詳しい説明を聞くとともに、質疑応答を行った。また、本検討会の結果をもとに、第一次「復活上演候補演目一覧」（以下「一覧」という）を作成した。 (2) 第2回調査検討会（平成16年9月14日） 上記「一覧」をもとに、様々な角度から優先度の高い作品を絞り込んだ。 (3) 第3回調査検討会（平成17年3月29日） 第2回で絞り込んだ作品の中から、上演の実現度という具体的な観点から作品を選択し、各委員が分担してシノプシス等を作成することとし、次年度以降さらなる検討を重ねることを確認して閉会し、本年度の調査検討会を終了した。 2. 歌舞伎新作脚本 (1) 平成16年度新作歌舞伎脚本 ・応募 5月より募集を行い、10月末日をもって締め切った。応募総数は68篇。 ・審査・表彰 2月21日に選考会を開催し、優秀作1篇が選出された。 表彰（1篇） 優秀作『橋姫』 藤田恵子 選考委員 大笹吉雄、戸部銀作、富岡多恵子、三浦朱門、山田庄一の各氏 (2) 広報の充実 本年度より当振興会ホームページに新作脚本募集を掲載し、「賞とるマガジン」「公募ガイド」「邦楽ジャーナル」に広告を出し、またチラシを作成し劇場ロビーに配布するなど、新たな周知方の端緒についた。 3. 大衆芸能新作脚本	A	新作脚本は歌舞伎・大衆芸能ともに応募数の点で活況を呈した。国立劇場の役割をふまえた事業目的に沿った成果があがっているものと認められる。 【より良い事業とするための意見等】 復活上演の調査研究や、歌舞伎等の新作脚本の募集事業は、成果がすぐには出にくいと考えられるが、継続することが重要である。新作脚本が上演につながる成果を期待する。																																				

		・応募 8月より漫才（コント含む）の募集を行い、8月31日をもって締め切った。 応募総数は143篇（漫才96篇、コント47篇）。 ・審査・表彰 予備選考（東京太、青芝フックの各氏）を経た検討作品32篇を検討するため、3月24日に選考会を開催し、優秀作1篇・佳作2篇が選出された。 優秀作 「銀行強盗さま、5番窓口までお越しください」 天野克彦 佳作 「高性能パウリンガル」 菊池卓哉 佳作 「借金」 本田久作 選考委員（漫才部門）：太田博、大野桂、熊谷富夫、神津友好、牧伸二、保田武宏、吉川潮の各氏																																																																																		
(2) 現代舞台芸術の公演	（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）	1. 公演実績 <table><thead><tr><th>公演名</th><th>公演数</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目標入場者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>オペラ</td><td>14公演</td><td>66回</td><td>66日</td><td>81,426人(76.3%)</td><td>79,900人(75.0%)</td></tr><tr><td>バレエ</td><td>6公演</td><td>31回</td><td>31日</td><td>40,688人(76.8%)</td><td>37,000人(70.0%)</td></tr><tr><td>現代舞踊</td><td>4公演</td><td>14回</td><td>12日</td><td>6,223人(80.5%)</td><td>4,900人(70.0%)</td></tr><tr><td>演劇</td><td>11公演</td><td>187回</td><td>159日</td><td>69,386人(79.7%)</td><td>60,000人(70.0%)</td></tr><tr><td>小 計</td><td>35公演</td><td>298回</td><td>268日</td><td>197,723人(77.7%)</td><td>181,800人(71.4%)</td></tr><tr><td>青少年等鑑賞教室</td><td>2公演</td><td>11回</td><td>8日</td><td>13,706人(94.1%)</td><td>10,600人(72.8%)</td></tr><tr><td>合 計</td><td>37公演</td><td>309回</td><td>276日</td><td>211,429人(78.6%)</td><td>192,400人(71.5%)</td></tr></tbody></table> 2. アンケート結果 (オペラ) 5公演 5回実施 合計回答数1,145枚 (回収率21.8%) (バレエ) 3公演 3回実施 合計回答数 819枚 (回収率23.5%) (現代舞踊) 2公演 2回実施 合計回答数 220枚 (回収率20.8%) (演 劇) 11公演 187回実施 合計回答数3,643枚 (回収率 6.2%) 3. 外部団体との連携・協力、地方における上演 芸術祭共催2公演、地方における公演をバレエ2公演・現代舞踊2公演・演劇2公演4カ所を実施した。	公演名	公演数	回数	日数	入場者数	目標入場者数	オペラ	14公演	66回	66日	81,426人(76.3%)	79,900人(75.0%)	バレエ	6公演	31回	31日	40,688人(76.8%)	37,000人(70.0%)	現代舞踊	4公演	14回	12日	6,223人(80.5%)	4,900人(70.0%)	演劇	11公演	187回	159日	69,386人(79.7%)	60,000人(70.0%)	小 計	35公演	298回	268日	197,723人(77.7%)	181,800人(71.4%)	青少年等鑑賞教室	2公演	11回	8日	13,706人(94.1%)	10,600人(72.8%)	合 計	37公演	309回	276日	211,429人(78.6%)	192,400人(71.5%)	A	全般的に、新国立劇場の役割をふまえた企画意図に沿った公演の制作・実施が行われ、概ね高水準の、国立の劇場ならではの公演であったと評価する。いずれのジャンルも目標入場者数を上回った点を評価する。 【より良い事業とするための意見等】 レパトリーへの定着のため、さらなる努力を期待する。																																
公演名	公演数	回数	日数	入場者数	目標入場者数																																																																															
オペラ	14公演	66回	66日	81,426人(76.3%)	79,900人(75.0%)																																																																															
バレエ	6公演	31回	31日	40,688人(76.8%)	37,000人(70.0%)																																																																															
現代舞踊	4公演	14回	12日	6,223人(80.5%)	4,900人(70.0%)																																																																															
演劇	11公演	187回	159日	69,386人(79.7%)	60,000人(70.0%)																																																																															
小 計	35公演	298回	268日	197,723人(77.7%)	181,800人(71.4%)																																																																															
青少年等鑑賞教室	2公演	11回	8日	13,706人(94.1%)	10,600人(72.8%)																																																																															
合 計	37公演	309回	276日	211,429人(78.6%)	192,400人(71.5%)																																																																															
・オペラ	（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）	(1) 神々の黄昏 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><thead><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr></thead><tbody><tr><td>4月1日～4月4日</td><td>2回</td><td>2日</td><td>3,279人(91.0%)</td><td>2,700人(75%)</td></tr></tbody></table> ※事業全体では、3月26日～4月4日(6回、6日)、入場者数9,529人(目標8,100人) ○会場 オペラ劇場 ○入場料 S席23,100円、A席18,900円、B席14,700円、C席11,550円、D席7,350円、E席4,200円、Z席1,500円 (2) マクベス ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><thead><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr></thead><tbody><tr><td>5月13日～5月28日</td><td>6回</td><td>6日</td><td>9,888人(91.8%)</td><td>8,100人(75%)</td></tr></tbody></table> ○会場 オペラ劇場 ○入場料 S席21,000円、A席17,850円、B席13,650円、C席10,500円、D席6,300円、E席3,150円、Z席1,500円 (3) ファルスタッフ ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><thead><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr></thead><tbody><tr><td>6月25日～7月3日</td><td>5回</td><td>5日</td><td>7,422人(82.7%)</td><td>6,700人(75%)</td></tr></tbody></table> ○会場 オペラ劇場 ○入場料 S席21,000円、A席17,850円、B席13,650円、C席10,500円、D席6,300円、E席3,150円、Z席1,500円 (4) カルメン ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><thead><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr></thead><tbody><tr><td>6月28日～7月11日</td><td>5回</td><td>5日</td><td>7,358人(81.9%)</td><td>6,700人(75%)</td></tr></tbody></table> ○会場 オペラ劇場 ○入場料 S席18,900円、A席15,750円、B席12,600円、C席9,450円、D席6,300円、E席3,150円、Z席1,500円 (5) カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><thead><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr></thead><tbody><tr><td>9月9日～9月23日</td><td>7回</td><td>7日</td><td>9,805人(78.0%)</td><td>9,400人(75%)</td></tr></tbody></table> ○会場 オペラ劇場 ○入場料 ランク1 21,000円、ランク2 18,900円、ランク3 15,750円、ランク4 13,650円、ランク5 10,500円、ランク6 7,350円、ランク7 6,300円、ランク8 3,150円、ランクZ 1,500円 (6) ラ・ボエーム ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><thead><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr></thead><tbody><tr><td>9月25日～10月9日</td><td>5回</td><td>5日</td><td>6,651人(74.1%)</td><td>6,700人(75%)</td></tr></tbody></table> ○会場 オペラ劇場 ○入場料 ランク1 21,000円、ランク2 18,900円、ランク3 15,750円、ランク4 13,650円、ランク5 10,500円、ランク6 7,350円、ランク7 6,300円、ランク8 3,150円、Z席 1,500円 (7) エレクトラ ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><thead><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr></thead><tbody><tr><td>11月11日～11月23日</td><td>5回</td><td>5日</td><td>6,479人(72.1%)</td><td>6,700人(75%)</td></tr></tbody></table> ○会場 オペラ劇場 ○入場料 ランク1 21,000円、ランク2 18,900円、ランク3 15,750円、ランク4 13,650円、ランク5 10,500円、ランク6 7,350円、ランク7 6,300円、ランク8 3,150円、Z席 1,500円 (8) 椿姫 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><thead><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr></thead><tbody><tr><td>11月22日～12月4日</td><td>5回</td><td>5日</td><td>7,797人(86.8%)</td><td>6,700人(75%)</td></tr></tbody></table>	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	4月1日～4月4日	2回	2日	3,279人(91.0%)	2,700人(75%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	5月13日～5月28日	6回	6日	9,888人(91.8%)	8,100人(75%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	6月25日～7月3日	5回	5日	7,422人(82.7%)	6,700人(75%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	6月28日～7月11日	5回	5日	7,358人(81.9%)	6,700人(75%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	9月9日～9月23日	7回	7日	9,805人(78.0%)	9,400人(75%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	9月25日～10月9日	5回	5日	6,651人(74.1%)	6,700人(75%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	11月11日～11月23日	5回	5日	6,479人(72.1%)	6,700人(75%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	11月22日～12月4日	5回	5日	7,797人(86.8%)	6,700人(75%)	A	新国立劇場の役割をふまえた企画意図に沿った制作・実施が行われ、多彩な演目を揃えた公演であった。各公演の指揮者の水準は押しなべて良好で、特に「ファルスタッフ」の若手エッティンガーの起用は慧眼であった。演出の水準にはいくらかバラつきがみられるが、実験的な試みや演劇人の起用は成功したと思われる。シングル・キャストは定着してきたが、国内在住の日本人の出番が少ないのは残念である。合唱の充実がほしい。「おさん」の試みは評価できる。 【より良い事業とするための意見等】 一部の公演に、企画意図が舞台効果に結びつかず、また入場者数が目標に達しないものがある。「マクベス」の再演が意外に不振であったのは、再演の時期について考慮を促すものかもしれない。 日本人作品(今回は「おさん」)の入場率は悪いが、現代の日本人によるオペラ作品こそ、日本の国立劇場から発信するにふさわしいものなので、憶せず継続することが期待される。 「ルル」公演における出演者の途中降板や、とくにヴァージョンの変更等はあってはならず、事前の制作に関わる十全な読みが必要と思われる。「エレクトラ」の成功に見られるように、大胆な企画も時には必要であるが、「ルル」はその点で反省の多い舞台であろう。 収支率の向上の顕著な公演がある一方、10%台の公演（特に小劇場）があり、改善が望まれる。 今後は適切な入場者の目標値を設定し、広報宣伝も含め、その達成に努めることが望まれる。
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																																
4月1日～4月4日	2回	2日	3,279人(91.0%)	2,700人(75%)																																																																																
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																																
5月13日～5月28日	6回	6日	9,888人(91.8%)	8,100人(75%)																																																																																
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																																
6月25日～7月3日	5回	5日	7,422人(82.7%)	6,700人(75%)																																																																																
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																																
6月28日～7月11日	5回	5日	7,358人(81.9%)	6,700人(75%)																																																																																
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																																
9月9日～9月23日	7回	7日	9,805人(78.0%)	9,400人(75%)																																																																																
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																																
9月25日～10月9日	5回	5日	6,651人(74.1%)	6,700人(75%)																																																																																
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																																
11月11日～11月23日	5回	5日	6,479人(72.1%)	6,700人(75%)																																																																																
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																																																																
11月22日～12月4日	5回	5日	7,797人(86.8%)	6,700人(75%)																																																																																

○会場 オペラ劇場
○入場料 ランク1 21,000円、ランク2 18,900円、ランク3 15,750円、ランク4 13,650円、ランク5 10,500円、
ランク6 7,350円、ランク7 6,300円、ランク8 3,150円、Z席 1,500円

(9) マクベス

○期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数	目 標
1月17日～1月29日	5回	5日	5,393人(60.1%)	6,700人(75.0%)

○会場 オペラ劇場

○入場料 ランク1 21,000円、ランク2 18,900円、ランク3 15,750円、ランク4 13,650円、ランク5 10,500円、
ランク6 7,350円、ランク7 6,300円、ランク8 3,150円、Z席 1,500円

(10) ルル

○期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数	目 標
2月8日～2月17日	4回	4日	4,841人(67.4%)	5,400人(75.0%)

○会場 オペラ劇場

○入場料 ランク1 21,000円、ランク2 18,900円、ランク3 15,750円、ランク4 13,650円、ランク5 10,500円、
ランク6 7,350円、ランク7 6,300円、ランク8 3,150円、Z席 1,500円

(11) おさん

○期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数	目 標
2月25日～2月27日	3回	3日	2,481人(46.0%)	4,000人(75.0%)

○会場 オペラ劇場

○入場料 ランク1 12,600円、ランク2 11,550円、ランク3 8,820円、ランク4 7,770円、ランク5 6,300円、
ランク6 5,250円、ランク7 4,200円、ランク8 3,150円、Z席 1,500円

(12) コジ・ファン・トゥッテ

○期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数	目 標
3月21日～3月31日	6回	6日	7,820人(72.6%)	8,100人(75.0%)

○会場 オペラ劇場

○入場料 ランク1 21,000円、ランク2 18,900円、ランク3 15,750円、ランク4 13,650円、ランク5 10,500円、
ランク6 7,350円、ランク7 6,300円、ランク8 3,150円、Z席 1,500円

(13) 友人フリッツ

○期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数	目 標
6月10日～6月13日	4回	4日	1,094人(84.9%)	1,000人(75%)

○会場 小劇場

○入場料 4,200円、Z席1,500円

(14) ザザ

○期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数	目 標
3月3日～3月6日	4回	4日	1,118人(86.8%)	1,000人(75.5%)

○会場 小劇場

○入場料 5,250円、Z席1,500円

入場者数の達成状況

79,900人
以上

55,930人
以上
79,900人
未満

55,930人
未満

【入場者数の達成状況】 実績81,426人／目標79,900人（達成度101.9%）

A

・バレエ

（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）

(1) ロメオとジュリエット

○期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数	目 標
4月16日～4月25日	6回	6日	7,977人(74.0%)	7,500人(70%)

○会場 オペラ劇場

○入場料 S席10,500円、A席8,400円、B席6,300円、C席3,150円、Z席1,500円

(2) 眠れる森の美女

○期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数	目 標
6月4日～6月13日	5回	5日	8,223人(91.6%)	6,300人(70%)

○会場 オペラ劇場

○入場料 S席9,450円、A席6,300円、B席4,200円、C席3,150円、Z席1,500円

(3) ライモンダ

○期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数	目 標
10月15日～10月24日	6回	6日	8,376人(77.7%)	7,500人(70%)

○会場 オペラ劇場

○入場料 ランク1 10,500円、ランク2 9,240円、ランク3 7,980円、ランク4 6,930円、ランク5 5,880円、
ランク6 4,830円、ランク7 3,780円、ランク8 3,150円、Z席 1,500円

(4) くるみ割り人形

○期間、回数、日数及び入場者数

期 間	回数	日数	入場者数	目 標
12月17日～12月26日	7回	7日	8,152人(64.8%)	8,800人(70%)

○会場 オペラ劇場

○入場料 ランク1 9,450円、ランク2 8,400円、ランク3 7,350円、ランク4 6,300円、ランク5 5,250円、
ランク6 4,200円、ランク7 3,570円、ランク8 3,150円、Z席 1,500円

(5) 白鳥の湖

全体の水準は昨年度より一層上がったと思われる。動員数も上向いているのは評価できる。

【より良い事業とするための意見等】

一部の公演の入場者数が目標に達していない。今後は適切な入場者の目標値を設定し、広報宣伝も含め、その達成に努めることが望まれる。
日本人ダンサーをさらに登用することを望みたい。
昨年度の「スペインの燦き」のようなオペラとバレエの混合の舞台といった試みも期待される。

				○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>1月7日～10日</td><td>4回</td><td>4日</td><td>5,651人(78.7%)</td><td>5,000人(70.0%)</td></tr></table> ○会場 オペラ劇場 ○入場料 ランク1 9,450円、ランク2 8,400円、ランク3 7,350円、ランク4 6,300円、ランク5 5,250円、ランク6 4,200円、ランク7 3,570円、ランク8 3,150円、Z席 1,500円 (6) カルメンBy石井潤 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>3月25日～3月27日</td><td>3回</td><td>3日</td><td>2,309人(83.8%)</td><td>1,900人(70.0%)</td></tr></table> ○会場 中劇場 ○入場料 S席7,350円、A席4,200円、B席3,150円、Z席1,500円	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	1月7日～10日	4回	4日	5,651人(78.7%)	5,000人(70.0%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	3月25日～3月27日	3回	3日	2,309人(83.8%)	1,900人(70.0%)																					
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																									
1月7日～10日	4回	4日	5,651人(78.7%)	5,000人(70.0%)																																									
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																									
3月25日～3月27日	3回	3日	2,309人(83.8%)	1,900人(70.0%)																																									
入場者数の達成状況	37,000人以上	25,900人以上 37,000人未満	25,900人未満	【入場者数の達成状況】 実績40,688人／目標37,000人（達成度110.0%）	A																																								
・現代舞踊	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する			(1) ダンステアトロンNo.11「Close the door, open your mouth」花の歴史」 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>5月15日～5月16日</td><td>2回</td><td>2日</td><td>1,592人(87.9%)</td><td>1,300人(70%)</td></tr></table> ○会場 中劇場 ○入場料 S席5,250円、A席4,200円、B席3,150円、Z席1,500円 (2) ダンステアトロンNo.12「KAZAHANA」 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>2月4日～2月6日</td><td>3回</td><td>3日</td><td>2,182人(77.0%)</td><td>1,900人(70.0%)</td></tr></table> ○会場 中劇場 ○入場料 S席6,300円、A席5,250円、B席3,150円、Z席1,500円 (3) ダンスプラネットNo.15「DANCE EXHIBITION 2004」 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>9月15日～9月18日</td><td>4回</td><td>4日</td><td>1,005人(72.6%)</td><td>1,000人(70%)</td></tr></table> ○会場 小劇場 ○入場料 A席5,250円、B席3,150円、Z席1,500円 (4) ダンスプラネットNo.15「移動の法則」 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>2月18日～2月20日</td><td>5回</td><td>5日</td><td>1,444人(84.9%)</td><td>700人(70.0%)</td></tr></table> ○会場 小劇場 ○入場料 A席5,250円、B席3,150円、Z席1,500円	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	5月15日～5月16日	2回	2日	1,592人(87.9%)	1,300人(70%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	2月4日～2月6日	3回	3日	2,182人(77.0%)	1,900人(70.0%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	9月15日～9月18日	4回	4日	1,005人(72.6%)	1,000人(70%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	2月18日～2月20日	5回	5日	1,444人(84.9%)	700人(70.0%)	A
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																									
5月15日～5月16日	2回	2日	1,592人(87.9%)	1,300人(70%)																																									
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																									
2月4日～2月6日	3回	3日	2,182人(77.0%)	1,900人(70.0%)																																									
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																									
9月15日～9月18日	4回	4日	1,005人(72.6%)	1,000人(70%)																																									
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																									
2月18日～2月20日	5回	5日	1,444人(84.9%)	700人(70.0%)																																									
入場者数の達成状況	4,900人以上	3,430人以上 4,900人未満	3,430人未満	【入場者数の達成状況】 実績6,223人／目標4,900人（達成度127.0%）	A																																								
・演劇	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する			(1)「透明人間の蒸気」 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>4月1日～4月13日</td><td>15回</td><td>11日</td><td>14,061人(98.2%)</td><td>10,000人(70%)</td></tr></table> ○会場 中劇場 ○入場料 S席7,350円、A席5,250円、B席3,150円、Z席1,500円 (2)「THE OTHER SIDE／線の向こう側」シリーズ「女と男の風景」② ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>4月12日～4月28日</td><td>15回</td><td>15日</td><td>2,695人(56.9%)</td><td>3,400人(70%)</td></tr></table> ○会場 小劇場 ○入場料 A席5,250円、B席3,150円、Z席1,500円 (3)「てのひらのこびと」シリーズ「女と男の風景」③ ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>5月11日～5月27日</td><td>15回</td><td>15日</td><td>2,532人(52.8%)</td><td>3,400人(70%)</td></tr></table> ○会場 小劇場 ○入場料 A席5,250円、B席3,150円、Z席1,500円 (4) ブロードウェイ・ミュージカル「INTO THE WOODS」 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>6月9日～6月26日</td><td>20回</td><td>16日</td><td>17,906人(89.1%)</td><td>14,000人(70%)</td></tr></table> ○会場 中劇場 ○入場料 S席6,300円、A席5,250円、B席3,150円、Z席1,500円 (5)「請願ー静かな叫び」シリーズ「女と男の風景」④ ○期間、回数、日数及び入場者数	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	4月1日～4月13日	15回	11日	14,061人(98.2%)	10,000人(70%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	4月12日～4月28日	15回	15日	2,695人(56.9%)	3,400人(70%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	5月11日～5月27日	15回	15日	2,532人(52.8%)	3,400人(70%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	6月9日～6月26日	20回	16日	17,906人(89.1%)	14,000人(70%)	A
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																									
4月1日～4月13日	15回	11日	14,061人(98.2%)	10,000人(70%)																																									
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																									
4月12日～4月28日	15回	15日	2,695人(56.9%)	3,400人(70%)																																									
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																									
5月11日～5月27日	15回	15日	2,532人(52.8%)	3,400人(70%)																																									
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																																									
6月9日～6月26日	20回	16日	17,906人(89.1%)	14,000人(70%)																																									

新国立劇場の役割をふまえた企画意図に沿った公演の制作・実施が行われ、効果があがったと認められる。また、入場者数も目標値を超えており、効果が上がったと認められる。
【より良い事業とするための意見等】
収支率が極めて低い公演の改善が望まれる。
「INTO THE WOODS」、「喪服の似合うエレクトラ」、THE LOFTなど意欲的で充実した舞台が揃った。一週間内に、演劇（「喪服の似合うエレクトラ」）とオペラ（「エレクトラ」）で同じ主題の舞台がみられたのは新国立劇場ならではの快挙であった。いくつかの公演が賞を得たのは水準の証左であり、栗山民也芸術監督の仕事が高く評価する。 新国立劇場の役割をふまえた企画意図に沿った公演の制作・実施が行われ、効果があがったと認められる。
【より良い事業とするための意見等】
一部の公演に、企画意図が舞台効果に結びつかず、また入場者数が目標に達しないものがある。今後は適切な入場者の目標値を設定し、広報宣伝も含め、その達成に努めることが望まれる。 俳優の演技力、とくに台詞術にバラツキがみられるが、新国立劇場の演劇研修所においては、適切な指導が行われるよう期待したい。 「花咲く港」など日本の作家の作品を、新劇だけでなく幅広く取り上げることが望ましい。 新芸術監督になっても、この水準を維持してほしい。

新国立劇場の役割をふまえた企画意図に沿った公演の制作・実施が行われ、効果があがったと認められる。また、入場者数も目標値を超えており、効果が上がったと認められる。

【より良い事業とするための意見等】
収支率が極めて低い公演の改善が望まれる。

「INTO THE WOODS」、「喪服の似合うエレクトラ」、THE LOFTなど意欲的で充実した舞台が揃った。一週間内に、演劇（「喪服の似合うエレクトラ」）とオペラ（「エレクトラ」）で同じ主題の舞台がみられたのは新国立劇場ならではの快挙であった。いくつかの公演が賞を得たのは水準の証左であり、栗山民也芸術監督の仕事が高く評価する。
新国立劇場の役割をふまえた企画意図に沿った公演の制作・実施が行われ、効果があがったと認められる。

【より良い事業とするための意見等】
一部の公演に、企画意図が舞台効果に結びつかず、また入場者数が目標に達しないものがある。今後は適切な入場者の目標値を設定し、広報宣伝も含め、その達成に努めることが望まれる。
俳優の演技力、とくに台詞術にバラツキがみられるが、新国立劇場の演劇研修所においては、適切な指導が行われるよう期待したい。
「花咲く港」など日本の作家の作品を、新劇だけでなく幅広く取り上げることが望ましい。
新芸術監督になっても、この水準を維持してほしい。

				<table><tr><td>期 間</td><td>回数</td><td>日数</td><td>入場者数</td><td>目 標</td></tr><tr><td>6月22日～7月8日</td><td>15回</td><td>15日</td><td>3,575人(72.9%)</td><td>3,400人(70%)</td></tr></table> ○会場 小劇場 ○入場料 A席5,250円、B席3,150円、Z席1,500円	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	6月22日～7月8日	15回	15日	3,575人(72.9%)	3,400人(70%)				
期 間	回数	日数	入場者数	目 標														
6月22日～7月8日	15回	15日	3,575人(72.9%)	3,400人(70%)														
				(6) THE LOFT「胎内」2幕 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><td>期 間</td><td>回数</td><td>日数</td><td>入場者数</td><td>目 標</td></tr><tr><td>10月4日～10月17日</td><td>19回</td><td>13日</td><td>1,744人(43.3%)</td><td>2,300人(70%)</td></tr></table> ○会場 小劇場 ○入場料 4,200円、Z席1,500円	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	10月4日～10月17日	19回	13日	1,744人(43.3%)	2,300人(70%)				
期 間	回数	日数	入場者数	目 標														
10月4日～10月17日	19回	13日	1,744人(43.3%)	2,300人(70%)														
				(7) THE LOFT「ヒトノカケラ」1幕 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><td>期 間</td><td>回数</td><td>日数</td><td>入場者数</td><td>目 標</td></tr><tr><td>10月22日～11月3日</td><td>16回</td><td>12日</td><td>1,558人(51.3%)</td><td>1,900人(70%)</td></tr></table> ○会場 小劇場 ○入場料 4,200円、Z席1,500円	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	10月22日～11月3日	16回	12日	1,558人(51.3%)	1,900人(70%)				
期 間	回数	日数	入場者数	目 標														
10月22日～11月3日	16回	12日	1,558人(51.3%)	1,900人(70%)														
				(8) THE LOFT「二人の女兵士の物語」1幕 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><td>期 間</td><td>回数</td><td>日数</td><td>入場者数</td><td>目 標</td></tr><tr><td>10月4日～10月17日</td><td>19回</td><td>13日</td><td>1,570人(41.7%)</td><td>2,300人(70%)</td></tr></table> ○会場 小劇場 ○入場料 4,200円、Z席1,500円	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	10月4日～10月17日	19回	13日	1,570人(41.7%)	2,300人(70%)				
期 間	回数	日数	入場者数	目 標														
10月4日～10月17日	19回	13日	1,570人(41.7%)	2,300人(70%)														
				(9)「喪服の似合うエレクトラ」3部 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><td>期 間</td><td>回数</td><td>日数</td><td>入場者数</td><td>目 標</td></tr><tr><td>11月16日～12月5日</td><td>18回</td><td>18日</td><td>15,459人(94.5%)</td><td>11,400人(70%)</td></tr></table> ○会場 中劇場 ○入場料 S席7,350円、A席5,250円、B席3,150円、Z席1,500円	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	11月16日～12月5日	18回	18日	15,459人(94.5%)	11,400人(70%)				
期 間	回数	日数	入場者数	目 標														
11月16日～12月5日	18回	18日	15,459人(94.5%)	11,400人(70%)														
				(10)「城」 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><td>期 間</td><td>回数</td><td>日数</td><td>入場者数</td><td>目 標</td></tr><tr><td>1月14日～1月30日</td><td>15回</td><td>15日</td><td>3,479人(75.5%)</td><td>3,400人(70.0%)</td></tr></table> ○会場 小劇場 ○入場料 A席5,250円、B席3,150円、Z席1,500円	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	1月14日～1月30日	15回	15日	3,479人(75.5%)	3,400人(70.0%)				
期 間	回数	日数	入場者数	目 標														
1月14日～1月30日	15回	15日	3,479人(75.5%)	3,400人(70.0%)														
				(11)「花咲く港」シリーズ「笑い」① ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><td>期 間</td><td>回数</td><td>日数</td><td>入場者数</td><td>目 標</td></tr><tr><td>3月14日～3月31日</td><td>20回</td><td>16日</td><td>4,807人(75.1%)</td><td>4,500人(70.0%)</td></tr></table> ○会場 小劇場 ○入場料 A席6,300円、B席3,150円、Z席1,500円	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	3月14日～3月31日	20回	16日	4,807人(75.1%)	4,500人(70.0%)				
期 間	回数	日数	入場者数	目 標														
3月14日～3月31日	20回	16日	4,807人(75.1%)	4,500人(70.0%)														
入場者数の達成状況	60,000人 以上	42,000人 以上 60,000人 未満	42,000人 未満	【入場者数の達成状況】 実績69,386人／目標60,000人（達成度115.6%）	A													
(3) 青少年等を対象とした伝統 芸能の公開及び現代舞台芸術 の公演	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する。				A													
・ 伝統芸能の公開	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する。			(1) 6月歌舞伎鑑賞教室「解説 歌舞伎のみかた」「歌舞伎十八番の内 鳴神」 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><td>期 間</td><td>回数</td><td>日数</td><td>入場者数</td><td>目 標</td></tr><tr><td>6月1日～6月23日</td><td>44回</td><td>22日</td><td>58,682(87.7%)</td><td>53,000人(79.2%)</td></tr></table> ○会場 本館大劇場 ○入場料 学生1,300円、一般1等3,800円・2等1,500円	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	6月1日～6月23日	44回	22日	58,682(87.7%)	53,000人(79.2%)			A	各公演とも企画意図に沿って制作・実施され、効果が上がったものと認められる。特に入場者数の目標値をすべて達成できており、今後ともこれを継続維持していくことが期待される。若手による解説が効果を上げている。
期 間	回数	日数	入場者数	目 標														
6月1日～6月23日	44回	22日	58,682(87.7%)	53,000人(79.2%)														
				(2) 7月歌舞伎鑑賞教室「解説 歌舞伎のみかた」「片岡十二集の内 傾城反魂香」 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><td>期 間</td><td>回数</td><td>日数</td><td>入場者数</td><td>目 標</td></tr><tr><td>7月3日～7月24日</td><td>42回</td><td>21日</td><td>51,118人(80.1%)</td><td>50,600人(79.3%)</td></tr></table> ○会場 本館大劇場 ○入場料 学生1,300円、一般1等3,800円・2等1,500円	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	7月3日～7月24日	42回	21日	51,118人(80.1%)	50,600人(79.3%)				
期 間	回数	日数	入場者数	目 標														
7月3日～7月24日	42回	21日	51,118人(80.1%)	50,600人(79.3%)														
				(3) 6月文楽鑑賞教室「伊達娘恋緋鹿子」解説・文楽を楽しむために「菅原伝授手習鑑」 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><td>期 間</td><td>回数</td><td>日数</td><td>入場者数</td><td>目 標</td></tr><tr><td>6月9日～6月24日</td><td>32回</td><td>16日</td><td>20,010人(85.5%)</td><td>19,200人(82.1%)</td></tr></table> ○会場 文楽劇場 ○入場料 学生1,300円、一般3,600円	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	6月9日～6月24日	32回	16日	20,010人(85.5%)	19,200人(82.1%)				伝統音楽鑑賞教室の目標値（入場者数）の上昇が望まれる。魅力的な演者を起用することを期待する。
期 間	回数	日数	入場者数	目 標														
6月9日～6月24日	32回	16日	20,010人(85.5%)	19,200人(82.1%)														
				(4) 12月文楽鑑賞教室「伊達娘恋緋鹿子」解説 文楽のたのしみ「平家女護島一俊寛」 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><td>期 間</td><td>回数</td><td>日数</td><td>入場者数</td><td>目 標</td></tr><tr><td>12月7日～12月19日</td><td>24回</td><td>13日</td><td>12,631人(95.2%)</td><td>11,400人(85.9%)</td></tr></table> ○会場 本館小劇場 ○入場料 学生1,300円、一般3,600円	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	12月7日～12月19日	24回	13日	12,631人(95.2%)	11,400人(85.9%)				
期 間	回数	日数	入場者数	目 標														
12月7日～12月19日	24回	13日	12,631人(95.2%)	11,400人(85.9%)														

○会場 小劇場

○入場料 4,200円、Z席1,500円

				(5) 6月伝統音楽鑑賞教室 第一部「津軽三味線」・第二部「声明 うたと語りの源流」 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>6月16日～6月18日</td><td>3回</td><td>3日</td><td>1,754人(99.1%)</td><td>900人(50.8%)</td></tr></table> ○会場 本館小劇場 ○入場料 学生500円、一般1,500円 (6) 6月能楽鑑賞教室 解説「能楽のたのしみ」・狂言「柿山伏」・能「雷電」 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>6月14日～6月18日</td><td>10回</td><td>5日</td><td>5,751人(97.3%)</td><td>5,610人(94.9%)</td></tr></table> ○会場 能楽堂本舞台 ○入場料 学生1,300円、正面3,000円、脇正面2,500円、中正面2,000円	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	6月16日～6月18日	3回	3日	1,754人(99.1%)	900人(50.8%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	6月14日～6月18日	10回	5日	5,751人(97.3%)	5,610人(94.9%)		
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																						
6月16日～6月18日	3回	3日	1,754人(99.1%)	900人(50.8%)																						
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																						
6月14日～6月18日	10回	5日	5,751人(97.3%)	5,610人(94.9%)																						
入場者数の達成状況	140,710人以上	98,497人以上 140,710人未満	98,497人未満	【入場者数の達成状況】 実績149,946人／目標140,710人（達成度106.6%）	A																					
・現代舞台芸術の公演	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する			(1) 高校生のためのオペラ鑑賞教室「カルメン」 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>7月12日～7月16日</td><td>5回</td><td>5日</td><td>8,829人(98.6%)</td><td>6,800人(75%)</td></tr></table> ○会場 オペラ劇場 ○入場料 2,100円、一般4,200円（当日券のみ） (2) こどものためのオペラ劇場「ジークフリートの冒険～指環をとりもどせ！」 ○期間、回数、日数及び入場者数 <table><tr><th>期 間</th><th>回数</th><th>日数</th><th>入場者数</th><th>目 標</th></tr><tr><td>8月6日～8月8日</td><td>6回</td><td>3日</td><td>4,877人(86.9%)</td><td>3,800人(75%)</td></tr></table> ○会場 中劇場 ○入場料 2,100円	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	7月12日～7月16日	5回	5日	8,829人(98.6%)	6,800人(75%)	期 間	回数	日数	入場者数	目 標	8月6日～8月8日	6回	3日	4,877人(86.9%)	3,800人(75%)	A	各公演とも企画意図に沿って制作・実施され、新しい着想が成功したものもあり、効果があがったものと認められる。特に入場者数の目標値をすべて達成できており、今後ともこれを継続維持していくことが期待される。
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																						
7月12日～7月16日	5回	5日	8,829人(98.6%)	6,800人(75%)																						
期 間	回数	日数	入場者数	目 標																						
8月6日～8月8日	6回	3日	4,877人(86.9%)	3,800人(75%)																						
入場者数の達成状況	10,600人以上	7,420人以上 10,600人未満	7,420人未満	【入場者数の達成状況】 実績13,706人／目標10,600人（達成度129.3%）	A	【より良い事業とするための意見等】																				
						高校生用の演目の拡大が望まれる。バレエについても検討してほしい。																				
(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公開の実施に際しての連携協力・地方における上演等	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する。				A																					
・伝統芸能の公開	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する。			1. 平成16年度第59回文化庁芸術祭 <table><tr><td>主催公演</td><td>（本館）10月芸術祭オープニング・国際音楽の日記念公演 「唄と語りー京舞を迎えてー」 11月舞踊公演「舞の会ー京阪の座敷舞ー」 （能楽堂）10月特別企画公演 連吟「鶺鴒小町」狂言「歌仙」能「卒都婆小町」 （文楽劇場）10月舞踊公演「名流舞踊鑑賞会」 11月文楽公演「通し狂言 仮名手本忠臣蔵」 11月上方芸能特選会公演「上方芸能特選会一庶民のこころー」</td></tr><tr><td>協賛公演</td><td>（本館）10月歌舞伎公演「通し狂言 伊賀越道中双六」 10月邦楽公演「邦楽鑑賞会 琵琶の会・尺八の会」 10月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」 10月声明公演「比叡山延暦寺の声明ー御影供ー」 11月歌舞伎公演「通し狂言 噂音菊柳澤騒動」 11月雅楽公演「雅楽ー伝承の美を聴くー」 （演芸場）10月・11月定席（4公演） 10月・11月国立名人会（2公演） 10月特別企画公演「大衆芸能脚本（講談）」 11月特別企画「道の面影、街の芸」～下町の風情～ （能楽堂）10月・11月定例公演（4公演） 10月普及公演 11月特別企画公演 （文楽劇場）11月大衆芸能公演「上方演芸特選会」</td></tr></table> 2. 国・地方自治体との後援・協力 【本館歌舞伎・本館及び文楽劇場文楽・能楽堂能楽鑑賞教室における後援・協力】 後援＝文化庁、東京都、千葉県、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会、日本修学旅行協会、全国都道府県教育委員会連合会、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、京都府教育委員会、兵庫県教育委員会、奈良県教育委員会、和歌山県教育委員会、NHK大阪放送局 協力＝東京都専修学校各種学校協会、神奈川県専修学校各種学校協会、関東高等学校演劇協議会、東京都高等学校演劇研究会、ジェイティービー、近畿日本ツーリスト、日本旅行、文楽協会 【3月民俗芸能公演における協賛】 協賛＝佐渡市、佐渡観光協会、新潟県、新潟県観光協会 協力＝佐渡伝統芸能公演実行委員会 【社会人のための歌舞伎入門における後援・協賛】 後援＝日本経済団体連合会、経済同友会、東京商工会議所 協賛＝シチズン時計株式会社、伊勢半本店紅資料館 【関西元氣文化圏共催事業】（文楽劇場公演） ・文楽4公演（4・7・11・1月） ・舞踊1公演（10月「名流舞踊鑑賞会」）	主催公演	（本館）10月芸術祭オープニング・国際音楽の日記念公演 「唄と語りー京舞を迎えてー」 11月舞踊公演「舞の会ー京阪の座敷舞ー」 （能楽堂）10月特別企画公演 連吟「鶺鴒小町」狂言「歌仙」能「卒都婆小町」 （文楽劇場）10月舞踊公演「名流舞踊鑑賞会」 11月文楽公演「通し狂言 仮名手本忠臣蔵」 11月上方芸能特選会公演「上方芸能特選会一庶民のこころー」	協賛公演	（本館）10月歌舞伎公演「通し狂言 伊賀越道中双六」 10月邦楽公演「邦楽鑑賞会 琵琶の会・尺八の会」 10月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」 10月声明公演「比叡山延暦寺の声明ー御影供ー」 11月歌舞伎公演「通し狂言 噂音菊柳澤騒動」 11月雅楽公演「雅楽ー伝承の美を聴くー」 （演芸場）10月・11月定席（4公演） 10月・11月国立名人会（2公演） 10月特別企画公演「大衆芸能脚本（講談）」 11月特別企画「道の面影、街の芸」～下町の風情～ （能楽堂）10月・11月定例公演（4公演） 10月普及公演 11月特別企画公演 （文楽劇場）11月大衆芸能公演「上方演芸特選会」	A	国立劇場の役割をふまえた事業目的に沿った成果が上がっているものと認められる。企画性がよく発揮されており、今後も独創性を発揮してほしい。																
主催公演	（本館）10月芸術祭オープニング・国際音楽の日記念公演 「唄と語りー京舞を迎えてー」 11月舞踊公演「舞の会ー京阪の座敷舞ー」 （能楽堂）10月特別企画公演 連吟「鶺鴒小町」狂言「歌仙」能「卒都婆小町」 （文楽劇場）10月舞踊公演「名流舞踊鑑賞会」 11月文楽公演「通し狂言 仮名手本忠臣蔵」 11月上方芸能特選会公演「上方芸能特選会一庶民のこころー」																									
協賛公演	（本館）10月歌舞伎公演「通し狂言 伊賀越道中双六」 10月邦楽公演「邦楽鑑賞会 琵琶の会・尺八の会」 10月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」 10月声明公演「比叡山延暦寺の声明ー御影供ー」 11月歌舞伎公演「通し狂言 噂音菊柳澤騒動」 11月雅楽公演「雅楽ー伝承の美を聴くー」 （演芸場）10月・11月定席（4公演） 10月・11月国立名人会（2公演） 10月特別企画公演「大衆芸能脚本（講談）」 11月特別企画「道の面影、街の芸」～下町の風情～ （能楽堂）10月・11月定例公演（4公演） 10月普及公演 11月特別企画公演 （文楽劇場）11月大衆芸能公演「上方演芸特選会」																									
						【より良い事業とするための意見等】																				
						地方も含め他機関との協力を推進するよう望みたい。																				

			・邦楽 1 公演（5 月「文楽素浄瑠璃の会」） ・声明 1 公演（9 月「薬師寺の花会式」） ・民俗芸能 1 公演（3 月「古代国分寺舞楽の系譜」） ・大衆芸能 8 公演（12 月「師走浪曲名人会」、5 月「浪曲録声会」、上方演芸特選会 6 公演） ・特別企画 1 公演（5 月「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」） ・受託 1 公演（11 月「上方芸能特選会」） 【平成16年度大阪文化祭参加】（文楽劇場公演） ・10月邦舞公演「名流舞踊鑑賞会」 ・11月文楽公演「仮名手本忠臣蔵」 3. 外部団体主催公演への協力 新作狂言「王様と恐竜」の制作協力 ・フランスバリ公演 4月27・28・29日、海外公演実行委員会主催 ・京都府中丹文化会館公演、10月16日、京都府教職員互助組合主催 ・京都芸術劇場「春秋座」公演、10月23日、京都府教職員互助組合主催 ・文化ハルク城陽公演、11月5日、京都府教職員互助組合主催 ・アステールプラザ公演、12月9・10日、（財）広島市文化財団アステールプラザ主催 4. 受託による伝統芸能の公開 ・「日韓芸能交流公演 ―スーパー神楽とコリアン・ファンタジー―」（本館大劇場）4月9日～10日、2回 ・「文化庁芸術祭オープニング・国際音楽の日記念 唄と語り～京舞を迎えて～」（本館大劇場）10月1日、1回 ・「上方芸能特選会―庶民のこころ―」（文楽劇場）11月30日、1回 ・「日韓友情年2005 日韓芸能交流 ～文楽とパンソリ～」（韓国国立国楽院礼楽堂）1月29日～30日、（本館小劇場）3月3日～4日、2回 5. 地方における公演 ・山梨歌舞伎鑑賞教室公演「歌舞伎のみかた」「鳴神」 山梨県立県民文化ホール（山梨県甲府市）、6月25日～6月26日、3回 共催＝財団法人やまなし文化学習協会、山梨県 後援＝文化庁、山梨県教育委員会、山梨県公立小中学校校長会、山梨県高等学校校長協会、山梨県高等学校文化連盟、山梨日日新聞社、NHK甲府放送局、山梨放送、テレビ山梨、エフエム富士、エフエム甲府 ・神奈川歌舞伎鑑賞教室公演「歌舞伎のみかた」「傾城反魂香」 海老名市文化会館（神奈川県海老名市）、7月25日～7月26日、3回 共催＝神奈川県立青少年センター、海老名市文化会館事業協会 後援＝文化庁、神奈川県教育委員会、神奈川県PTA連絡協議会、神奈川県立高等学校PTA連合会 ・愛知歌舞伎鑑賞教室公演「歌舞伎のみかた」「本朝廿四孝」 瀬戸市文化センター（愛知県瀬戸市）、3月26日、2回 共催＝瀬戸市、財団法人地域創造 後援＝瀬戸市教育委員会、瀬戸市文化協会、愛知県、愛知県教育委員会																																																				
	現代舞台芸術の公演	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	1. 外部団体との連携等 ・平成16年度文化庁芸術祭主催公演 オペラ「エレクトラ」 11月11日～23日（5回公演） オペラ劇場 バレエ「ライモンダ」 10月15日～24日（6回公演） オペラ劇場 2. 地方における上演 バレエ「眠れる森の美女」：長野県民文化会館（長野市）、6月15日～18日 バレエ「シンデレラ」：福岡シンフォニーホール（福岡市）、11月21日 現代舞踊「Close the door, open your mouth」：びわ湖ホール（大津市）、5月22日 現代舞踊「移動の法則」：N T T 夢天神ホール（福岡市）、3月17日～18日 演劇「こんにちは、母さん」：新潟市民芸術文化会館（新潟市）、4月4日～6日 びわ湖ホール（大津市）、4月10日～11日 能登演劇堂（石川県鹿島郡中島町）、4月14日～16日 演劇「喪服の似合うエレクトラ」：まつもと市民芸術館（松本市）、12月10日～12日	B	オペラについては改善の余地を残す。地方における期待が大きいことに鑑み、上演回数も含め、さらなる工夫と充実が期待される。 【より良い事業とするための意見等】 外部団体とのネットワークの構築が長いスパンで望まれる。																																																		
3. 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	(1) 伝統芸能の伝承者の養成	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	1. 養成研修の実施 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th><th>年度計画</th><th>実 績</th><th>うち修了生</th><th>修了生累計</th><th>中期計画</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">歌舞伎</td><td>俳優18期</td><td>5名</td><td>6名</td><td>—</td><td>6名</td></tr> <tr> <td>鳴物12期</td><td>3名</td><td>3名</td><td>—</td><td>0名</td></tr> <tr> <td>長唄3期</td><td>2名</td><td>2名</td><td>—</td><td>1名</td></tr> <tr> <td rowspan="2">大衆芸能</td><td>寄席囃子12期</td><td>4名</td><td>4名</td><td>4名</td><td>4名</td></tr> <tr> <td>太神楽4期</td><td>2名</td><td>3名</td><td>—</td><td>2名</td></tr> <tr> <td rowspan="2">能 楽</td><td>6期</td><td>3名</td><td>3名</td><td>3名</td><td>—</td></tr> <tr> <td>7期</td><td>3名</td><td>3名</td><td>—</td><td>3名</td></tr> <tr> <td>文 楽</td><td>21期</td><td>2名</td><td>2名</td><td>—</td><td>2名</td></tr> </tbody> </table> （研修発表会等の実施） 歌舞伎俳優1回、歌舞伎音楽2回、大衆芸能・寄席囃子2回、大衆芸能・太神楽2回 能楽6期2回、能楽7期2回、文楽1回 2. 既成者研修の実施 ①歌舞伎俳優、歌舞伎音楽の既成者に対し、技芸向上のための研修を実施した。 ・歌舞伎俳優既成者研修発表会2回（目標2回） ・歌舞伎音楽既成者研修発表会1回（目標1回） ②能楽の研修修了生等による能楽若手研究会を、大阪、京都、東京において実施した。 ・能楽既成者研修発表会3回（目標3回） ③歌舞伎音楽（竹本）の技芸向上のための研修を実施した。 3. 募集・選考 寄席囃子第13期及び能楽第8期の募集については、関係団体との協議の結果、今年度の実施を見送ることとした。 募集時期については、引き続き協議・検討を進める。 4. 組踊の立方、地方の養成研修 伝統組踊保存会、沖縄県文化課等関係団体と募集人員、応募資格等の協議を行い、第1期研修生の募集・選考を行った。	区 分	年度計画	実 績	うち修了生	修了生累計	中期計画	歌舞伎	俳優18期	5名	6名	—	6名	鳴物12期	3名	3名	—	0名	長唄3期	2名	2名	—	1名	大衆芸能	寄席囃子12期	4名	4名	4名	4名	太神楽4期	2名	3名	—	2名	能 楽	6期	3名	3名	3名	—	7期	3名	3名	—	3名	文 楽	21期	2名	2名	—	2名	A	A 各々日本唯一の機関として、国立劇場の役割をふまえた事業目的に沿って、着実な成果を上げているものと認められる。 【より良い事業とするための意見等】 募集等の広報に改善の余地がある。 この実績が現代俳優の養成にも生かされることを期待したい。古典芸能の演者の演技レベルは高く、現代俳優も学ぶべき点が多いと考える。 1972年に開始した文楽の養成事業が、当時の予想以上に今日に及ぼしている影響を考えると、組踊の養成に関して、20年後のプロを作ること視野に入れる必要があると考える。 成果を見るには時間が必要であろうが、沖縄における芸能の高度化を考えれば、諸事情を克服して、全日制の養成や奨学金の増額等について検討することも期待したい。
区 分	年度計画	実 績	うち修了生	修了生累計	中期計画																																																		
歌舞伎	俳優18期	5名	6名	—	6名																																																		
	鳴物12期	3名	3名	—	0名																																																		
	長唄3期	2名	2名	—	1名																																																		
大衆芸能	寄席囃子12期	4名	4名	4名	4名																																																		
	太神楽4期	2名	3名	—	2名																																																		
能 楽	6期	3名	3名	3名	—																																																		
	7期	3名	3名	—	3名																																																		
文 楽	21期	2名	2名	—	2名																																																		

		5. メニュー、研修実施方法等の検討 ①委員会の開催状況：養成事業委員会（2回開催、16年9月16日・17年3月16日） （検討内容）16年度の養成実施状況、17年度の養成計画、募集等 （反映状況）17年度より能楽既成者研修に研究課程を設置、広報の充実、メニュー・募集方法の検討 ②関係団体との協議 伝統歌舞伎保存会、日本演芸家連合、日本能楽会、能楽協会、文楽協会等関係団体と、研修修了生の受入れ、新規の募集、講師の依頼等について協議を行った。	
①歌舞伎（俳優、音楽）	（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）	1. 研修の実施 歌舞伎俳優：18期生（6名）の1年目の研修を実施。 歌舞伎音楽（鳴物）：12期生（3名）の2年目の研修を実施。 歌舞伎音楽（長唄）：3期生（1名）の1年目の研修を実施。 2. 主な講師 中村又五郎、澤村田之助、尾上松助、中村吉之丞、松本錦吾、尾上松太郎、竹本朝重、花柳壽楽、花柳泰助、花柳錦吾、藤間勘助、杵屋喜三郎、杵屋寒玉、米川文子、田中佐太郎、田中傳兵衛、望月太左衛門、望月太左之助、鳥羽屋里長、杵屋巳太郎、近藤瑞男ほか（総勢74名） 3. 養成状況（主な授業及び回数） ・主な授業 歌舞伎実技、立廻り、とんぼ、化粧、着付け、日本舞踊、義太夫、長唄、鳴物、箏曲、大太鼓、小鼓、大鼓、太鼓、笛、講義、作法、体操等 ・授業回数 実技1,262回、その他203回 計1,465回 4. 発表会（2回開催） ・鳴物12期生・寄席囃子12期生 合同研修発表会（11月17日、演芸場） ・歌舞伎俳優18期生・鳴物12期生・長唄3期生 合同研修発表会（3月10日、本館小劇場） 5. 募集・選考の状況 歌舞伎俳優18期は、7月の適性審査に6名が合格した（10名中）。 長唄3期は、7月の適性審査に1名が合格した（1名中）。 6. メニュー、研修実施方法等の検討 引き続き各分野の養成研修を実施する。 歌舞伎音楽（竹本）の研修については、関係団体及び外部専門家等の有識者と受入れ状況等について協議の結果、引き続き募集を行っていない。 （関係団体等との協議） 松竹株式会社、伝統歌舞伎保存会、歌舞伎長唄協議会等関係団体と、研修修了生の受入れ、新規の募集、講師の依頼等について協議を行った。	A
②大衆芸能（寄席囃子、太神楽）	（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）	1. 研修の実施 寄席囃子：12期生（4名）の2年目の研修を実施し、研修を修了。 太神楽：4期生（3名）の1年目の研修を実施。 2. 主な講師 金近こう、小松美枝子、戸田美代子、今藤長十郎、今藤文子、今藤政太郎、望月初寿三、翁家喜楽、鏡味仙三郎、望月太左衛門、法月敏彦（総勢38名） 3. 養成状況（主な授業及び回数） ・主な授業 寄席囃子、長唄、鳴物、端唄、俗曲、日本舞踊、立てもの、投げもの、囃子、獅子舞、講義、作法、体操等 ・授業回数 実技799回、その他100回 計899回 4. 発表会（2回開催） ・鳴物12期生・寄席囃子12期生 合同研修発表会（11月17日、演芸場） ・寄席囃子12期生研修修了発表会・太神楽4期生研修発表会（3月3日、演芸場） 5. 募集・選考の状況 太神楽4期は、7月の適性審査に3名が合格した（3名中）。 寄席囃子第13期の募集については、寄席囃子演奏者が充足しているため、関係団体との協議の結果、今年度の実施を見送ることとした。募集時期については、引き続き協議・検討を進める。 6. メニュー、研修実施方法等の検討 引き続き各分野の養成研修を実施する。太神楽における笛の研修については、関係団体等と協議した結果、欠かせない技芸であるため受講時間を増加することとした。 （関係団体等との協議） 日本演芸家連合、落語協会、落語芸術協会、太神楽曲芸協会等関係団体と、研修修了生の受入れ、新規の募集、講師の依頼等について協議を行った。12期寄席囃子研修修了生4名は、落語協会、落語芸術協会にそれぞれ2名ずつ就業することとなった。	A
③能楽（ワキ、狂言、囃子）	（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）	1. 研修の実施 ・第6期生（専門研修課程）：能楽三役のうち囃子方、笛方1名、小鼓方1名、太鼓方1名に対し3年目の専門研修を実施し、研修を修了。 ・第7期生（基礎研修課程）：能楽三役のうちワキ方及び囃子方、ワキ方2名及び囃子方3名（小鼓方2名、大鼓方1名）に対し3年目の基礎研修を実施。上記の内、ワキ方1名及び小鼓方1名が中途辞退した。 2. 主な講師 専門研修課程：観世鏡之丞、高橋章、杉市和、亀井俊一、観世元信ほか（総勢25名） 基礎研修課程：観世清和、福王茂十郎、大倉源次郎、亀井忠雄、後藤淑ほか（総勢33人） 3. 養成状況（主な授業及び回数） 専門研修課程：	A

		・主な授業 笛、小鼓、太鼓の各専攻科目、シテ謡、四拍子（笛、小鼓、大鼓及び太鼓）の副科等実技 ・授業回数 笛方444回、小鼓方455回、太鼓方463回 基礎研修課程： ・主な授業 ワキ謡・型、装束付け・扱い（ワキ方）、小鼓、大鼓の各専攻科目、シテ謡（囃子方）、四拍子の副科等実技ほか芸能概論講座、茶道、体操（共通）等 ・授業回数 ワキ方518回、小鼓方616回、太鼓方585回 4. 発表会等 ・能楽研鑽会（6期・7期合同、6月24日、能楽堂本舞台） ・第6期能楽専門研修課程修了発表会（3月9日、能楽堂本舞台） ・第7期能楽第2回研修発表会（3月15日、能楽堂本舞台） 5. 募集・選考の状況 能楽第8期の募集については、関係団体との協議の結果、今年度の実施を見送ることとした。募集時期については、引き続き協議・検討を進める。 6. メニュー、研修実施方法等の検討 第6期生、第7期生、既成者及び能楽子弟との交流を深めること、ならびに相互に受講できる制度の検討を行い、17年度より研修修了生と伝承者子弟を対象に研究課程を設置することとした。 （関係団体等との協議） 日本能楽会及び能楽協会と、研修修了生の受入れ、新規の募集、講師の依頼、研究課程等について協議を行った。	
④文楽（太夫、三味線、人形）	（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）	1. 研修の実施 文楽三業：第21期（2名）の1年目の研修を実施。三味線1名及び人形1名 2. 主な講師 竹本住大夫、鶴澤寛治、吉田玉男、吉田簗助、吉田文雀ほか（総勢37名） 3. 養成状況 ・主な授業 義太夫、三味線、義太夫・三味線、人形実技、日本舞踊、作法、講義、公演・稽古見学、楽屋・舞台実習、部外研修、発表会等 ・授業回数 実技388回、その他313回 4. 発表会等 文楽第21期研修生発表会（1月27日、文楽劇場） 5. 募集・選考の状況 文楽21期は、11月の適性審査に2名が合格した（3名中）。 6. メニュー、研修実施方法等の検討 引き続き文楽三業の養成研修を実施する。 （関係団体等との協議） 文楽協会と、研修生の受入れ、新規の募集、講師の依頼等について検討を行った。	A
⑤組踊（立方・地方）	（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）	1. 養成カリキュラム等についての検討及び決定 (1) 組踊研修講師について 沖縄伝統芸能に関する学識者から意見聴取を行い、各関係諸団体との調整のうえ講師候補者を決定した。 (2) 組踊研修の具体的内容について 国立劇場おきなわ専門委員会答申書（15年度）でまとめられた組踊研修概要について、沖縄伝統芸能研究者、組踊保持者及び古典芸能実演家を構成員とした伝承者養成研修作業部会を開催し、以下の研修の具体的内容及び方法等の検討を行った。 組踊研修の検討及び決定 ・研修概要：各分野の研修方法、期間、日程、年間計画 ・研修内容：修得目標とする組踊演目、曲、舞踊演目等組踊、副実技及び基礎実技等の具体化 ・選考試験：募集内容、応募資格、募集人数、選考試験の内容、試験方法 2. 関係諸団体等との調整 伝統組踊保存会、沖縄伝統舞踊保存会、沖縄伝統音楽野村流保存会、縄伝統音楽安富祖流保存会、沖縄伝統音楽湛水流保存協議会、沖縄伝統音楽華曲保存会、沖縄県（教育長、文化課、文化振興課）、沖縄県立芸術大学、及び沖縄伝統芸能研究者への事業説明及び協力依頼を行った。 伝統組踊保存会との研修修了生の引き受けに関する覚書を締結した。 3. 募集・選考状況 平成16年12月から平成17年2月にかけて、中学卒業以上30歳未満の者を対象に、組踊研修の第1期生（立方、地方＜三線、太鼓、箏、胡弓、笛＞）の募集を行った。（応募者数35名） 2月18日に選考試験を実施し、受験者31名うち合格者10名（立方3名、三線4名、箏2名、笛1名）を選考した。	B
⑥既成者研修	（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）	1. 歌舞伎俳優既成者研修発表会（実施2回・目標2回） ・「第10回稚魚の会・歌舞伎会合同公演」 8月19日（木）～22日（日）、4日8回、本館小劇場、入場料金3,500円、入場者数3,804人（入場率91.1%） 「一谷嫩軍記」生田の森熊谷陣屋の場（中村吉衛門／監修・指導）、「双面水照月」（藤間勘祖／振付）、「与話情浮名横櫓」源氏店（中村梅玉・坂東玉三郎／監修・指導） ・「第14回上方歌舞伎会」（国立文楽劇場青年歌舞伎公演）中村鴈治郎／監修 8月21日（土）～22日（日）、2日4回、文楽劇場、入場料金3,500円、入場者数2,543人（入場率93.9%） 「寿曾我対面」工藤館対面の場（片岡我當／監修）、「一谷嫩軍記」生田森熊谷陣屋の場（片岡秀太郎／監修）、「紅葉狩」（藤間勘祖／振付） 2. 歌舞伎音楽既成者研修発表会（実施1回・目標1回） ・「第6回音の会公演」 8月7日（土）～8日（日）、2日2回、本館小劇場、入場料金2,000円、入場者数867人（入場率76.1%） 「高砂丹前」（鳴物・長唄、望月太左衛門／指導）、「仮名手本忠臣蔵」道行旅路の嫁入（義太夫、竹本綾太夫・鶴沢正一	A

		郎／指導)、「鏡獅子」胡蝶(鳴物・長唄、田中佐太郎／指導)、「菅原伝授手習鑑」佐太村賀の祝の場(中村又五郎／監修、尾上松助・中村吉之丞／指導) 3. 能楽研修発表会(実施3回・目標3回) ・「第14回能楽若手研究会(若手能)」 ・京都公演: 9月4日(土)、1日1回、京都観世会館、入場料金3,000円、入場者数221人(入場率46.6%) - 能「高砂」、舞囃子「天鼓」、狂言「文荷」、能「玉鬘」 ・東京公演: 1月22日(土)、1日1回、能楽堂、入場料金3,000円、入場者数614人(入場率103.9%) - 能「巻網」、狂言「伯母ヶ酒」、能「善知鳥」 ・大阪公演: 1月30日(日)、1日1回、大槻能楽堂、入場料金3,000円、入場者数625人(入場率124.5%) - 舞囃子「安宅」、能「葛城」、狂言「柿山伏」、舞囃子「鞍馬」、能「大会」 4. 文楽既成者研修発表会(実施1回・目標1回) ・「第4回文楽若手会」 6月26日(土)～27日(日)、4回、文楽劇場、入場料金2,000円、入場者数777人(入場率53.1%) 「二人三番叟」、「義経千本桜」椎の木の段・小金吾討死の段・すしやの段 5. 既成者に対する適宜の研修 ・歌舞伎音楽・竹本の既成者に対する技芸向上のための研修 - 参加人数: 20名、実施日数: 7日、実施回数: 11回 ・能楽の既成者に対する技芸向上のための研修 - 第6期生・第7期生合同の試演会「能楽研鑽会」(6月24日、国立能楽堂舞台)への参加 【特記事項】 能楽の既成者研修として、17年度より研修修了生と伝承者子弟を対象に研究課程を設置することとなり、募集・選考の結果、応募者全員(44名)に研修を実施することとした。 歌舞伎俳優既成者研修発表会については17年度には大劇場での開催を計画している。																														
(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	1. 研修の実施 <table><tr><th>区 分</th><th>年度計画</th><th>実 績</th><th>うち修了生</th><th>修了生累計</th><th>中期計画</th></tr><tr><td rowspan="3">オペラ</td><td>5期</td><td>5名</td><td>5名</td><td>5名</td><td rowspan="3">10名</td><td rowspan="3">25名</td></tr><tr><td>6期</td><td>5名</td><td>5名</td><td>—</td></tr><tr><td>7期</td><td>5名</td><td>5名</td><td>—</td></tr><tr><td>バレエ</td><td>2期</td><td>8名</td><td>8名</td><td>8名</td><td>8名</td><td>16名</td></tr></table> 2. 研修発表会等 オペラ: 3回(3月研修所公演、7月・11月試演会) バレエ: 3回(4月舞台実習、7月2年次発表会、2月修了公演) 3. 募集 オペラ研修第8期生(5名)、バレエ研修第3期生(8名)、演劇研修第1期生(15名)の募集を行った。 4. 演劇研修についての検討 研修事業専門委員会演劇部門委員を委嘱し、演劇研修の在り方等について、引き続き検討を行った結果、17年度より演劇研修を実施することとし、第1期生の募集・選考を行った。 5. メニュー、研修実施方法等の検討 ・委員会の開催 (開催状況) 評価委員会1回、オペラ・舞踊・演劇専門委員会各2回、 - 研修事業専門委員会演劇作業部会 月1回 (検討内容) 研修事業について専門的観点から意見を聴取。研修発表会の視察。 (反映状況) 17年度より演劇研修を実施することとした。 ・研修所長及び講師ほか専門家と協議し、研修方法の改善を図った。	区 分	年度計画	実 績	うち修了生	修了生累計	中期計画	オペラ	5期	5名	5名	5名	10名	25名	6期	5名	5名	—	7期	5名	5名	—	バレエ	2期	8名	8名	8名	8名	16名	A	他の研修機関に比べ、内容の充実が傑出している。新国立劇場の役割をふまえた事業目的に沿って、着実な成果が上がっているものと認められる。 【より良い事業とするための意見等】 オペラ研修について高い倍率の志願者がいることから、募集人員を増やすことはできないのか検討が望まれる。
区 分	年度計画	実 績	うち修了生	修了生累計	中期計画																											
オペラ	5期	5名	5名	5名	10名	25名																										
	6期	5名	5名	—																												
	7期	5名	5名	—																												
バレエ	2期	8名	8名	8名	8名	16名																										
①オペラ	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	1. 研修の実施 第5期生(5名、3年目)、第6期生(5名、2年目)及び第6期生(7名、1年目)の研修を行い、第5期生が修了した。 2. 主な講師 マルチェッラ・レアーレ、中田昌樹、リチャード・ハレル、ブライアン・マスダ他(26名) 3. 研修状況 ・主な授業 音楽指導、声楽指導、演技指導、ディクシオン、語学、講義、日本舞踊等 ・授業回数 第5期生: 座学73回、実技393回、その他(舞台実習等)52回 - 第6期生: 座学73回、実技395回、その他(舞台実習等)52回 - 第7期生: 座学73回、実技393回、その他(舞台実習等)10回 4. 発表会等 7月リサイタル(試演会)(7月24、25日、2回、小劇場) 11月リサイタル(試演会)(11月29、30日、2回、小劇場) 研修公演「ドン・ジョヴァンニ」(3月10日～12日、中劇場) (その他出演等) 新潟県中越大地震復興支援コンサート(12月12日、新潟県民会館) 研修生有志参加 京都国立博物館クリスマスコンサート(12月24・25日、京都国立博物館) 研修生有志出演 主催公演出演又はカヴァー作品 「カルメン」(鑑賞教室) 5. 募集・選考の状況 大学院声楽専攻修了程度の実力を有する者で、入所時年齢が女性32歳以下、男性35歳以下の者を対象に、第8期生の募集を行った。応募総数100名、2月7日から11日まで、3次にわたる選考を経て、5名(バス1名、バリトン1名、テノール1名、ソプラノ2名)が合格した。 6. メニューや研修実施方法等の改善状況 第4期研修より、海老澤敏オペラ研修所長のもと、以下のような大幅な研修方法の改善を図り、16年度も引き続き	A																													

			研修を実施した。 ・研修生一人一人の声種の重視のため、声楽講師陣による十分な検討を経て、一人一人が修得すべきレパートリーを選定する。 ・学年枠を取り払ったアンサンブル・レッスンをを行う。個人指導への偏向を避け、集団での創作活動にも十分に配慮したプログラムを組む。 ・海外から経験豊富な講師陣を招聘し、来日中、集中的に研修に当たらせる。 ・特任講師、ヘッドコーチ等を設置し、随時講師陣によるミーティングを行い、個々のレッスンの繋がりを作るとともに、日常的・恒常的に研修状況をチェックし研修内容に反映させる。同時に、研修生の身体的チェックや、精神面も含めた相談に当たる。		
	②バレエ	〔振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する〕	1. 研修の実施 第2期生8名の2年目の研修を行い、研修を修了。 2. 主な講師 豊川美恵子、新井咲子、岸辺光代、佐藤勇次、鈴木和子、ゲンナーディ・イリインほか（23名） 3. 研修状況 ・主な授業 クラシカル・バレエ、キャラクター・ダンス、ボディ・コンディショニング、演劇基礎研修、コンテンポラリー・ダンス、バレエと音楽、バレエ史、身体解剖学等 ・授業回数 座学67回、実技278回、その他（舞台実習等）27回 4. 発表会等 4月舞台実習（新国立劇場バレエ団公演「ロメオとジュリエット」）に出演、全6回、オペラ劇場） 2年次発表会（7月10日、中劇場） 第2期生修了公演（2月12、13日、2回、中劇場） 5. 募集・選考の状況 バレエ研修第3期生8名の募集に対し54名（すべて女性）の応募があった。書類選考、2次に亘る実技及び面接の結果、8名が合格した。 6. メニューや研修実施方法等の改善状況 平成13年4月にバレエ研修所が開設されるにあたり、「民間の養成所等では十分かつ継続的にできないが、バレエダンサーにとって必要不可欠なことをすべき」として、牧阿佐美バレエ研修所長のもと、以下の事項を重視し、16年度も引き続き研修を実施した。 ・様々な指導者からの指導を受けることで、将来的に多様な振付家の要請に応えられるダンサー作りを目指す。 ・コンテンポラリー・ダンス、キャラクター・ダンスなどのクラシック以外のダンスについての研鑽も並行して深める。 ・バレエと音楽、バレエ史、身体解剖学等、バレエダンサーとして必要な知識の習得を図る。 ・作品解釈力や演劇的表現力を高めるための演劇基礎研修を行う。 ・様々な舞台関係者の話を聞き交流を図る「サロン」形式の講義、茶道、マナーに関する講座を行い、教養を深め表現力向上につなげる。 ・語学研修を行い、外国人指導者とのコミュニケーション能力の向上を図る。 ・講師連絡帳による申し送り、講師会議の開催等により、個々の講師の連携を密にし、研修内容に反映させると同時に、主要講師陣全体で研修生の身体的・精神的をケアする体制を取っている。	A	
	③演劇及びその他の関係者の研修	〔振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する〕	1. 委員 大世 吉雄 演劇評論家、大阪芸術大学教授 川南 恵 演劇制作プロデューサー 西川 信廣 演出家、劇団文学座演出部 長谷部 浩 演劇評論家、東京芸術大学助教授 服部 基 照明家、ライティング・カンパニー・あかり組 2. 委員会開催の頻度 月1回程度 3. 検討の進捗状況 14年度から新国立劇場における演劇研修の在り方について基本的な検討を行っている。 この一環で、俳優養成サマーコースを以下の要領で実施した。 ・日程：2004年8月9日～22日 ・場所：新国立劇場稽古場 ・内容：ヴォイス、ムーヴメント、歌唱、伝統芸能、シーンスタディ、ダイアログ、理論、レクチャー ・募集人数：20名 ・受講料：24,000円 4. 演劇研修事業開設準備 平成17年4月から演劇研修事業を開始することが平成16年12月に内定し、必要な諸準備を行った。 ・研修所長：栗山民也、副所長：西川信廣、教務主任：川南恵 ・募集人数：15名 ・応募条件：平成17年4月1日現在満18歳以上満30歳以下等 ・研修期間：3年間 ・研修場所：芸能花伝舎・新国立劇場演劇研修所	A	
4. 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	〔振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する〕	1. 調査研究 ①上演資料集：歌舞伎7冊、文楽5冊、組踊3冊 ②公演記録：60公演（映像、音声、写真等）、視聴室利用数：2,777件 ③近代歌舞伎年表の刊行 「近代歌舞伎年表 京都篇 別巻 補遺・索引」の刊行 「近代歌舞伎年表」のための作業成果：劇界記事190件、興行カード760件 ④古文献の復刻等：「六二連俳優評判記 下」（歌舞伎資料選書・9） ⑤意識調査：「歌舞伎に関する意識調査（高校生）報告書」 ⑥国立劇場委嘱・初演の音楽作品の楽譜等の刊行 「現代の日本音楽 第13集（藤枝守）」「現代の日本音楽 第14集（宮下伸）」 2. 資料収集 ①収集実績・活用状況	A	A
				国立劇場の役割をふまえた事業目的に沿って、着実な成果が上がっているものと認められる。上演資料の集積、年表の刊行、古文献の復刻等は、極めて重要な仕事であり、伝統芸能については着々と調査・資料収集の成果が蓄積されている。さらに一般からの入手が楽になるように広報活動を行うことを期待する。 【より良い事業とするための意見等】 既刊の入門書を外国語訳することを期待し	

①伝統芸能に関する調査研究の実施

振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する

(収集) 図書：4,669冊、資料：11,062点
(活用) 図書閲覧室等利用者：7,633人、資料閲覧者件数：47件、写真複製使用件数：264件
②データベース化状況
図書 3,853件、公演情報 548件、公演記録写真 21,083枚、公演記録映像 2 公演、自主企画映画 6 本
③歌舞伎版画等図録の刊行準備：調査152件
④博物館施設等への貸与実績：6 件
⑤デジタル展示コンテンツの作成
ジオラマビジョン「歌舞伎の舞台ー舞台機構ー」
12面マルチ「歌舞伎誕生400年(3)成熟ー南北と黙阿弥ー」
能の舞台模型製作(ジオラマビジョン用)
⑥展示公開
本館展示室 1 回(目標 1 回)来場者20,113人
伝統芸能情報館情報展示室 3 回(目標 3 回)来場者28,433人
演芸場資料展示室 4 回(目標 4 回)
能楽堂資料展示室 4 回(目標 4 回)来場者17,954人
文楽劇場資料展示室 5 回(目標 5 回)来場者80,446人
国立劇場おきなわ 5 回(目標 4 回)
3. 委員会における検討、アンケート調査の実施
(1) 国立劇場調査事業委員会の開催
3月17日(木) 1 回開催
国立劇場の調査研究事業についての評価及び意見聴取
(2) アンケート調査
刊行物に関するアンケート、閲覧室に関するアンケート(本館・能楽堂・文楽劇場)、視聴室に関するアンケート(本館)、デジタル展示に関するアンケート(伝統芸能情報館)、展示に関するアンケート(本館・能楽堂・文楽劇場・国立劇場おきなわ)を実施した。合計：実施15件、回答数2,417人

1. 上演資料集の刊行

(1) 刊行実績
①歌舞伎(刊行 7 冊・目標 7 冊)
No. 466 6 月歌舞伎鑑賞教室「歌舞伎十八番の内鳴神」
No. 467 7 月歌舞伎鑑賞教室「片岡十二集の内傾城反魂香」
No. 469 10 月歌舞伎公演「伊賀越道中双六」
No. 470 11 月歌舞伎公演「鳴音菊柳澤騒動」
No. 471 12 月歌舞伎公演「花雪恋手鑑・歌舞伎十八番の内勸進帳」
No. 474 1 月歌舞伎公演「御ひいき勸進帳」
No. 476 3 月歌舞伎公演「本朝廿四孝」
②文楽(刊行 5 冊・目標 5 冊)
No. 465 5 月文楽公演「妹背山婦女庭訓」
No. 468 9 月文楽公演「双蝶々曲輪日記・花競四季寿・恋女房染分手綱」
No. 472 12 月文楽鑑賞教室「伊達娘恋絆鹿子・平家女護島」
No. 473 12 月文楽公演「菅原伝授手習鑑」
No. 475 2 月文楽公演「源平布引滝・伊賀越道中双六・壇浦兜軍記他」
③組踊(刊行 3 冊・目標 3 冊)
No. 3 8 月組踊公演「真珠道」
No. 4 10 月組踊公演「手水の縁」
No. 5 1 月組踊公演「雪払い」
(2) 配付実績
(歌舞伎・文楽) 出演者及び公演スタッフ：各100件、研究者等：各90件、研究機関：各60件
(組踊) 出演者及び公演スタッフ：各26件程度、研究者等：各 6 件程度、研究機関：各20件程度

2. 自主公演の映像記録等の作成

(1) 収録実績		記録件数・内容
本館・演芸場	映像・音声：57公演、舞台写真：58公演	※大衆芸能定席公演・花形演芸会公演を除くすべての公演 歌舞伎衣装図鑑等：7 公演、文楽人形等：5 公演
	※大衆芸能定席公演・花形演芸会公演を除くすべての公演	
能楽堂	映像・音声・写真：50公演	※すべての公演
文楽劇場	映像：11公演、音声・舞台写真：14公演	※上方演芸特選会を除くすべての公演 文楽人形等：5 公演
	※上方演芸特選会を除くすべての公演	
国立劇場おきなわ	映像・音声・写真：31公演	※すべての公演

※歌舞伎公演(教室含む)は、髪・衣裳・小道具等の写真を撮影記録(歌舞伎衣装図鑑)し、下座の附帳等を収集。文楽公演(教室含む)は、人形・大道具・小道具等の写真を撮影・記録

(2) 活用実績

(視聴) 映像資料及び音声資料、利用数総計：2,777件			
	一 般	関係者(出演者等)	合 計
本館	366件(807時間)	452件(637時間)	818件(1,444時間)
能楽堂	1,168件(2,141時間)	401件(535時間)	1,569件(2,676時間)
文楽劇場	31件(84時間)	354件(171時間)	385件(255時間)
国立劇場 おきなわ	5 件(5時間)	—	5 件(5時間)

※文楽劇場では、第2 四半期より文楽技芸員等関係者の利用時間数については集計をとっている。
※国立劇場おきなわについては、16年11月より一般の視聴が可能となった。

(複製) 映像資料及び音声資料 ※複製は出演者に対してのみ実施。

本館	202件(422点)
能楽堂	252件(252点)
文楽劇場	155件(244点)

【特記事項】

従来アルバム形式で作成していた「歌舞伎俳優衣装図鑑」を15年度公演からデジタル化することとした。

たい。例えばドイツ年にはドイツ語訳を、韓国年には韓国語訳を出版することなども一つの方向と考える。
また、劇場の目的に合致する研究を支援する制度や、楽譜の刊行にCDを添付することを検討されるよう望みたい。
さらに、伝統芸能情報館図書閲覧室の利用者の増加を図るには、土、日の開館が有効であると考ええる。試行について検討されることを期待したい。

②伝統芸能に関する資料の収集及び活用

振興会における自己点検評価の結果をふまえて、委員の協議により、評定を決定する

能楽堂の全公演記録について、磨耗の激しかったVHSテープからデジタルテープへの変換を4年計画で実施し、作業が完了した。文楽劇場では、今年度よりハイビジョンによる収録を開始した

3. 「近代歌舞伎年表」の刊行

(1) 刊行・調査実績

「近代歌舞伎年表 京都篇 別巻 補遺・索引」の刊行
「近代歌舞伎年表 名古屋篇」劇界記事の作成：190件（目標100件）
「近代歌舞伎年表 名古屋篇」原稿作成のための発行カード作成：760件（目標600件）

(2) 活用状況

配布実績（研究者・研究機関等）130件、及び八木書店により一般へ販売

【特記事項】

当初、「京都編」は補遺・索引のみの予定であったが、原稿量の増加により本来10巻に納めるべき昭和18年から22年までの発行記録も収載する結果となった。

4. 古文書の復刻等

(1) 調査・刊行実績

「六二連俳優評判記 下」（歌舞伎資料選書・9）の刊行。

(2) 活用状況

配布実績（研究者・研究機関）150件、及び本館ロビー等で販売

5. 意識調査の実施

(1) 調査実績

16年7月歌舞伎鑑賞教室公演の高校生を対象として意識調査を実施。
実施場所：本館大劇場
回答者数：4,012人（配布数5,000人、回収率80.2%）
集計結果は報告書「歌舞伎に関する意識調査（高校生）」としてまとめた。

(2) 配付実績

報告書の関係機関等への配布：50件

6. 国立劇場が委嘱・初演した音楽作品の楽譜及び解説の刊行

(1) 刊行実績

「現代の日本音楽 第13集（藤枝守）」「現代の日本音楽 第14集（宮下伸）」

(2) 活用実績

配布（研究者・研究機関）400冊、及び春秋社より一般へ販売

【特記事項】

16年度は、第13集（細川俊夫）・第14集（鳥飼潮）の予定を、第13集（藤枝守）・第14集（宮下伸）に変更した。

1. 資料の収集・分類整理、閲覧

・図書

	収集	閲覧
情報館	単行本491冊、逐次刊行物967冊、 筋骨等1,613冊（計3,071冊） 開架図書：約7,000冊	閲覧室利用者数：4,315人 （開室日数202日）
能楽堂	単行本161冊、逐次刊行物359冊 （計520冊） 開架図書：859冊	閲覧室利用者数：2,638人 （開室日数255日）
文楽劇場	単行本136冊、逐次刊行物181冊、 筋骨等280冊（計597冊） 「普及コーナー」開架図書：749冊	閲覧室利用者数：680人 （開室日数124日） 普及コーナー利用者数：9,371人
おきなわ	単行本440冊、筋骨等41冊 （計481冊）	レファレンスルームを開設（16年11月） 国立劇場おきなわ主催公演記録映像（VHS） 等の閲覧が可能

・資料

	収集	閲覧
情報館	公演記録資料6,291点 芝居版画217点他（計6,983点）	資料閲覧件数：11件（47点） 写真複製使用件数：173件（816点）
能楽堂	公演記録資料4,189点 能装束7領、能面4面、絵画・文献5点 （計4,205点）	資料閲覧件数：36件（約100点） 写真複製使用件数：62件（132点）
文楽劇場	公演記録等資料349点 視聴覚資料105点、 人形等11点、その他59点（計624点）	写真複製使用件数29件（61点）
おきなわ	組踊衣裳20点、組踊小道具12点、 視聴覚資料218点 （計250点）	—

【特記事項】

文楽劇場では、公共施設等への出張展示（7回）により資料の積極的な活用に努めた。

2. 「歌舞伎版画図録 第11巻」のための刊行準備作業

(1) 調査研究内容

図録第11巻所収予定の錦絵（150件程度）について、平成15年度にカード化した題名、役者名等の情報及び画像データを、文化デジタルライブラリーのシステムに登録し、すでに登録されている情報（「芝居版画等図録」10巻分）とともに検索、閲覧が行えるようになった。

(2) 登録実績

錦絵：152件306点（目標150件程度）

3. データベース化

区 分	実 績
図 書	国立劇場本館収蔵図書3,853件（目標3,500件）

公演情報	次の各公演のデータを文化デジタルライブラリーに登録 朝日座文楽公演（昭和41年9月から昭和59年1月まで）：288件 歌舞伎公演（平成15年11月から平成16年8月まで）：19件 文楽公演（平成15年12月から平成16年9月まで）：32件 舞踊・邦楽公演（平成15年11月から平成16年9月まで）：81件 能・狂言公演（平成15年9月から平成16年9月まで）：128件 計548件（目標500件）
公演記録写真	21,083枚（目標約20,000枚） 国立能楽堂で昭和58年9月から平成8年9月までに撮影した公演記録写真 国立劇場歌舞伎公演（鑑賞教室を含む）と文楽公演（鑑賞教室を含む）公演記録写真（平成15年度撮影分）
公演記録映像	2公演（目標2公演） 平成8年11月歌舞伎公演「妹背山婦女庭訓」 平成8年12月歌舞伎公演「妹背山婦女庭訓」
自主企画映画	6本（目標6本） 「歌舞伎の魅力ー舞台美術ー」「歌舞伎の魅力ー小道具ー」 「歌舞伎の魅力ー景清の衣裳ー」「歌舞伎の魅力ー生世話ー」 「歌舞伎の小道具ーその扱い方ー」「文楽」

4. 博物館施設等への資料の貸与

- ・本館・演芸場
貸与件数：6件89点（菱川師宣記念館、鶴岡八幡宮、オーストラリアほか）
貸与内容：屏風、絵看板、楽器、小道具等。
- ・能楽堂
貸与件数：3件42点（板橋区立美術館、大倉集古館・泉屋博古館、共立女子大学）
貸与内容：能装束類、能面、絵画資料等（解説パネルを含む）。
- ・文楽劇場
貸与件数：2件（九州国立博物館、金沢市徳田秋声記念館）
貸与内容：音源資料、写真資料

5. デジタル展示

- ・ジオラマビジョン「歌舞伎の舞台ー舞台機構ー」
- ・12面マルチ「歌舞伎誕生400年（3）成熟ー南北と黙阿弥ー」
- ・能の舞台模型製作（ジオラマビジョン用）

【特記事項】

コンテンツ制作については、提案公募方式を取っており、選考は、外部委員を含む選考委員会を開催して決定している。
12面マルチの平成14年度に制作した「国立劇場めぐり」を1画面用に再構成し、情報展示室入口横の専用モニタ（70インチ）で独立して視聴できるようにした。

6. 展示

区 分	展示公開名	期 間	入場者数
本 館	装いの美しさを求めて	10/4～3/24	20,113人
情報館	歌舞伎入門 文楽入門 千年の音ー雅楽器を見るー	4/13～7/24 8/7～12/19 1/3～3/24	28,433人
演芸場	芸能資料展 林家彦六（八代目正蔵）回顧展～23回忌に因んで～ おもちゃ絵展 新収蔵資料展	4/1～4/20 5/1～6/20 7/2～8/28 10/1～1/20	—
能楽堂	「能楽入門Ⅰ」 「能楽入門Ⅱ」 「新収蔵資料展」 「立花家伝来能面能装束展」	5/19～6/25 7/14～8/20 10/1～12/11 2/18～3/24	17,954人
文楽劇場	企画展示「文楽劇場収蔵品展」同時開催「文楽入門Ⅰ」 常設展示「文楽入門Ⅰ」 〈企画コーナー〉観劇記念スタンプ原画を中心に 常設展示「文楽入門Ⅱ」 〈企画コーナー〉小山松陽氏寄贈舞踊衣裳、簪等 企画展示「文楽と座敷からくり」 同時開催「文楽入門Ⅰ」 常設展示「文楽入門Ⅲ」 〈企画コーナー〉民俗芸能にみる舞楽	4/3～5/15 6/9～8/8 8/21～10/16 11/6～12/4 1/3～3/13	80,446人
おきなわ	「国選定保存技術『組踊道具製作』保持者島袋光史作品展」 「沖映演劇の世界」 「琉球舞踊入門」 「組踊の拡がり」 平成16年度国立劇場おきなわ収蔵品展	4/1～5/24 6/1～7/30 8/5～11/14 11/27～2/26 3/5～3/27	—

（刊行物実績）

本 館：「装いの美しさを求めて」図録
演芸場：「新収蔵資料展」目録
能楽堂：「新収蔵資料展」図録、「立花家伝来能面能装束展」調査報告書
文楽劇場：「文楽と座敷からくり」図録

【特記事項】

能楽堂「立花家伝来能面能装束展」では、立花家から借用した作品について、能楽堂の研究協力者により再調査を行い、調書を作成しなおした。
文楽劇場では、文楽の公演期間中に合わせ、展示室において「文楽応援団」によるボランティアの解説を行った。
登録63人。文楽公演中1日平均：解説員10人、観客222人。また、大阪市役所等7箇所 で文楽人形等の出張展示を行った。
国立劇場おきなわでは、当初計画より期間を延長して企画展を実施した。

展示公開状況	100%以上	70%以上 100%未満	70%未満	実績22回／計画21回（達成度104.7%）	A
--------	--------	-----------------	-------	------------------------	---

(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	1. 調査研究 ①主催公演情報のデータベース化：公演情報38件、出演者情報1,736件 ②上演作品に関する公演資料の調査・収集：チラシ等1,252件、ポスター567件 ③資料交換：送付団体数217件、受領団体数114件、概要・年報等：469件 ④刊行物：「日本洋舞史年表Ⅱ 1960～1969」 ⑤オペラハウスデータベース 登録件数：8件 2. 資料の収集 ①収集実績・活用状況 ・収集 図書：単行本796冊、逐次刊行物474冊 資料：公演記録映像資料40演目（100本）、市販映像資料214点 ・閲覧 利用者数：閲覧室31,017人、ビデオブース2,845人、ビデオシアター2,367人（254件） ※ビデオブース、ビデオシアターの利用者数は閲覧室利用者数の内数 ②データベース化状況 ・主催公演記録映像51件 ・作品解題1件 ・資料紹介2件 ③展示実績（実施4回・計画3回） ・舞台美術センター資料館 常設展2回、来場者1,823人 企画展1回、来場者636人（常設展来場者数の内数） ・新国立劇場2階プロムナード 企画展1回 ・その他展示 主催公演のうち代表的な演目の舞台衣装を新国立劇場エントランスギャラリーで展示	A 新国立劇場の役割をふまえた事業目的に沿って、着実な成果が上がっているが、まだ蓄積も浅くなお成果を注視したい。 【より良い事業とするための意見等】 利用者のためのさらなる広報が望まれる。 新国立劇場における企画展等は1回のみでなく、拡大が望まれる。
①現代舞台芸術に関する調査研究の実施	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	1. 公演情報のデータベース化 (1) 公演情報：38件 (内訳) オペラ：17件 鑑賞教室「カルメン」、ジークフリートの冒険、オペラ研修所7月リサイタル、カヴァレリア・ルスティカーナノ道化師、ラ・ボエーム、エレクトラ、椿姫、マクベス、オペラ研修所11月リサイタル、ルル、おさん、コジ・ファン・トゥッテ、フィガロの結婚、オペラ研修所公演「ドン・ジョヴァンニ」、ザザ、フィデリオ、蝶々夫人 舞 踊：11件 バレエ研修所発表会、DANCE EXHIBITION 2004、ライモンダ、移動の法則、くるみ割り人形、白鳥の湖、風花、カルメン、バレエ研修所修了公演、赤光、眠れる森の美女 演 劇：10件 でのひらのこびと、請願、喪服の似合うエレクトラ、胎内、ヒトノカケラ、二人の女兵士の物語、城、花咲く港、コミュニケーションズ、その河をこえて、五月 (2) 出演者情報：1,736件 (内訳) オペラ：297件、舞踊：534件、演劇：905件 2. 上演作品に関する公演資料の収集整理 (1) チラシ等：1,252件 (内訳) オペラ：326件、舞踊：304件、演劇：411件、その他：211件、ポスター：567件 (内訳) 国内上演ポスター：560件、海外上演ポスター：7件 3. 団体・劇場との資料交換 (1) 新国立劇場主催公演関係資料（プログラム、チラシ、年報、公演カレンダー等）を年2回、国内外の現代舞台芸術団体及び劇場へ送付し、先方からは随時同様の資料を提供してもらった。 ・送付団体数 217件 (内訳) 国内芸術団体54、国内劇場56、海外劇場107 ・受領団体数 114件 (内訳) 国内芸術団体36、国内劇場45、海外劇場33 ・概要・年報等：469件 (内訳) 国内芸術団体17、国内劇場330、海外劇場122 4. 日本近代の舞踊上演に関する資料の調査、報告書の作成 (1) 調査研究内容 「日本洋舞史年表Ⅱ 1960～1969」の刊行 (2) 活用実績 配布（研究者・研究機関等）：368冊 5. オペラハウスデータベースの整備 (1) 海外劇場調査（海外の主要な劇場の最新データを調査）7劇場 今年度、アジア・オセアニア等7劇場の調査に着手した。 シドニー・オペラ・ハウス（オーストラリア）、上海大劇院（中国）、香港アートセンター（中国）、国立蔣介石文化センター（台湾）、ソウル・アート・センター（韓国）、ポリショイ劇場（ロシア）、マリインスキー劇場（ロシア） (2) データベース化 登録件数：8件 平成15年度海外劇場調査「主要各国の文化施策と主要劇場の実態調査」（2004年3月みずほ総合研究所株式会社）のデータを入力した。 ロイヤル・オペラハウス（イギリス）、ロイヤル・ナショナル・シアター（イギリス）、メトロポリタン・オペラ（アメリカ）、サンフランシスコ・オペラ（アメリカ）、パリ・オペラ座（フランス）、コメディ・フランセーズ（フランス）、バイエルン州立劇場（ドイツ）、ウィーン国立歌劇場（オーストリア）	A
②現代舞台芸術に関する資料の収集及び活用	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	1. 資料の収集、閲覧 (1) 収集内容 ・図書 専門分野である現代舞台芸術に関する資料（単行本・逐次刊行物）を中心に収集するとともに、周辺分野（芸術・文学等）資料、及び参考資料（辞書・百科事典等）を収集した。 ・資料 自主公演の公演記録映像資料（ビデオ）を中心に収集するとともに、オペラ・舞踊・演劇に関する市販映像資料（DVD、VHS等）を収集した。 (2) 収集・閲覧実績 ・収集 図書：単行本796冊、逐次刊行物474冊 資料：公演記録映像資料40演目（100本）、市販映像資料214点 ・閲覧 閲覧室利用者数：31,017人（開室日数290日） 図書閲覧者数：483件（976冊） 2. 主催公演記録映像等のデータベース化 (1) 公演記録映像51件	A

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

					他の劇場施設等の利用方法、利用料金等の調査を行った。他劇場について前年からの値上げ等は認められなかった。																																																						
					5. アンケート調査 全劇場利用者に対して、随時サービス等に関するアンケート調査を実施した。																																																						
					<table><tr><th>区 分</th><th>配布件数</th><th>回答数</th><th>回収率</th></tr><tr><td>本館大劇場</td><td>58件</td><td>17件</td><td>29.3%</td></tr><tr><td>本館小劇場</td><td>139件</td><td>43件</td><td>30.9%</td></tr><tr><td>演芸場</td><td>52件</td><td>20件</td><td>38.5%</td></tr><tr><td>能楽堂</td><td>100件</td><td>38件</td><td>38.0%</td></tr><tr><td>文楽劇場</td><td>86件</td><td>21件</td><td>24.4%</td></tr><tr><td>文楽劇場小ホール</td><td>69件</td><td>25件</td><td>36.2%</td></tr><tr><td>国立劇場おきなわ大劇場</td><td>55件</td><td>27件</td><td>49.1%</td></tr><tr><td>国立劇場おきなわ小劇場</td><td>18件</td><td>6件</td><td>33.3%</td></tr><tr><td>新国立劇場オペラ劇場</td><td>3件</td><td>3件</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>新国立劇場中劇場</td><td>21件</td><td>21件</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>新国立劇場小劇場</td><td>10件</td><td>10件</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>合 計</td><td>611件</td><td>231件</td><td>37.8%</td></tr></table>	区 分	配布件数	回答数	回収率	本館大劇場	58件	17件	29.3%	本館小劇場	139件	43件	30.9%	演芸場	52件	20件	38.5%	能楽堂	100件	38件	38.0%	文楽劇場	86件	21件	24.4%	文楽劇場小ホール	69件	25件	36.2%	国立劇場おきなわ大劇場	55件	27件	49.1%	国立劇場おきなわ小劇場	18件	6件	33.3%	新国立劇場オペラ劇場	3件	3件	100.0%	新国立劇場中劇場	21件	21件	100.0%	新国立劇場小劇場	10件	10件	100.0%	合 計	611件	231件	37.8%		
区 分	配布件数	回答数	回収率																																																								
本館大劇場	58件	17件	29.3%																																																								
本館小劇場	139件	43件	30.9%																																																								
演芸場	52件	20件	38.5%																																																								
能楽堂	100件	38件	38.0%																																																								
文楽劇場	86件	21件	24.4%																																																								
文楽劇場小ホール	69件	25件	36.2%																																																								
国立劇場おきなわ大劇場	55件	27件	49.1%																																																								
国立劇場おきなわ小劇場	18件	6件	33.3%																																																								
新国立劇場オペラ劇場	3件	3件	100.0%																																																								
新国立劇場中劇場	21件	21件	100.0%																																																								
新国立劇場小劇場	10件	10件	100.0%																																																								
合 計	611件	231件	37.8%																																																								
					6. 利便性の向上のための検討等 本館・演芸場、能楽堂、文楽劇場の各施設使用規程を一元化し、利用方法を統一するなど、利用者の利便性の向上を図った。また、国立劇場における施設利用業務のシステム化の検討を行った。 国立劇場おきなわでは、劇場の平面図や予約申込書についてホームページからのダウンロードにより提供した。 新国立劇場において、新たに小劇場利用者にも入場券の点検・劇場内の案内等のサービスを提供した。																																																						
	劇場施設の貸与状況	100%以上	70%以上 100%未満	70%未満	実績利用率74%／計画利用率71%（達成度104.2%）	A																																																					
6. 附帯する業務	(1) 教育普及事業の実施	（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）				A	A																																																				
		1. 講座等の実施 (1) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する理解の促進と普及を図るための講座等 <table><tr><th>名 称</th><th>回数</th><th>参加者数</th><th>有意義であったとの回答割合</th></tr><tr><td>伝統芸能講座「歌舞伎」（本館）</td><td>6 回</td><td>681人</td><td>平均86.1%</td></tr><tr><td>芸能資料関連講座（本館）</td><td>3 回</td><td>168人</td><td>平均87.6%</td></tr><tr><td>公演記録鑑賞会（本館）</td><td>12回</td><td>828人</td><td>平均80.0%</td></tr><tr><td>能楽鑑賞講座（能楽堂）</td><td>12回</td><td>2,133人</td><td>平均88.9%</td></tr><tr><td>公演記録鑑賞会（文楽劇場）</td><td>12回</td><td>1,711人</td><td>平均89.8%</td></tr><tr><td>オペラを楽しむ集い（舞台美術センター資料館）</td><td>1 回</td><td>84人</td><td>98.1%</td></tr><tr><td>合 計</td><td>46回</td><td>5,605人</td><td>平均88.4%</td></tr><tr><td>目 標</td><td></td><td>5,600人</td><td>70.0%</td></tr></table> ※上記とは別に舞台美術センター資料館（銚子市）の視聴覚室において「DVDオペラ鑑賞会」を8回実施、参加者数は合計132人であった。 (2) 公演内容に対する理解の促進を図るための講座等 <table><tr><th>名 称</th><th>回数</th><th>参加者数</th></tr><tr><td>オペラトーク</td><td>7 回</td><td>718人</td></tr><tr><td>シアタートーク（バレエ・現代舞踊・演劇）</td><td>7 回</td><td>2,240人</td></tr></table>				名 称	回数	参加者数	有意義であったとの回答割合	伝統芸能講座「歌舞伎」（本館）	6 回	681人	平均86.1%	芸能資料関連講座（本館）	3 回	168人	平均87.6%	公演記録鑑賞会（本館）	12回	828人	平均80.0%	能楽鑑賞講座（能楽堂）	12回	2,133人	平均88.9%	公演記録鑑賞会（文楽劇場）	12回	1,711人	平均89.8%	オペラを楽しむ集い（舞台美術センター資料館）	1 回	84人	98.1%	合 計	46回	5,605人	平均88.4%	目 標		5,600人	70.0%	名 称	回数	参加者数	オペラトーク	7 回	718人	シアタートーク（バレエ・現代舞踊・演劇）	7 回	2,240人									
名 称	回数	参加者数	有意義であったとの回答割合																																																								
伝統芸能講座「歌舞伎」（本館）	6 回	681人	平均86.1%																																																								
芸能資料関連講座（本館）	3 回	168人	平均87.6%																																																								
公演記録鑑賞会（本館）	12回	828人	平均80.0%																																																								
能楽鑑賞講座（能楽堂）	12回	2,133人	平均88.9%																																																								
公演記録鑑賞会（文楽劇場）	12回	1,711人	平均89.8%																																																								
オペラを楽しむ集い（舞台美術センター資料館）	1 回	84人	98.1%																																																								
合 計	46回	5,605人	平均88.4%																																																								
目 標		5,600人	70.0%																																																								
名 称	回数	参加者数																																																									
オペラトーク	7 回	718人																																																									
シアタートーク（バレエ・現代舞踊・演劇）	7 回	2,240人																																																									
		2. デジタルコンテンツの作成等 (1) デジタルコンテンツの作成 デジタル技術により教育普及を目的としたコンテンツを次のとおり作成し、3月からインターネットにおいて配信を開始した。 ・舞台芸術教材「文楽編 その1」 ・舞台芸術教材「演目解説 妹背山婦女庭訓」 (2) インターネットによる配信 ① 配信実績 文化デジタルライブラリーとして、インターネットを通じて学校教育機関や一般へ配信した。 アクセス件数：44,438件（目標30,000件） ② 活用事例 ・芸術鑑賞教室（歌舞伎）の事前指導で利用した。 ・音楽や総合学習の授業の中で、和楽器を調べたり、隈取や見得の説明に利用した。 ・大学のゼミ発表で、演目解説コンテンツを部分的にプロジェクターで見せた。 ・社会教育（演劇の歴史）の現場で、演目解説コンテンツの中の素材を使用して解説を行った。 ③ 広報・告知等 パンフレットを国立劇場の各施設に設置したほか、教育関係の業界紙への広告掲載、全国の小・中・高等学校（約15,000校）へのメール配信により、文化デジタルライブラリーの周知を行った。 ④ 教育現場のニーズの把握 文化デジタルライブラリーについての周知の際、アンケートを添付し、教育現場における要望等意見の聴取に努めた。 （意見の例） ・日本の伝統的な舞台芸術との対比で、西洋の音楽や舞台芸術のライブラリーも欲しい。 ・小学生向けの「ジュニア」モードと中学生から一般向けの「通常」モードを用意して欲しい。 ・映像やアニメを使用した動きのある部分とシンプルなテキストと画像で構成される部分とが両立するようなコンテンツにして欲しい。 ・地方でも本物に接する機会を多く作って欲しい。 ・教育現場の多様な目的に応えられるよう、舞台芸術教材を質・量ともにもっと充実させて欲しい。																																																									
	講座等の実施状況	100%以上	70%以上 100%未満	70%未満	実績46回／計画46回（達成度100.0%）	A																																																					
	講座等の参加者数	5,600人以上	3,920人以上 5,600人	3,920人未満	実績5,605人／目標5,600人（達成度100.1%）	A																																																					

	講座等の参加者の満足度	70%以上	50%以上 70%未満	50%未満	実績88.4%／目標70%	A																
	舞台芸術教材の作成状況	100%以上	70%以上 100%未満	70%未満	実績2件／計画2件（達成度100.0%）	A																
	文化デジタルライブラリーへのアクセス状況	30,000件以上	21,000件以上 30,000件未満	21,000件未満	実績44,438件／目標30,000件（達成度148.1%）	A																
(2) 広報活動の充実	〔振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する〕				1. 広報誌を次のとおり発行・配布した。 ・「日本芸術文化振興会ニュース」（毎月発行） ・「ステージノート」（毎月発行） ・「独立行政法人日本芸術文化振興会概要」（16年5月作成） ・「新国立劇場要覧」（16年6月作成） ・「独立行政法人日本芸術文化振興会要覧」（16年5月作成） ・「独立行政法人日本芸術文化振興会概要（英語版）」（16年10月作成） ・「独立行政法人日本芸術文化振興会概要（独語版）」（17年2月作成） ・「新国立劇場年報 平成15年度」（16年10月作成） ・「芸術文化振興基金No.19」（16年6月作成） ・「独立行政法人日本芸術文化振興会年報 平成15年度」（17年1月作成） 2. ホームページの運用 ① アクセス件数・情報更新日数 <table><tr><th>区 分</th><th>アクセス件数</th><th>情報更新日数</th></tr><tr><td>日本芸術文化振興会ホームページ</td><td>478,127件</td><td>3.0日</td></tr><tr><td>新国立劇場ホームページ</td><td>774,387件</td><td>2.7日</td></tr><tr><td>合計・平均</td><td>1,252,514件</td><td>2.8日</td></tr><tr><td>目 標</td><td>770,000件</td><td>7.0日</td></tr></table> ② ホームページの主な充実内容 （振興会ホームページ） ・必要な情報にアクセスしやすいよう、各館ごとのトップページを設けるなどホームページの全面的リニューアルについて、検討・準備を進めた。 ・能楽・文楽のユネスコ世界無形遺産登録にあわせ、理解の促進を目的とするコンテンツ「能楽への誘い」「文楽への誘い」を作成・掲載した。 ・チケット販売促進のため、7月の親子鑑賞教室インターネット予約のためのバナーを作成した。 （新国立劇場ホームページ） ・「新国立劇場について」「オペラ入門」「舞台美術センター」「リンク・著作権等について」「新国立劇場バレエ団」（日本語版、英語版）を新たに掲載した。 ・「サイト内検索」機能を追加した。 ・「公演のご案内」ページに研修公演を追加した	区 分	アクセス件数	情報更新日数	日本芸術文化振興会ホームページ	478,127件	3.0日	新国立劇場ホームページ	774,387件	2.7日	合計・平均	1,252,514件	2.8日	目 標	770,000件	7.0日	A	日本芸術文化振興会の事業目的に沿った着実な成果が上がっているものと認められる。 【より良い事業とするための意見等】 広報誌の見やすさに工夫の余地がある。
区 分	アクセス件数	情報更新日数																				
日本芸術文化振興会ホームページ	478,127件	3.0日																				
新国立劇場ホームページ	774,387件	2.7日																				
合計・平均	1,252,514件	2.8日																				
目 標	770,000件	7.0日																				
	決定からホームページへの掲載まで期間	7日未満	7日以上 9日未満	9日以上	実績2.8日／目標7.0日	A																
	ホームページへのアクセス件数	77万件以上	53.9万件以上 77万件未満	53.9万件未満	実績1,252,514件／目標770,000件（達成度162.7%）	A																
(3) 交流事業の実施状況	〔振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する〕				1. 交流公演の実施 ・「日韓芸能交流公演—スーパー神楽とコリアン・ファンタジー—」 4月9日～10日、2回、本館大劇場 ・「日韓友情年2005 日韓芸能交流～文楽とパンソリ～」 1月29日～30日、国立国楽院礼楽堂（ソウル） 3月3日～4日、2回、本館小劇場 ・国立劇場おきなわ11月企画公演「アジア・太平洋地域の芸能＜獅子舞の競演＞」（韓国） 11月6日～7日、3回、国立劇場おきなわ大劇場 2. 外国の芸能関係者の来場、見学等 ・国立劇場（本館・能楽堂・文楽劇場） 21件81名 （主な来場者）韓国国立中央劇場、シンガポール・ナショナル・アーツ・カウンシル、フィンランド国立劇場、エジプト文化省、韓国パンソリ振興会ほか ・国立劇場おきなわ 5件49名 （主な来場者）中華人民共和国福建省泉州市代表团、中華民国国務大臣ほか ・新国立劇場 25件114人 （主な来場者）北京人民芸術院、バリ国立高等音楽院、韓国文化芸術振興院、ソウル文化財団、AAPPAC事務局、日独演劇教育ワークショップほか 3. 研修事業の実施等 ・韓国舞台技術者研修事業の実施（新国立劇場） 15年度より韓国舞台技術者2名（韓国芸術の殿堂、韓国国立劇場から舞台監督各1名）を招聘し4月13日まで実務研修を実施。交流の一層の発展に資するため、「日韓舞台用語集」を作成 ・文化庁海外芸術家研修制度による韓国研修員の受け入れ（新国立劇場） 韓国の舞台技術専門家2名を10月3日から11月25日まで受け入れ実務研修を実施 ・アジア太平洋パフォーミングアーツセンター連盟（AAPPAC）への参加（新国立劇場）	A	日本芸術文化振興会の事業目的に沿った着実な成果が上がっているものと認められる。 【より良い事業とするための意見等】 早めに計画を作り、早めに広報するよう望みたい。															

(4) 劇場利用者等へのサービスの向上

振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する

アジア太平洋地域の主要な総合芸術文化施設（14カ国29施設・団体）で構成されるAAPPACIに9年以来加盟しており、年次総会への出席など情報交流活動を実施。8月30日に同連盟事務局長の訪問を受け入れた。なお、年次総会は16年度内には開催されなかった。
・日独舞台芸術交流（国立劇場）
「日本におけるドイツ2005/2006」に併せ、独語版概要を作成するなど交流推進の準備作業を行った。

- 観劇環境の整備
 - 施設・設備の整備実績
 - 「国立劇場託児室」の設置（本館）
16年11月歌舞伎公演より開設。歌舞伎及び文楽公演開催時に営業。
11月から3月までの6公演で67日間営業し、90人の利用者があった。
 - 大劇場1階上手に多目的トイレを設置（本館）
 - 楽屋玄関ホールのスロープ化（能楽堂）
 - トイレに手すり・棚等を設置（文楽劇場・国立劇場おきなわ）
 - 受動喫煙防止のため、灰皿の撤去・喫煙所の整備を行い、分煙を図った。（全館）
 - 劇場周辺の美化のため、のぼり旗を設置（本館）
 - すべての案内表示を2ヶ国語表示に改修（能楽堂）
 - トイレ、段差解消機等のサイン表示を増設（国立劇場おきなわ・新国立劇場）
 - 「観客の視点に立った観劇環境の醸成」を図るための検討チーム（新国立劇場アメニティ検討チーム）を設置し、具体的な提案を取りまとめた。
（具体的な対応）オペラ劇場ホワイエ等に長椅子・丸テーブルを増設
小劇場ロビー・ホワイエの照明照度の改善
小劇場階段手すりの延長
館内備品の整備
 - その他
 - ・監視カメラ（ＩＴＶカメラ）の機能強化（新国立劇場）
 - ・初春歌舞伎公演に際しロビーで鏡開きや太神楽を催し、客席で獅子舞や手拭い捲きを実施（本館）
 - ・民俗芸能公演などに際し、ロビーにおいて地元物産販売を実施（本館・文楽劇場）
 - ・東京オペラシティと共催で「サマーフェスティバル」を実施（新国立劇場）
 - 外国語への対応
 - ・プログラムに英文作品解説・梗概を掲載（本館）
 - ・英文解説プリント、英語パンフレット、英文能・狂言入門解説リーフレットの作成・無料配布（能楽堂・文楽劇場）
 - ・英語版イヤホンガイドサービスの提供（本館・文楽劇場）

本館：歌舞伎5公演、文楽4公演で実施
文楽劇場：11月文楽公演で試験的に実施、1月文楽公演より導入開始
・案内表示を日・英の2ヶ国語表記に整備（能楽堂・文楽劇場・国立劇場おきなわ）
・英語の場内アナウンスを新たに実施（文楽劇場）
・文楽紹介用タッチパネル式情報端末（日・英・仏3ヶ国語対応）の活用（文楽劇場）
・英語版パンフレットの作成（国立劇場おきなわ）
・英語版「日本芸術文化振興会概要」の発行
・日本におけるドイツ年に合わせ、新規に独語版「日本芸術文化振興会概要」を作成
・英語版「平成15年度年報」の発行（新国立劇場）
・英語版の公演案内・公演カレンダーを作成、シーズンブックに英語表記を付加（新国立劇場）
・上演時に英語対応のできるスタッフをおいた（新国立劇場）
- チケットセンターの充実、インターネット販売の促進
 - チケット販売・管理システムの統一のための準備
チケットセンター（東京）と文楽劇場チケット販売・管理システム（大阪）を統一するためのシステム改修・整備を進めた。17年7月公演より新システムが本格移動する予定である。
 - インターネット販売の促進
今年度も外部業者に委託し、歌舞伎、文楽公演のチケットをインターネットにより販売した。販売実績は以下のとおりである。

ジャンル	公演数	販売枚数
歌舞伎	7	4,691枚
文楽	6	3,033枚
親子歌舞伎	1	7,918枚
合 計	14	15,642枚
- 会員組織によるサービス
 - 会員サービスの実施
各会員組織において、チケットの先行販売、割引販売のほか、会報の発行等各種サービスの提供を実施した。新国立劇場においてはインターネットでの先行予約受付を実施した。
 - 会報の発行
 - ・「あぜくら」（毎月25日発行）
 - ・「文楽劇場友の会会報」（4・5・7・9・11・2月の年6回発行）
 - ・「国立劇場おきなわ友の会会報」（7月、10月、12月、3月の年4回発行）
 - ・「ジ・アトレ」（毎月発行）
 - 会員向け催事
 - 【あぜくら会】
 - ・10月歌舞伎公演「伊賀越道中双六」に因む催しとして、「歌舞伎へのいざない」を開催
8月23日(月)午後6時 本館大劇場
座談会「『鍵屋ノ辻の仇討』をめぐる」（中村鴈治郎・一龍齋貞水・池宮彰一郎）
映画上映「伊賀の水月（剣雲三十六騎）」（1942年大映）
 - 【文楽劇場友の会】
 - ・文楽劇場開場20周年を記念して、「観劇スタンプラリー」を実施
4・7・11月の3回の文楽公演をすべて観劇した会員に記念品（マグカップ）を贈呈（参加674人）
 - ・「文楽のつどい」を4回実施（目標4回程度）
7月14日(水) 文楽劇場小ホール 参加178人
10月28日(木) 文楽劇場 参加633人
12月8日(水) パスツアー「七福神ゆかりの地見学ツアー」 参加45人
3月25日(金) 文楽劇場小ホール 参加150人
 - 【国立劇場おきなわ友の会】
 - ・鑑賞を伴う組踊解説会1回（12月実施）
 - 【クラブ・ジ・アトレ】
 - ・オペラ、舞踊の芸術監督によるシーズンの公演紹介（シーズントーク2/19、中劇場）を実施

A

劇場利用者等へのサービスは向上しており、日本芸術文化振興会の事業目的に沿った成果がより一層上がっているものと認められる。
託児室の設置は画期的である。67日間で90人の利用は、日が浅いせいもあるが、広報の徹底を望みたい。
文楽、邦舞などの字幕表示については有効であると思う。

【より良い事業とするための意見等】

観客動員に難のある公演については、事前の座談会、解説会を行うなど、積極的な取組を期待したい。
ボランティアについては、今の段階から、役割、組織化の方法を早めに決定することが望ましく、他の劇場にモデルを提供することを期待する。
託児室を新国立劇場にも設置することを望みたい。

参加者：オペラ100人、舞踊50人

(2) 在籍者数（3月末現在）

会員組織	在籍者数	目 標	利用件数
あぜくら会	15,191人	14,750人	81,902件
文楽劇場友の会	7,016人	6,900人	21,534件
クラブ・ジ・アトレ	14,532人	15,000人	77,055件
小 計	36,739人	36,650人	180,491件
国立劇場おきなわ友の会	774人	—	628件
合 計	37,513人	—	181,119件

- (3) アンケート調査の実施
クラブ・ジ・アトレにおいて、休眠会員（購入したことのない会員）を対象に、購入しない理由・今後の継続希望などのアンケートを実施した。

5. 公演説明会、見学会等の実施

(1) 公演説明会の実施

鑑賞団体に対して、制作担当職員等が演目・鑑賞のポイント等を解説する公演説明会を次のとおり実施した。

本館・演芸場	112件	5,871人（歌舞伎：67件3,967人、文楽：45件1,904人）
能楽堂	11件	582人
文楽劇場	30件	1,845人
国立劇場おきなわ	8件	14人
新国立劇場	5件	139人
合 計	166件	8,451人

(2) 施設見学の実施

鑑賞団体、小中学校、その他希望者の施設見学を次のとおり受け入れた。

本館・演芸場	13件	144人
能楽堂	15件	137人
文楽劇場	4件	63人
国立劇場おきなわ	248件	4,835人
新国立劇場	57件	832人
合 計	337件	6,011人

(3) バックステージツアーの実施

一般を対象としたバックステージツアーを実施した。

国立劇場おきなわ	5回	190人
新国立劇場	57回	1,027人
合 計	60回	1,217人

(4) ボランティアによる展示解説（文楽劇場）

「文楽応援団」ボランティアによる文楽・展示の解説案内を行った。

・文楽公演中1日平均：解説員10人、観客222人

【特記事項】

国立劇場おきなわでは、夏休み子供向けバックステージツアーを実施（2回実施、参加137人）、会員サービスのため友の会会員を対象とした見学会も実施した。
新国立劇場では、「子どものためのオペラ鑑賞会」にあわせ、子どもを対象とした「中劇場探検ツアー」（4回実施、参加109人）を実施した。

6. ボランティアの検討

(1) ボランティアによる展示解説（文楽劇場）

「文楽応援団」として63人（3月末現在）のボランティア登録があり、資料展示室において文楽公演期間中に、文楽・展示の解説案内を行った。
・文楽公演中1日平均：解説員10人、観客222人

(2) 本館及び能楽堂における検討

業務効率化等に関する検討会において検討を行い、その検討結果を受けて、ボランティア導入の試行として職員による国立劇場内部見学会を下記の通り実施した。
日時：12月8・16日歌舞伎公演終了後（16:40から1時間程度）
ボランティア導入の検討並びに観客サービスのため、国立劇場内部見学会（舞台、情報館、本館展示室）を12月歌舞伎公演終了後、8日、16日の2日間において、職員によって実施。参加者誘導時の問題点を検証した。

7. イヤホンガイド、字幕表示の導入

(1) イヤホンガイドサービスの提供

ジャンル	実施公演数	内 訳
歌舞伎	7公演	教室を含む全公演（英語版も同様）
文楽	10公演	教室を含む全公演（英語版は本館5公演と文楽劇場2公演）
能楽	1公演	能楽鑑賞教室で試行

(2) 字幕表示

ジャンル	実施公演数	内 訳
歌舞伎	1公演	7月歌舞伎鑑賞教室
文楽	6公演	12・1・2月公演、7月公演（部分実施）、6・12月鑑賞教室
舞踊	4公演	9・10・11・3月公演
邦楽	4公演	7・10（琵琶の会・素浄瑠璃の会）・1月公演
声明	1公演	10月公演
特別企画	2公演	5・6月公演（新進舞踊・邦楽）
沖縄伝統芸能	30公演	すべての自主公演
オペラ	14公演	すべてのオペラ公演

【特記事項】

イヤホンガイドを能楽鑑賞教室で試験的に導入。3,500台の利用があった。
英語版イヤホンガイドを文楽劇場11月文楽公演で試行し、1月文楽公演より本格導入した。
文楽公演において字幕表示を17年1月以降すべて公演で実施することとした。

8. 要望・苦情への対応

(1) 要望・苦情等受付体制

- ・各劇場に「ご意見箱」を設置
- ・ホームページに「ご意見・ご感想欄」（国立劇場）、「ご意見箱」（新国立劇場）を設置
- ・公演等アンケート調査の実施

					・電話等による意見、要望、苦情の受付 (2) 要望・苦情等及び対応の状況 ①ご意見箱 461件 寄せられた意見については、集計の後、関係部署へ回覧し事業への反映を図った。住所等記載のあるものは都度回答した。(回答4件) ②ホームページの「ご意見・ご感想欄」(149件)・「ご意見箱」(245件) 寄せられた意見については、決められた連絡・責任体制に従って関係部署と協議等を行い、迅速な対応を図るとともに、必要に応じて回答した(回答84件)。 ③主な対応事例 ・受動喫煙を防止するため、灰皿の撤去・喫煙所の設置場所変更を行った。 ・売店で缶コーヒーのほかに新たにレギュラーコーヒーの提供を始めた。 ・トイレの案内表示について改善を行った。 ・小劇場から食堂(2階)・喫茶(3階)へ行くためのエレベーターについて設置を検討した。 ・ホームページに公演タイムテーブルを掲載した。 9. 売店、レストラン等の充実 食堂・売店に関するアンケートを、本館(公演アンケートと同時・12回実施)、能楽堂(10・2月の2回実施)、文楽劇場(1月1回実施)、新国立劇場(常時設置と公演時実施10回)の各館において適宜実施し、アンケート結果及びご意見箱に寄せられた観客の声をふまえ、食堂・売店とのミーティングを実施し、可能な限り対応を依頼した。 (主な対応) ・缶コーヒーのみでなくレギュラーコーヒーの売店販売を開始(本館) ・短時間で用意できるメニューを新たに追加(能楽堂) ・売店において能楽に関したものでなく、価格的に求めやすい商品を増加(能楽堂) 【特記事項】 国立劇場おきなわにおいては、16年9月より食堂・売店の運営業者が変更となったが、稽古・公演時の弁当の販売、自動販売機の設置等、利用者の利便性の向上に努めている。			
	会員数の確保	36,650人以上	25,655人以上 36,650人未満	25,655人未満	実績36,739人／目標36,650人(達成度100.2%)	A		

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

中期計画の各項目	指標又は評価項目	評 定 基 準			指標又は評価項目に係る実績	段階的評定	評 定 性 的 評 定 等			
		A	B	C			A	A		
収入面に関しては、実績を勘案しつつ、外部資金を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図る。 また、管理業務の効率化を進める観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営に努める。	収入の確保、効率的な予算の執行等	〔振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する〕			1. 財務状況	A	財務状況は良好である。日本芸術文化振興会の役割をふまえた管理運営及び事業の実施において、概ね適正な財務計画及び処理がなされているものと認められる。 【より良い事業とするための意見等】 今後とも外部資金の確保に向けた努力が望まれる。			
					【予算】					
					(単位：千円)					
					区 分					
					計画額					
					実績額					
					増△減					
					収 入					
					運営費交付金					
					雑収入					
					施設整備費補助金					
					公演事業収入 (注1)					
					公演受託事業収入					
					基金運用収入					
					寄附金収入					
					その他の収入 (注2)					
					計					
					支 出					
					一般管理費					
					うち人件費 (注3)					
					うち物件費 (注4)					
					事業費					
					うち人件費 (注3)					
					うち物件費 (注5)					
					施設整備費					
					公演事業費 (注6)					
					公演受託事業費					
					基金助成事業費 (注7)					
					計					
					主な増減理由					
					(注1) 劇場入場料の増					
					(注2) 助成金返還金の増					
					(注3) 退職手当の増					
					(注4) 翌期以降への繰越による減					
					(注5) 前期からの繰越額の利用による増					
					(注6) 公演費の節約による減					
					(注7) 助成金の減額・要望取下げによる減					
					【収支計画】					
					(単位：千円)					
					区 分					
					計画額					
					実績額					
					増△減					
					費用の部					
					一般管理費					
					うち人件費 (注1)					
					うち物件費					
					事業費					
					うち人件費					
					うち国立劇場等関係経費 (注2)					
					うち舞台芸術振興事業					
					公演事業費 (注3)					
					公演受託事業費					
					基金助成事業					
					うち人件費					
					うち物件費					
					減価償却費					
					その他 (注4)					
					計					
					収益の部					
					運営費交付金					
					雑収入					
					公演事業収入 (注5)					
					公演受託事業収入					
					基金運用収入					
					寄附金収入					
					資金見返運営費交付金戻入					
					資金見返寄附金戻入					
					貸倒引当金戻入					
					その他の収入 (注6)					
					計					
					純利益					
					積立金取崩額					
					総利益					
					主な増減理由					
					(注1) 予定外退職者の退職手当による支出増					
					(注2) 設備改修工事の実施による支出増					
					(注3) 公演費の節約による支出減					
					(注4) 決算修正による増					
					(注5) 入場者数の増加、施設貸与の増加に伴う収入増					
					(注6) 助成金返還金の増					
					【資金計画】					
					(単位：千円)					
区 分										
計画額										
実績額										
増△減										
資金支出										
業務活動による支出 (注1)										
投資活動による支出 (注2)										
財務活動による支出 (注3)										
翌年度への繰越金										
資金収入										
業務活動による収入										

運営費交付金による収入	12,053,000	12,053,030	30
公演事業による収入	2,698,000	2,535,225	△162,775
公演受託事業による収入	60,000	56,256	△3,744
基金運用による収入 (注4)	1,712,000	1,718,511	6,511
その他の収入 (注5)	46,000	9,183,498	9,137,498
投資活動による収入	3,556,000	9,905,805	6,349,805
施設整備費補助金による収入 (注6)	656,000	411,808	△244,192
その他の収入 (注7)	2,900,000	9,493,997	6,593,997
財務活動による収入	0	1,013	1,013
民間出えん金受入による収入	0	1,013	1,013
前年度よりの繰越金	348,000	2,783,889	2,435,889

主な増減理由

- (注1) 定期預金・投資有価証券の預入・取得による支出増
(注2) 固定資産の取得による支出増、定期預金・投資有価証券の預入・取得による支出増
(注3) リース債務の返済による支出
(注4) 償還時期集中緩和のための、前倒し売却に伴う運用収入増
(注5) 助成金返還金の増、定期預金の払戻、投資有価証券の売却による収入増
(注6) 補助金の一部が未収金となっているため
(注7) 定期預金の払戻、投資有価証券の売却による収入増

2. 剰余金

(1) 損益計算の結果、16事業年度の当期純利益は510,145千円である。

(2) 利益が生じた主な理由

- ① 公演事業においては、213,510千円の利益が生じた。その主な内容は次のとおり。
・主に文楽公演などの入場料収入が50,599千円の増収
・劇場使用料や駐車場使用料などの施設使用料収入が34,204千円の増収
・利息収入などの事業外収入が28,319千円の増収
・公演費などの公演事業費全体を100,388千円の削減
② 基金助成事業においては、147,728千円の利益が生じた。その主な内容は次のとおり。
・芸術文化振興基金の運用収入が6,415千円の増収
・助成金の未交付による80,900千円の支出減、助成金の返還による29,137千円の増収
・助成業務に係る経費32,789千円の削減
③ 利息収入の未収収益により142,619千円の利益が生じた。

3. 運営費交付金債務

(1) 16年3月31日現在における運営費交付金債務は144,952千円である。(単位：千円)

区 分	期首残高 ／受入額	当期収益化	期末残高
平成15年度運営費交付金	296,804	225,312	71,492
平成16年度運営費交付金	12,053,030	11,979,570	73,460
計	12,349,834	12,204,882	144,952

(2) 期末残高のうち繰り越して利用する運営費交付金債務の主な内容は次のとおりである。

- ① 平成15年度運営費交付金
・舞台芸術振興事業費に充当 27,157千円
② 平成16年度運営費交付金
・大小劇場施設改修工事 122,682千円
・大小劇場舞台設備改修工事 31,826千円
・舞台芸術振興事業費に充当 16,251千円
・その他 27,540千円

4. 積立金の状況

区 分	期首残高	当期増△減	期末残高
通則法44条1項積立金	281,876	8,072	289,948
通則法44条3項積立金	0	502,073	502,073
計	281,876	510,145	792,021

※目的積立金、当期増額502,073千円については申請予定金額である。

5. 外部資金の獲得状況 (14件、142,559千円)

- ・芸術祭主催公演等の受託事業収入 4件、103,216千円
・芸術祭主催公演等における負担金による収入 7件、37,280千円
・公演事業に係わる寄附金収入 1件、1,050千円
・芸術文化振興基金に対する民間出えん金 2件、1,013千円

6. 短期借入金

なし。

Ⅳ その他主務省令で定める業務運営に関する事項

中期計画の各項目	指標又は評価項目	評 定 基 準			指標又は評価項目に係る実績	評 定																									
		A	B	C		段階的評定	評 定 性 的 評 定 等																								
Ⅰ. 人事に関する計画	職員の計画的、適正な配置と人事交流の推進	〔振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する〕			1. 人事 (1) 職員の計画的かつ適正な配置 16年10月から実施した勤務評価記録書等の作成及び引き続き行っている身上調査における職員の希望の把握により、今後の組織機構の在り方や人員配置等の検討に資する情報を得ることができた。 計画的な職員数の削減及び組織のスリム化のため、組織の見直し・常勤職員数の抑制について検討した。 (2) 人事交流の推進 国の機関、国立大学法人等との人事交流を実施し、多様な人材の確保によって組織の活性化を推進した。また、国立劇場おきなわ運営財団及び新国立劇場運営財団に対し振興会職員を派遣し、国立劇場おきなわ及び新国立劇場における円滑な委託業務の実施に資することができた。 ・国の機関及び国立大学法人から出向者の受入（29人） ・国の機関への職員の派遣（2人） ・国立劇場おきなわ運営財団への職員の派遣（5人） ・新国立劇場運営財団への職員の派遣（13人） (3) 事務能率の維持、増進 ・事務能率の推進のため、主に中堅職員を対象とした自己啓発を目的とする研修を実施するとともに、専門的な知識や技能の修得を目的とする外部の研修にも積極的に職員を派遣した。 ・職員への福利厚生サービスのために民間企業と提携し、各種サービスの申込みのための総合窓口を設け、ホームページ等により職員への周知に努めた。 ・法定健康診断以外に、希望者に対して契約病院（3ヶ所）での人間ドック受診を実施した。 (4) 給与水準等の把握 振興会の職員が行う職務は、国の一般職俸給表（行政職俸給表一）の適用を受けるものと同等の職務であるとみなし、給与についても一般職の職員の給与に関する法律（一般職給与法）に準拠した給与制度で支給してきていることを前提に、これらとの比較を行った。（「独立行政法人の役員の報酬等及び職員の給与水準（平成16年度）」17年6月30日公表を参照） ① 職員の給与水準 ＜一般職俸給表適用者との比較＞ <table><tr><th>項 目</th><th>国の一般職（行一）適用者</th><th>振興会一般職俸給表適用者</th></tr><tr><td>平均年齢</td><td>40.2歳</td><td>44.4歳</td></tr><tr><td>学歴(大学卒の割合)</td><td>44.7%</td><td>73.5%</td></tr><tr><td>調整手当支給率</td><td>57.90%</td><td>100%</td></tr><tr><td>ラスバイレズ指数</td><td>100</td><td>98.9</td></tr></table> ＜他の独立行政法人との比較＞ 全独立行政法人を100とした場合のラスバイレズ指数 92.2 ② 常勤役員の年間報酬 <table><tr><th>項 目</th><th>理事長</th><th>理事平均</th><th>監 事</th></tr><tr><td>年間平均給与</td><td>19,349千円</td><td>16,060千円</td><td>14,516千円</td></tr></table> ③ 給与水準の分析 振興会の給与については、事業所の所在地が東京、大阪のみのため、特別調整手当等（民間における賃金、物価及び生計費が特に高い地域に在勤する役職員に支給されるもの）が全職員に支給されている。また、業務運営における専門性の確保の必要性等により、大学卒業者の採用を積極的に行ってきたため、大学卒の割合及び平均年齢が高い。ただし、一般職給与法適用者及び他の独立行政法人を下回る給与水準である。なお、他の独立行政法人の役員の報酬（16年度）については、現時点では公表されていない。	項 目	国の一般職（行一）適用者	振興会一般職俸給表適用者	平均年齢	40.2歳	44.4歳	学歴(大学卒の割合)	44.7%	73.5%	調整手当支給率	57.90%	100%	ラスバイレズ指数	100	98.9	項 目	理事長	理事平均	監 事	年間平均給与	19,349千円	16,060千円	14,516千円	A	A	円滑な委託業務に向けての努力として、2運営財団への振興会職員の派遣等は評価できる。適切な実施がなされているものと認められる。 【より良い事業とするための意見等】 より創造的・効率的な運営のための適正な人員配置の目配りがさらに望まれる。 17年度から2運営財団との人事交流、研修受け入れの促進が期待される。
	項 目					国の一般職（行一）適用者	振興会一般職俸給表適用者																								
平均年齢	40.2歳	44.4歳																													
学歴(大学卒の割合)	44.7%	73.5%																													
調整手当支給率	57.90%	100%																													
ラスバイレズ指数	100	98.9																													
項 目	理事長	理事平均	監 事																												
年間平均給与	19,349千円	16,060千円	14,516千円																												
事務能率の維持、増進																															

職員数の抑制	
--------	--

| 2. 施設及び設備に関する計画 | 計画に沿った整備の推進 | | | | 2. 施設 (1) 施設整備費補助金による施設・設備の整備等 | | | |-------------------|------------------| | ① 本館耐震補強整備 | 91,000千円（7～3月実施） | | ② 大小劇場舞台機構整備 | 93,104千円（7～1月実施） | | ③ 文楽劇場吊物駆動装置制御盤整備 | 36,855千円（12月実施） | | ④ 新国立劇場床機構整備 | 23,625千円（7～3月実施） | | ⑤ 国立劇場おきなわ土地購入 | 411,809千円 | 年度当初に不動産鑑定士による土地価格評価を行い、適正な価格にて予定より34㎡多い2,573㎡を購入 (2) 運営費交付金による施設・設備の整備 本館低圧幹線ケーブル更新工事、文楽劇場空調設備改修工事を行い、より安定した施設運用と省エネを図った。 本館大小劇場照明負荷回路ケーブル交換工事、文楽劇場負荷回路接続器等更新工事、文楽劇場舞台床張替工事などにより、経年劣化のため機能低下障害や故障発生が懸念される舞台機構装置機能維持と安全性を確保を図った。 また、本館楽屋浴室等改修、本館第9研修室改修、本館観客用便所洋風便器改修、本館所作台の更新、文楽劇場場内放送設備更新工事などを行い、サービスの向上を図った。 (3) 15年度より繰り越して実施した工事（運営費交付金債務） ① 大劇場舞台機構改修工事（スリッピング） 82,425千円（1～2月実施） ※スリッピングは廻り舞台の諸装置に電力を供給する機構 ② 小劇場舞台機構改修工事（廻り舞台駆動装置） 89,513千円（1～2月実施） (4) 17年度に繰り越して実施することとなった工事 本館3階試写室他改修工事、本館サイン工事 ほか | A | A | 老朽化対策の長期的見通しを立てて、適切な実施がなされているものと認められる。 【より良い事業とするための意見等】 |
| 3. その他振興会の業務の運営に関し必要な事項 | | | | | 3. 運営委託（国立劇場おきなわ、新国立劇場） (1) 国立劇場おきなわ運営委託（財団法人国立劇場おきなわ運営財団） ① 委託契約の状況 平成16年4月1日から17年3月31日までの組踊等沖縄伝統芸能に係る業務及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について810,300,000円を限度として締結。委託確定額は795,306,716円である。 ② 委託内容 ・公演の実施（沖縄伝統芸能等30公演） ・伝承者養成事業の準備業務 ・沖縄伝統芸能に関する調査研究、資料収集・活用業務 ・劇場施設の貸与（大劇場、小劇場） ・劇場施設の管理運営 ・その他附帯する業務 ③ 運営に関する協議及び報告の状況 ・業務委託に係る規程の制定及び改正を協議（旅費規程の一部改正、養成研修規程の制定） ・収支計画の流用を協議 | A | A | 適切な実施がなされているものと認められる。 新国立劇場については運営委託の利点が、約6億5千万円という民間資金導入等に認められた。国立劇場おきなわについては今後の展開を注視したい。 【より良い事業とするための意見等】 新国立劇場については公演運営費が全体の約42%を占める等、財政的に厳しいが、委託による費用削減の名目の下に、芸術的質的低下があってはならないだろう。 なお一層の効率化を期待したく、委託先における効率化状況を比較検討するためのデ |

			・各四半期終了後受託業務状況報告書を受領 ・委託期間終了後受託業務実績報告書を受領 ・物品取得報告書を受領 ④ 運営委託の方針・連絡体制の整備等 運営財団の業務内容が振興会年度計画に沿った形でより効率的に実施され、かつ成果があがるよう契約内容を整備し、振興会と運営財団が共通理解のもと劇場の管理運営に当たれるような環境の整備を行った。振興会と運営財団との間で、定期的に委託業務内容の調整及び報告をするための指針づくりを行った。また、月ごとに運営及び年度計画の実施に関する重要事項の報告を受ける月次報告を4月より開始した。さらに相互に出張することにより、劇場運営についての意見交換等を通じて、事業全体についてより良い結果が出せるよう調整を行った。 ⑤ 効率化状況等 a. 運営委託の実施による効果 直営の場合と比較して運営財団への委託により、人件費、役職員の派遣に係る諸費用、会議出席等連絡調整に係る諸費用を削減する効果がある。 加えて運営委託により、沖縄県の全面的な支援をはじめ、寄付金等資金面においても地元経済団体等民間の協力を得ることができる。沖縄芸能の事情に精通した人材を得られるほか、広報・宣伝についても積極的な協力を得ることができる。 直接経費に反映されない面についても地元自治体等の協力を得ることにより、直営と比べてもより効率的な業務の遂行が可能である。 b. 効率化の取組み ・委託費の支払いを月払いから四半期毎に変更、事務作業を効率化 ・運営財団における物品の取得に関して月次報告を実施するとともに、購入に際して事前報告を求めるよう連絡体制を変更 c. 委託先における業務効率化状況 ・館内LANを活用により各種事務連絡・通知、公演予定等をデータ化（ペーパレス化の推進） ・施設及び設備管理業務について11件の一般競争入札を実施 ・事務決裁規程の運用について見直しを行い、決裁事務を簡素化 ・旅費の抑制を図るため旅費規程を一部改正（17年度より施行） ・企画・運営委員会、幹事を設置（業務改善に向けて18項目の協議事項を審議） ・公演事業委員会において、15事業年度評価及び今後の公演事業の在り方について審議 ・公益法人会計研修 九州地区著作権セミナー等各種研修へ職員を派遣 (2) 新国立劇場運営委託（財団法人新国立劇場運営財団） ① 委託契約の状況 平成16年4月1日から17年3月31日までの現代舞台芸術に係る業務及び劇場の管理運営に関する業務委託契約を5,107,980,000円を限度として締結。委託確定額は5,107,980,000円である。 ② 委託内容 ・公演の実施（オペラ14公演、バレエ6公演、現代舞踊4公演、演劇11公演） ・研修事業の実施（オペラ研修：5期～7期生、バレエ研修：2期生） ・劇場施設の貸与（オペラ劇場、中劇場、小劇場） ・劇場施設の管理運営 ・その他附帯する業務（教育普及、国際交流等） ③ 運営に関する協議及び報告の状況 ・業務委託に係る関係する規程の改正を協議 ・業務委託契約の変更について協議 ・収支計画の流用を協議 ・各四半期終了後受託業務状況報告書を受領 ・委託期間終了後受託業務実績報告書を受領 ④ 運営委託の方針・連絡体制の整備等 振興会でを行っている業務運営の形態等を基準に、受託者が多様な手段により相当の自己収入を確保することを前提とし、必要最小限のコストで最大の効果をする契約内容とした。 効率的な業務運営のため委託先より状況報告書・実績報告書を定期的に提出させ、効率化状況を把握した。具体的には自己収入確保に重要な入場者数を各公演ごとに確認した。 ⑤ 効率化状況等 a. 運営委託の実施による効果 直営の場合と比較して運営財団への委託により、振興会では組織のできない寄附を募るための支援協議会を設置するなど、委託先の自助努力により多額の収入を確保している。協議会の構成員は新国立劇場の趣旨に賛同した民間人であり、全員が財団法人の経営に関与する理事・評議員に就任している。 また、これまで伝統芸能の保存・振興のため国立劇場の施設運営を行ってきた振興会が、直接現代舞台芸術の振興・普及についての業務を実施するより、運営委託をすることにより、既存の民間の人材や支援体制の活用が図られ、直営と比べより効率的・効果的な業務の遂行が可能である。さらに直接経費に反映されない面についても現代舞台芸術の振興に関心の高い民間企業や国内芸術団体等の積極的な協力を得ることができる。 b. 効率化の取組み ・運営財団における物品の取得に関して月次報告を実施 ・収支計画書の科目を事業費と管理費に整理 c. 委託先における業務効率化状況 ・評価委員会及び専門委員会において、15事業年度評価及び16事業年度上半期評価について審議 ・観劇環境の醸成を図るための検討チームを設置し、具体的提案をとりまとめた。一部の提案については、今年度中に改善措置を講じた。 ・公益法人会計研修等各種研修へ職員を派遣	タを次年度の評価に提出されることを望みたい。
--	--	--	--	-------------------------------